

# 姫路文学館年報

令和4年度(2022年度)事業報告

第31号



## ごあいさつ

姫路文学館は、平成3年4月に開館して以来、31年間にわたり、郷土の文学遺産を支え、文化的土壌を育むべく多彩な事業を実施してまいりました。その間、当館の発展のためにご協力くださいました皆様方に心から感謝申し上げます。

令和4年度は、養父市に生まれ、忍法帖シリーズなどの人気作を生み出した小説家 山田風太郎の生涯と作品の魅力を紹介した「生誕100年記念 山田風太郎展」、絵本作家 長谷川義史氏のユーモアあふれる作品の数々を展示した「とびだせ！長谷川義史展」、赤穂市出身の歴史学者 西山松之助の生涯と業績を振り返った「没後10年 西山松之助展 ある文人歴史家と江戸学の軌跡」の3つの特別展を開催しました。

さらに企画展として、揖保郡太子町出身の歌人・安田青風の生涯と、歌の世界の独自性を取り上げた「没後40年記念 歌人安田青風展」を開催。南館のさんかくギャラリーでは、山田風太郎展との同時開催で、相生市出身の作家竹本健治氏の呼びかけで集まった30人のミステリ作家の〈楽描き〉や写真を展示した「ミステリ作家たちの横顔展 in 姫路」も開催し、秋に開いた「俳人夏石番矢のパンデミック下でのたたかい展—『世界俳句』を主導して—」では、「世界俳句」の国籍を超えた取り組みも紹介しました。

毎年司馬遼太郎氏の誕生日8月7日に開催してまいりました「司馬遼太郎メモリアル・デー」では、国際日本文化研究センター所長の井上章一氏にご講演いただき、盛況のうちに終えることができました。35回目を迎えた和辻哲郎文化賞は、一般部門に多胡吉郎氏、学術部門に渋谷治美氏のご労作が受賞作に選ばれました。

コロナ禍を経て少しずつ活気が戻りつつあります。これまでに経験を積み重ねた感染症対策やオンライン事業のノウハウも活用しながら、今後も幅広い活動を展開してまいりたいと存じます。

今までと変わらぬご厚情とともに、ますますのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

令和5年（2023）9月

館長 藤原正彦

## 目次

ごあいさつ	2
目次	3
第35回和辻哲郎文化賞	4
<b>事業報告</b>	
1 展覧会	
（1）特別展「生誕100年記念 山田風太郎展」	10
（2）山田風太郎展 同時開催「ミステリ作家たちの横顔展 in 姫路」	18
（3）特別展「とびだせ！長谷川義史展」	19
（4）「俳人夏石番矢のパンデミック下でのたたかい展—『世界俳句』を主導して—」	23
（5）特別展「没後10年 西山松之助展 ある文人歴史家と江戸学の軌跡」	25
（6）企画展「没後40年記念 歌人安田青風展」	33
2 第1回藤原正彦姫路文学館長講演会	40
3 第24回司馬遼太郎メモリアル・デー	41
4 第8回藤原正彦エッセイコンクール	42
5 第11回「世界にひとつの絵本づくり」	43
6 第11回KOTOBAMAまつり	44
7 第14回如月まつり	45
8 講座・読書会	
（1）古典文学講座「源氏物語の世界」	46
（2）文学思想講座「よりよく自己を生きるために 「広く」そして「深く」	46
（3）市民名作講座「近現代文学中の名作」に挑む	47
（4）「司馬遼太郎の「胡蝶の夢」「花神」「西域をゆく」「歴史と風土」などを読む」読書会	48
9 「トライやる・ウィーク」・博物館実習	49
10 出前講座	50
11 出版活動	51
<b>資料概要</b>	
1 資料収集状況	52
2 協力者一覧	54
3 文学館資料の出版物等掲載状況	56
<b>運営管理</b>	
1 利用状況	57
（1）入館者数	57
（2）団体見学受付状況	59
（3）館使用者数	60
（4）資料特別観覧申請	61
（5）出版物等販売数	62
2 組織および分掌事務	64
3 予算の概要	65
<b>施設の概要</b>	66
日誌抄	70
姫路文学館友の会	72
沿革	75
条例規則集	77
利用案内	85

# 第35回和辻哲郎文化賞

姫路市制百周年と姫路出身の哲学者和辻哲郎の生誕百年を記念して、昭和63年度に姫路市が創設。和辻哲郎の幅広い学的業績を顕彰し、その著作の今日的意義を国の内外にわたって探るとともに、研究者の育成かつ市民の文化水準の向上に資することを目的とする。

一般部門は、和辻哲郎が文学、歴史、芸術など、さまざまな領域において横断的かつユニークな著作を世に問い、広範な読者に訴えかけたスケールの大きな学者であったことに鑑み、文化一般におけるすぐれた著作に与えられる。

学術部門は、和辻哲郎が専門とした哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化といった領域での学術的水準を備えた、すぐれた論文に与えられる。

授賞式典は和辻哲郎の生誕日が3月1日であることに因み、3月の第1日曜日に姫路にて開催する。

## 1 対象

### ○一般部門

令和3年(2021年)9月1日から令和4年(2022年)8月31日までに発刊された(復刊は除く)著作物(単行本)の中で、日本文化、伝統文化、風土と人間生活の関連等に関するもので国際的普遍性、斬新な視点及び深い思索性を有する評論。

### ○学術部門

令和3年(2021年)9月1日から令和4年(2022年)8月31日までに発刊された(復刊は除く)著作物(単行本)の中で、哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化等に関するもので高い水準に達した研究。

## 2 募集方法

自薦・他薦を問わず、推薦作を一般に募る。また全国の大学等研究機関、新聞社、出版社、研究者等にも推薦を依頼する。締切は令和4年(2022年)9月2日。

## 3 選考委員

### ○一般部門

阿刀田 高(作家)

辻原 登(作家)

山内 昌之(東京大学名誉教授)

### ○学術部門

清水 正之(聖学院大学学長)

野家 啓一(東北大学名誉教授)

関根 清三(東京大学名誉教授)

令和5年1月に選考委員会を開催し、受賞作を決定した。

### ○一般部門 選考委員会

令和5年1月16日開催。会場：學士会館

### ○学術部門 選考委員会

令和5年1月15日開催。方法：オンライン会議

## 4 推薦会

選考手続の補助として、令和4年度は以下の諸氏による推薦会を実施した。

### ○一般部門

大森 亮尚(古代民俗研究所代表)

石川 肇(京都日本文化資源研究所所長)

大塚 健洋(姫路獨協大学教授)

岡田 勝明（姫路獨協大学名誉教授）  
塩出 雅（武庫川女子大学名誉教授）  
島村 恭則（関西学院大学教授）  
通山 由美（姫路獨協大学教授）  
林 裕美子（前エリザベト音楽大学教授）  
松宮 園子（関西学院大学教授）  
柳澤 田実（関西学院大学准教授）

○学術部門

荒谷 大輔（江戸川大学教授）  
植村恒一郎（群馬県立女子大学名誉教授）  
勢力 尚雅（日本大学教授）  
三重野清顕（東洋大学教授）  
頼住 光子（東京大学大学院教授）

9月～12月にかけて全3回の推薦会を開催し、選考委員会に推薦する最終候補作5点を選考する作業を行った。オンライン会議システムを併用して開催した。

○一般部門 推薦会

第1回 令和4年9月16日開催 会場：姫路文学館（オンライン会議を併用）  
第2回 令和4年11月13日開催 会場：姫路文学館（オンライン会議を併用）  
第3回 令和4年12月3日開催 会場：姫路文学館（オンライン会議を併用）

○学術部門 推薦会

第1回 令和4年9月30日開催 会場：學士会館  
第2回 令和4年11月12日開催 方法：オンライン会議  
第3回 令和4年12月4日開催 方法：オンライン会議

## 5 賞

- 正 賞 蒔絵千姫源氏絵羽子板  
（千姫が男山の天満神社に奉納したという羽子板を模した蒔絵漆芸品）  
○副 賞 100万円

### 第35回和辻哲郎文化賞受賞作

○一般部門

多胡 吉郎（作家）

『生命（いのち）の罅 川端康成と「特攻」』

（令和4年2月28日刊 現代書館）

従軍作家として鹿児島県鹿屋海軍航空基地に赴任した川端康成の戦争体験を明らかにし、戦争に直面した作家の葛藤と作品の繋がりを論じるという新たな視点で、生命の在り方と向き合い続けた作家・川端康成の姿を浮かび上がらせた意欲作。



○学術部門

渋谷 治美（埼玉大学名誉教授）

『カントと自己実現一人間讃歌とそのゆくえ』

（令和3年10月25日刊 花伝社）

カント研究の第一人者である著者の長年の集大成であり、テキストの精緻な解釈に基づきながらニヒリズムの超克とヒューマニズムの精神という新しいカント像を提示した力作。



応募点数の実績

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回
一般部門	56	72	81	97	149	135	132	177	204	206	170	153	124	108	89
学術部門	10	22	41	70	61	62	77	75	125	87	99	63	79	83	72
合計	66	94	122	167	210	197	209	252	329	293	269	216	203	191	161

	16回	17回	18回	19回	20回	21回	22回	23回	24回	25回	26回	27回	28回	29回	30回
一般部門	98	102	110	105	101	90	109	95	98	115	111	123	132	138	130
学術部門	58	53	51	55	74	61	89	66	56	74	93	63	82	71	95
合計	156	155	161	160	175	151	198	161	154	189	204	186	214	209	225

	31回	32回	33回	34回	35回
一般部門	150	108	119	109	92
学術部門	70	86	70	65	62
合計	220	194	189	174	154

第35回和辻哲郎文化賞授賞式

毎年3月の第1日曜日に開催し、式典と著名な作家等を招いての記念講演会を催す。

日時 令和5年3月5日（日） 午後1時30分～4時

会場 姫路市市民会館 大ホール

内容 《第1部》授賞式典

選考経過 阿刀田高（一般部門）

清水正之（学術部門）

《第2部》記念講演会

講師／土井善晴（料理研究家）

演題／風土に生まる料理から人間を考える



左から受賞者の渋谷治美氏、多胡吉郎氏



土井善晴氏

## これまでの受賞作

### 第1回（昭和63年度）

一般部門 大久保喬樹『岡倉天心 驚異的な光に満ちた空虚』（小沢書店）

学術部門 ウィリアム・R・ラフルーア「廃墟に立つ理性—戦後合理性論争における和辻哲郎の位相」（『戦後日本の精神史』（岩波書店）所収）

### 第2回（平成元年度）

一般部門 宇佐美斉 『落日論』（筑摩書房）

学術部門 上山安敏 『フロイトとユング—精神分析運動とヨーロッパ知識社会』（岩波書店）

### 第3回（平成2年度）

一般部門 中西 進 『万葉と海彼』（角川書店）

学術部門 永積洋子 『近世初期の外交』（創文社）

### 第4回（平成3年度）

一般部門 野口武彦 『江戸の兵学思想』（中央公論社）

学術部門 ヘルマン・オームス『徳川イデオロギー』（ペリかん社）

### 第5回（平成4年度）

一般部門 郡司正勝 『郡司正勝刪定集』全六巻（白水社）

学術部門 大森荘蔵 『時間と自我』（青土社）

### 第6回（平成5年度）

一般部門 土居良三 『咸臨丸海を渡る—曾祖父・長尾幸作の日記より』（未來社）

学術部門 加藤尚武 『哲学の使命—ヘーゲル哲学の精神と世界』（未來社）

### 第7回（平成6年度）

一般部門 堀田善衛 『ミシェル城館の人』全三巻（集英社）

〃 山内 昶 『「食」の歴史人類学—比較文化論の地平』（人文書院）

学術部門 関根清三 『旧約における超越と象徴—解釈学的経験の系譜』（東京大学出版会）

### 第8回（平成7年度）

一般部門 井上義夫 『評伝 D. H. ロレンス』全三巻（小沢書店）

学術部門 阿部良雄 『シャルル・ボードレール【現代性の成立】』（河出書房新社）

### 第9回（平成8年度）

一般部門 長谷川三千子『バベルの謎—ヤハウイストの冒険』（中央公論社）

学術部門 小野清美 『テクノクラートの世界とナチズム—「近代超克」のユートピア—』（ミネルヴァ書房）

### 第10回（平成9年度）

一般部門 徳永 恂 『ヴェニスへのゲッターにて—反ユダヤ主義思想史への旅』（みすず書房）

学術部門 一ノ瀬正樹『人格知識論の生成—ジョン・ロックの瞬間』（東京大学出版会）

### 第11回（平成10年度）

一般部門 嶋田義仁 『稲作文化の世界観—「古事記」神代神話を読む』（平凡社）

学術部門 佐々木毅 『プラトンの呪縛—二十世紀の哲学と政治』（講談社）

### 第12回（平成11年度）

一般部門 西村三郎 『文明のなかの博物学—西欧と日本』（紀伊國屋書店）

〃 渡辺京二 『逝きし世の面影—日本近代素描 I』（葦書房）

学術部門 宇都宮芳明『カントと神—理性信仰・道徳・宗教』（岩波書店）

### 第13回（平成12年度）

一般部門 稲賀繁美 『絵画の東方—オリエンタリズムからジャポニスムへ』（名古屋大学出版会）

学術部門 小林道夫 『デカルト哲学とその射程』（弘文堂）

### 第14回（平成13年度）

一般部門 岡野弘彦 『折口信夫伝—その思想と学問』（中央公論新社）

〃 山折哲雄 『愛欲の精神史』（小学館）

学術部門 ケイト・W・ナカイ『新井白石の政治戦略—儒学と史論』（東京大学出版会）

### 第15回（平成14年度）

一般部門 長部日出雄『桜桃とキリスト—もう一つの太宰治伝』（文藝春秋）

- 学術部門 木村 敏 『木村敏著作集第七巻 臨床哲学論文集』(弘文堂)  
 〃 植村恒一郎 『時間の本性』(勁草書房)
- 第16回 (平成15年度)  
 一般部門 秋山 駿 『神経と夢想 私の『罪と罰』』(講談社)  
 学術部門 塩川徹也 『バスカル考』(岩波書店)
- 第17回 (平成16年度)  
 一般部門 平川祐弘 『ラフカディオ・ハーン 植民地化・キリスト教化・文明開化』(ミネルヴァ書房)  
 学術部門 井上達夫 『法という企て』(東京大学出版会)
- 第18回 (平成17年度)  
 一般部門 新倉俊一 『評伝 西脇順三郎』(慶應義塾大学出版会)  
 学術部門 佐藤康邦 『カント『判断力批判』と現代一目的論の新たな可能性を求めて一』(岩波書店)
- 第19回 (平成18年度)  
 一般部門 大泉光一 『支倉常長 慶長遣欧使節の真相—肖像画に秘められた実像—』(雄山閣)  
 学術部門 今道友信 『美の存立と生成』(ピナケス出版)
- 第20回 (平成19年度)  
 一般部門 岩下尚史 『芸者論 神々に扮することを忘れた日本人』(雄山閣)  
 学術部門 伊藤邦武 『バースの宇宙論』(岩波書店)
- 第21回 (平成20年度)  
 一般部門 岡谷公二 『南海漂蕩 ミクロネシアに魅せられた土方久助・杉浦佐助・中島敦』(富山房インターナショナル)  
 学術部門 森 一郎 『死と誕生 ハイデガー・九鬼周造・アーレント』(東京大学出版会)
- 第22回 (平成21年度)  
 一般部門 今橋理子 『秋田蘭画の近代 小田野直武「不忍池図」を読む』(東京大学出版会)  
 学術部門 互 盛央 『フェルディナン・ド・ソシュール 〈言語学〉の孤独、「一般言語学」の夢』(作品社)
- 第23回 (平成22年度)  
 一般部門 杉田弘子 『漱石の『猫』とニーチェ 稀代の哲学者に震撼した近代日本の知性たち』(白水社)  
 学術部門 権左武志 『ヘーゲルにおける理性・国家・歴史』(岩波書店)
- 第24回 (平成23年度)  
 一般部門 末延芳晴 『正岡子規、従軍す』(平凡社)  
 学術部門 中畑正志 『魂の変容 心的基礎概念の歴史的構成』(岩波書店)
- 第25回 (平成24年度)  
 一般部門 劉 岸偉 『周作人伝 ある知日派文人の精神史』(ミネルヴァ書房)  
 安住恭子 『『草枕』の那美と辛亥革命』(白水社)  
 学術部門 中島隆博 『共生のプラクシス 国家と宗教』(東京大学出版会)
- 第26回 (平成25年度)  
 一般部門 池田美紀子 『夏目漱石 眼は識る東西の字』(国書刊行会)  
 学術部門 野本和幸 『フレーゲ哲学の全貌 論理主義と意味論の原型』(勁草書房)
- 第27回 (平成26年度)  
 一般部門 亀井俊介 『有島武郎 世間に対して真剣勝負をし続けて』(ミネルヴァ書房)  
 学術部門 稲垣良典 『トマス・アクィナスの神学』(創文社)  
 『トマス・アクィナス 「存在」の形而上学』(春秋社)
- 第28回 (平成27年度)  
 一般部門 勝又 浩 『私小説千年史 日記文学から近代文学まで』(勉誠出版)  
 学術部門 佐藤 光 『柳宗悦とウィリアム・ブレイク 環流する「肯定の思想」』(東京大学出版会)
- 第29回 (平成28年)  
 一般部門 山口謠司 『日本語を作った男 上田万年とその時代』(集英社インターナショナル)  
 学術部門 野矢茂樹 『心という難問 空間・身体・意味』(講談社)
- 第30回 (平成29年度)  
 一般部門 保阪正康 『ナショナリズムの昭和』(幻戯書房)  
 学術部門 竹峰義和 『〈救済〉のメーディウム ベンヤミン、アドルノ、クルーゲ』(東京大学出版会)



第31回（平成30年度）

一般部門 平川 新 『戦国日本と大航海時代 秀吉・家康・政宗の外交戦略』（中央公論新社）

学術部門 石川 求 『カントと無限判断の世界』（法政大学出版局）

第32回（平成31年度／令和元年度）

一般部門 白川方明 『中央銀行 セントラルバンカーの経験した39年』（東洋経済新報社）

学術部門 松井裕美 『キュビズム芸術史 20世紀西洋美術と新しい〈現実〉』（名古屋大学出版会）

第33回（令和2年度）

一般部門 サンドラ・シャール『『女工哀史』を再考する 一失われた女性の声を求めて』（京都大学学術出版会）

学術部門 宮本久雄 『パウロの神秘論 他者との相生の地平をひらく』（東京大学出版会）

第34回（令和3年度）

一般部門 三浦 篤 『移り棲む美術 ジャポニスム、コラン、日本近代洋画』（名古屋大学出版会）

学術部門 納富信留 『ギリシア哲学史』（筑摩書房）

# 事業報告

## 1 展覧会

### (1) 特別展「生誕100年記念 山田風太郎展」

兵庫県養父市出身の作家山田風太郎（1922～2001）の生誕100年を記念して開催した展覧会。

本展では、晩年まで使用されたノートや草稿などを3章に分けて紹介しながら、風太郎の人生とその創作活動を通観し、奇想の源泉を辿った。さらに、映画化した作品をはじめ、近年漫画化した『風太郎不戦日記』（勝田文・作 講談社）生原稿なども展示し、愛され、生き続ける風太郎作品の現在にもスポットを当てた。

会期中には、風太郎の親戚にあたるシンガー、土岐麻子さんも来館。多くの来館者から、未発表のアイデアノートや、息遣いの感じられる書斎机に感動したとの感想が寄せられ、風太郎の作家人生や、今なお新鮮な魅力を失わない作品の輝きを楽しんでいた。



会 期	令和4年（2022）4月16日（土）～6月5日（日） ※休館日：毎週月曜日 ただし、5月2日（月）は開館。
会 場	姫路文学館 北館
観 覧 料	一般700円、大学・高校生400円、中学・小学生200円 ※20名以上の団体は2割引
主 催	姫路文学館
特別協力	山田風太郎記念館、谷口基（茨城大学教授）
後 援	朝日新聞姫路支局、NHK神戸放送局、神戸新聞社、産経新聞社、 サンテレビジョン、播磨時報社、播磨リビング新聞社、姫路ケーブルテレビ、 姫路シティFM21、毎日新聞姫路支局、読売新聞姫路支局、ラジオ関西
開催日数	45日間
観覧者数	2,247人
出品点数	約350点
印刷物等	ポスターA3、B2、B3／チラシA4
図 録	A4判 40ページ オールカラー 500部 令和4年4月16日刊行 販売価格1,000円 〔資料解説〕 「壮大なる〈虚〉と、偉大なる〈知〉と —山田風太郎の自筆資料について」 谷口基（茨城大学教授） 〔寄稿〕 各章解説 日下三蔵（ミステリ評論家） 『幻燈辻馬車』中島京子（小説家） 「山田風太郎の死生観と『警視庁草紙』」米澤穂信（小説家）



図録



水屋珈琲（南館1階）提供コラボメニュー 「トーストサンドごちそうセット」



第1会場



第2会場

### 関連行事

※会場はすべて姫路文学館講堂

(1) 記念講演会「風太郎文学の奇想と普遍性」

日時 令和4年4月16日(土) 午後1時30分～3時

講師 谷口基(茨城大学教授)

参加者 100人



谷口基氏

(2) 展示解説会

日時 令和4年5月8日(日) 午後1時30分～3時

講師 担当学芸員

参加者 50人

(3) 朗読会～『戦中派虫けら日記』より～

日時 令和4年5月14日(土) 午後1時30分～3時

出演 音訳ボランティアグループ サークルさえずり

参加者 50人



音訳ボランティアグループ サークルさえずり

# 出品目録

(所蔵欄に記載のないものは、すべて山田風太郎記念館蔵)

テーマ	資料名	年代(刊行等)、出版社	所蔵者・提供者	
第1章 風一わが家は幻の中 故郷・関宮	写真 関神社(兵庫県養父市)※新撮			
	写真 父・太郎、母・壽子			
	写真 生家 ※新撮			
	父・山田太郎の日記	大正4年(1915)1月10日～12月26日		
	原稿「遠い日の関宮」			
	父の写真帖			
	薬箱に入った五月人形			
	略家系図(パネル)			
	写真 父と	大正11年(1922)		
	写真 幼い頃の誠也			
	母手縫いの着物			
	母手作りのベスト			
	2歳の頃の写真(実物)	大正13年(1924)頃		
	山田禎三宛山田太郎書簡	大正12年(1924)頃		
	写真 3歳頃の誠也 父、祖父と			
写真 3歳頃の誠也				
「少年倶楽部」と誠也	「少年倶楽部」(復刻版)第18巻11号	昭和6年(1931)11月	大日本雄弁会 講談社	
	豊岡中学時代、級友の教科書に誠也が書いた落書き			
	学生時代の授業プリントの裏面			
	「少年倶楽部」(復刻版)第20巻10号	昭和8年(1933)10月1日	大日本雄弁会 講談社	
「山田、列外へ!」一少年時代関宮から諸寄へ	風太郎旧蔵『山口将吉郎画集』			
	写真 旧関宮小学校校庭			
	写真 小学生時代			
	写真 関宮尋常小学校3年生のクラス写真			
	幼少期に愛用した財布			
	小刀			
	諸寄時代のランドセル			
	写真 母の実家 諸寄・旧小畑医院			
	写真「二歳の自分・八歳の自分」			
	写真 小畑稲升			
旧制豊岡中学校時代	筆立て			
	豊岡中学文芸誌「達徳」第50号	昭和14年(1939)12月20日		
	写真 豊岡中学校校門			
	写真 豊岡中学校交友会誌「達徳」編集部			
	「受験旬報」昭和15年2月上旬号	昭和15年(1940)	旺文社	
	「受験旬報」合格記念メダル			
	「受験旬報」昭和15年4月下旬号	昭和15年(1940)	旺文社	
	『山田風太郎初期作品集 橘傳來記』	平成20年(2008)	出版芸術社	
写真 奈良本辰也				
寄宿舎の“天国荘”	写真 豊岡中学校寄宿舎「和魂寮」			
	写真 豊岡中学校寄宿舎誕生会			
	「天国荘綺談」／「宝石」	昭和25年(1950)1月号	岩谷書店	世田谷文学館蔵
	『天国荘綺談』	昭和29年(1954)7月	春陽堂書店	
	「蛍雪時代」附録 困った連中・青春探偵団	昭和46年(1971)8月	旺文社	
	『青春探偵団』	平成22年(2010)3月	ポプラ文庫	
	写真 中学5年のクラス写真			
	写真 卒業アルバム(誠也)			
豊岡中学校外寄宿舎「洗心寮」	写真 校外宿舎洗心寮にて			
	豊岡中学校卒業アルバム			
	卒業アルバムより 寄せ書き(「本圖案は我が作なり」)			
	卒業アルバムより 修学旅行 京都御所前写真			
	写真 中学校4年生の時、友人と			
映画館への逃避	写真 中学4年生の頃 友人と	昭和14年(1938)		

	『映画朝日』『読者入選随筆 中學生と映画』（参考図版）	昭和15年(1940)2月 東京朝日新聞社・大阪朝日新聞社	国立国会図書館蔵
戦時中の出奔	旧制豊岡中学校時代の剣道具		
	写真 父方の叔父 山田禎蔵		
	写真 叔母ふじゑ(禎蔵の妻)		
	写真 20歳の頃		
	日記	昭和17年(1942)11月25日～18年(1943)3月31日	世田谷文学館蔵
	日記	昭和18年(1943)12月27日～19年(1944)6月26日	世田谷文学館蔵
	吉田靖彦宛書簡	昭和18年(1943)8月12日	
	写真 沖電気品川工場		沖電気株式会社提供
	写真 大橋図書館		沖電気株式会社提供
	読書余滴	昭和18年(1943)	
	山田ふじゑ宛誠也書簡	昭和18年(1943)8月31日	
召集令状をうけ叔父と姫路へ	写真 姫路城南練兵場観兵式(高橋新吉コレクション)		兵庫県立歴史博物館蔵
	写真 白鷺城天守より姫路市街の遠望(高橋新吉コレクション)		兵庫県立歴史博物館蔵
	写真 大野町たるや旅館の大街灯(高橋新吉コレクション)		兵庫県立歴史博物館蔵
軍都姫路	姫路市街全図	昭和6年(1931)9月 赤西萬有堂	館蔵
	小西哲夫宛書簡	年月日不明	
	吉田靖彦宛書簡	昭和19年(1944)5月頃	
	吉田靖彦宛書簡	昭和19年(1944)9月13日	
	関宮・山田医院の待合室に置かれた風太郎作品の切り抜き		
背中合わせの死	『風太郎不戦日記』(勝田文)第10話カラー原画		講談社蔵
	『同日同刻 太平洋戦争開戦の一日と終戦の十五日』	昭和57年(1982)立風書房	
	太平洋戦争に関する覚書ノート		
	写真 東京医科大学基礎医学教室	昭和5年(1930)	東京医科大学所蔵
	写真 22歳の誠也	昭和19年(1944)	
	写真 東京医学専門学校心理学研究会	昭和19年(1944)	
	東京医学専門学校在学中のスケッチ〔表〕解剖図	昭和19年(1944)5月8日	
	東京医学専門学校図書室 疎開書籍目録(参考図版)		東京医科大学所蔵
	写真 飯田市東京医専大和寮前にて疎開終了記念写真	昭和20年(1945)10月	
	『同日同刻』	昭和57年(1982)立風書房	
	『同日同刻』ノート 2冊		
	太平洋戦争に関する覚書ノート 11冊		
	スケッチブック	昭和19年(1944)8月30日	
	日記	昭和20年(1945)8月～昭和21年(1946)11月	世田谷文学館蔵
	日記	昭和21年(1946)11月23日～22年(1947)1月10日	世田谷文学館蔵
	『戦中派不戦日記』	昭和46年(1971)2月 番町書房	
	『太陽黒点』	昭和48年(1973)8月 大和書房	
	『滅失への青春 戦中派虫けら日記』	昭和48年(1973)	
	『戦中派焼け跡日記 一昭和21年』		
	『戦中派闇市日記 一昭和22・23年』		
	『戦中派動乱日記 一昭和24・25年』		
	『戦中派復興日記 一昭和26・27年』		
	山田風太郎デジタル資料公開		
資料解説(谷口基氏)	小説腹案集Ⅰ 1-110		
	小説腹案集Ⅱ 111-130		
	「絵草紙紅葉館ほか」		
	「室町を駱駝が通る」5アラビア人との違和感		
<b>第2章 光一腹案は山ほどあり</b>			
医学生探偵作家	書斎 机・椅子		
	写真 自宅書斎にて		
	写真 新人作家コンクール入選発表記事(「旬報ニュース48号」)	昭和23年(1948)	
	写真 作家デビューの頃 江戸川乱歩と(探偵作家クラブ賞授賞式)	昭和23年(1948)2月	
	写真 インターン先の新宿淀橋病院屋上にて		
	東京医科専門学校時代に原稿料で購入した医学書		
	「皮膚科・繻帯学」ノート(東京医科大学三學年)	昭和22年(1947)2月	
	藤田園子『小さな診療所余話』	平成18年(2006)12月 文芸社	個人蔵
	創作ノート「天使の復讐」ほか4編(表紙「東京医科大学-show22-」)	昭和22年(1947)	世田谷文学館蔵
	「探偵作家クラブ会報No.27」	昭和24年(1949)8月	世田谷文学館蔵
	「探偵作家クラブ会報No.62 JUL.1952」	昭和27年(1952)7月	世田谷文学館蔵

東京医科大学学生証			
東京医科大学卒業証書	昭和 24 年(1949)3 月 20 日		
ノート「推理小説研究 2」	昭和 22 年 (1947) 5 月 1 日～		世田谷文学館蔵
日記	昭和 21 年(1946)7 月 6 日～9 月 1 日		世田谷文学館蔵
写真 昭和 30 年(1955)1 月 22 日、柳橋にて	昭和 30 年(1955)1 月 22 日		
風太郎による雑誌「宝石」挿絵			
小説腹案集 (紙 5 枚)			世田谷文学館蔵
「宝石」(山田風太郎旧蔵書)	昭和 26 年(1951)3 月 1 日		
『眼中の悪魔』	昭和 23 年(1948)11 月 岩谷書店		
「宝石」第 2 巻第 9 号	昭和 22 年(1947)10 月 岩谷書店		世田谷文学館蔵
「別冊宝石」探偵作家クラブ受賞作家集号	昭和 31 年(1956)1 月 10 日		
「La Comedie Humaine」ノート(自筆部分 6 枚)(原稿「乳房」、原稿「紫陽花の君」、原稿「雪女」)	昭和 20 年(1945)		世田谷文学館蔵
ノート「推理小説研究 5」(自筆部分 8 枚)(原稿「みささぎ盗賊」、原稿「歯車」、原稿「うんこ殺人」)	昭和 22 年(1947)		世田谷文学館蔵
「笑う肉仮面」他創作メモ			世田谷文学館蔵
「ロック」第 2 巻第 9 号	昭和 22 年(1947)10 月 1 日 筑波書林		世田谷文学館蔵
「新青年」第 30 巻第 10 号	昭和 24 年(1949)11 月		個人蔵
「新青年」第 31 巻第 2 号	昭和 25 年(1950)2 月		個人蔵
「あまとりあ」第 2 巻第 7 号	昭和 27 年(1952)6 月 あまとりあ社		世田谷文学館蔵
日記	昭和 22 年(1947)10 月 8 日～昭和 23 年(1948)4 月 6 日		世田谷文学館蔵
原稿「毒薬」、原稿「贗金づくり」、原稿「黄金密使」、原稿「山屋敷秘図」(ひも綴じ)	昭和 25 年(1950)		世田谷文学館蔵
日記	昭和 23 年(1948)4 月 6 日～12 月 24 日		世田谷文学館蔵
愛用の杖			
習作ノート「塙家殺人事件」			世田谷文学館蔵
『妖異金瓶梅』	昭和 29 年(1954)12 月 大日本雄弁会講談社		館蔵
『秘紗金瓶梅』	昭和 34 年(1959)4 月 講談社		世田谷文学館蔵
『陰茎人』	昭和 29 年(1954)11 月 東京文芸社		
『誰にも出来る殺人』	昭和 33 年(1958)7 月 大日本雄弁会講談社		
『新かぐや姫』	昭和 30 年(1955)9 月 東方社		
『女人国伝奇』	昭和 33 年(1958)4 月 桃源社		
「別冊宝石」42 号 第 7 巻第 9 号 江戸川乱歩選暦記念号	昭和 29 年(1954) 岩谷書店		世田谷文学館蔵
『殺人萬華鏡』	昭和 23 年(1948) 自由出版株式会社		
江戸川乱歩原稿「創意の限度について」(「鬼」6 号掲載)			個人蔵
江戸川乱歩から原稿「創意の限度について」が送られてきた際の封筒	昭和 26 年(1951)12 月 18 日		個人蔵
写真 乱歩の原稿を飾っていた応接間にて(撮影:小林洋)			
機関誌「鬼」(8 冊)	昭和 25 年 (1950) 創刊		
『首』	昭和 33 年(1958)11 月 東都書房		世田谷文学館蔵
『笑う肉仮面』	昭和 33 年(1958)12 月 東光出版社		
「宝石」(「怪異投込寺」)	昭和 33 年(1958)1 月 1 日		世田谷文学館蔵
原稿「怪異投込寺」			
江戸川乱歩『貼雑年譜』(山田風太郎旧蔵書)	平成元年(1989)7 月 講談社		
やがて人気作家に			
写真 三軒茶屋自宅にて 啓子夫人と	昭和 28 年 (1953) 頃		
写真 執筆中の風太郎	昭和 29 年 (1954) 8 月		
写真 自宅にて			
スクラップブック			
『山田風太郎全集』	昭和 46 年(1971)10 月～昭和 48 年(1973)1 月 講談社		
印「風太郎」			
山田風太郎 名刺(自筆絵入り)			世田谷文学館蔵
トロフィー 山田風太郎先生角川文庫 100 万部突破記念	昭和 54 年(1979)6 月		個人蔵
トロフィー 第 28 回講談社漫画賞 100 万部突破記念			個人蔵
『悪霊の群』	昭和 30 年(1955)1 月 大日本雄弁会講談社		
『十三角関係』	昭和 31 年(1956 年) 大日本雄弁会講談社		
山田風太郎 横溝正史宛書簡(封筒・便箋 2 枚)	昭和 29 年(1954)2 月 24 日		世田谷文学館蔵
山田風太郎 横溝正史宛はがき	昭和 26 年(1951)		世田谷文学館蔵
高木彬光 山田風太郎宛はがき	昭和 47 年(1972)2 月 4 日		世田谷文学館蔵
高木彬光 山田風太郎宛書簡	昭和 47 年(1972)1 月 2 日		
『わが推理小説零年—山田風太郎エッセイ集成』	平成 19 年(2007) 筑摩書房		
『風太郎育児日記』	平成 18 年(2006) 朝日新聞社		
作家との交流			
写真 高木彬光(右)と	昭和 26 年 (1951)		
写真 江戸川乱歩の葬儀で	昭和 40 年 (1965) 7 月		

	写真 多磨霊園の乱歩の墓前で横溝正史らと	昭和 50 年 (1975)	
	写真 庭先にて家族らと麻雀		
	写真 高木彬光 (1920-1995)		
	写真 色川武大 (1929-1989)		
	写真 「麻雀礼賛」 / 「面白クラブ」	昭和 34 年(1959)7 月	光文社
	出版社より贈られた麻雀牌		
	色川武大と / 「小説サンデー毎日」 (スクラップブックより)	昭和 47 年(1972)11 月	
	原稿 「啄木もどき麻雀歌」		
	山田風太郎自画像 (1971.12.1)	昭和 46 年(1971)	個人蔵
	色川武大が作成した映画ビデオの貸出リスト		世田谷文学館蔵
	中井英夫 山田風太郎宛書簡	昭和 50 年 (1975) 4 月 23 日	
	角田喜久雄 山田風太郎宛書簡	昭和 49 年(1974)2 月 4 日	世田谷文学館蔵
桜ヶ丘の家			
	写真 自宅 2 階の書斎にて		
	写真 焼却炉		
	写真 庭でシェーのポーズをきめる	昭和 41 年 (1966)	
	写真 新築祝いにかけてつけた「例の会」の仲間と	昭和 41 年 (1966)	
	焼却炉から救出された資料 (学生時代の定期券、メモ、「あと千回の晩飯」プロット		個人蔵
	水彩画 木立	昭和 47 年(1972)4 月 10 日	
	水彩画 房州鴨川	昭和 47 年(1972)4 月 1 日	
	晩年のボールペン画		
	後年使った絵具セット		
描いた作家たちー夏目漱石			
	写真 イギリスロンドン塔にて	昭和 43 年(1968)8 月	
	「黄色い下宿人」 / 「別冊宝石」	昭和 28 年(1953)12 月	世田谷文学館蔵
	自筆資料「夏目漱石文学論」 (レポート用紙 19 枚)	昭和 19 年(1944)	世田谷文学館蔵
	ノート「人間に就ての理屈」		
	夏目漱石 森鷗外宛書簡 (額装)		個人蔵
描いた作家たちー滝沢馬琴			
	ノート「創作メモ」		
	ノート「江戸神話八犬伝／随筆のたね」	昭和 58 年(1983)頃	
	ノート「八犬伝梗概其 1 / 腹案集(2)短編」	昭和 58 年(1983)頃	
	ノート「馬琴／四分割英雄伝」	昭和 58 年(1983)頃	
	切り抜き「春夢兵」 (宮田雅之画) / 「オール讀物」	昭和 47 年(1972)3 月	
	宮田雅之作「切り絵八犬伝」		個人蔵
	「八犬伝奇想」草稿		
	『八犬伝 上・下』	昭和 58 年(1983) 朝日新聞社	
忍法帖万華鏡			
	『山田風太郎忍法全集』	昭和 38 年(1963)～39 年(1964) 講談社	
	「忍法創生記」草稿		
	草稿「忍者阿呆宮」		
	「忍びの卍」連載スクラップ	昭和 41 年(1966)10 月～昭和 42 年(1967)5 月	報知新聞
	自筆資料「日本暗殺史」		
	スクラップブックブック 「朝日新聞」朝刊	昭和 47 年(1972)3 月 29 日	
	スケッチ 弓と扇		
	『くの一忍法帖』	昭和 36 年(1961)7 月	講談社
	『おんな牢秘抄』	昭和 35 年(1960)1 月	東都書房
	「甲賀忍法帖」 / 「面白倶楽部」	昭和 33 年(1958)	光文社
	『甲賀忍法帖』	昭和 34 年(1959)	光文社
	「大いなる伊賀者」原稿	昭和 46 年(1971)	
	『魔天忍法帖』	昭和 40 年(1965)8 月	徳間書店
	『忍法聖千姫』	昭和 45 年(1970)12 月	講談社
	写真 昭和 39 年(1964)8 月、伊賀上野城にて	撮影：富山治夫	
新境地・明治、室町小説			
	「明治バベルの塔」原稿		
	「オール讀物」特別号	昭和 48 年(1973)11 月	文藝春秋
	ノート「警視庁草紙」		
	『警視庁草紙』上下		
	原稿「幻燈辻馬車」	昭和 50 年(1975)	世田谷文学館蔵
	『幻燈辻馬車』	昭和 51 年(1976)8 月	新潮社
	『明治断頭台』	昭和 54 年(1979)2 月	文藝春秋
	『明治波濤歌』	昭和 56 年(1981)6 月	新潮社

	沢田重隆 画 連載小説「明治波濤歌」挿絵原画 「室町少年倶楽部」原稿 『室町少年倶楽部』 『娑沙羅』 装丁原稿「柳生十兵衛死す」 『柳生十兵衛死す』		個人蔵 平成 7 年(1995)8 月 文藝春秋 平成 2 年(1990)5 月 講談社 平成 4 年(1992) 毎日新聞社	
<b>第 3 章 夢—あの世の辻から</b>				
死者の眼で見る	写真 撮影：小林洋（横顔） 『人間臨終図鑑』ノート 本人による死亡記事（「週刊朝日」） 『人間臨終図鑑』原稿 「文芸ポスト」第 34 巻第 28 号 『神曲崩壊』 『コレデオシマイ。』 勝田文「風太郎不戦日記」原画 最終話（32 頁） 勝田文「風太郎不戦日記」1-3 巻 テレビ番組「徹子の部屋」台本、脚本 「徹子の部屋」出演時のセーター		平成 8 年（1996）8 月 30 日号 朝日新聞社 平成 14 年（2002）7 月 小学館 昭和 62 年（1987）9 月 朝日新聞社 平成 8 年（1996） 角川春樹事務所 講談社 平成 5 年（1993）5 月 10 日放送 テレビ朝日	個人蔵 館蔵 世田谷文学館蔵 講談社 館蔵
平和と食事	愛飲したサントリーオールドウイスキーと愛用のグラス 『あと千回の晩飯』 『あと千回の晩飯』草稿 「野性時代」より 和田誠挿絵 「サライ」 写真 自宅での晩酌 啓子夫人と 写真 桜ヶ丘の自宅庭にて 『同日同刻 太平洋戦争開戦の一日と終戦の十五日』 『あと千回の晩飯』 『コレデオシマイ。』 「サライ」		平成 9 年（1997） 朝日新聞社 昭和 53 年（1978）5 月 角川書店 平成 20 年（2008） 小学館 平成 7 年（1995）8 月 平成 4 年（1992） 昭和 57 年（1982） 立風書房 平成 9 年（1997） 朝日新聞社 平成 8 年（1996） 角川春樹事務所 平成 20 年（2008） 小学館	個人蔵 館蔵 館蔵
旅する風太郎	愛用のカメラ スケッチ「入浴中訪問客ありて困るの図」 日記 日記 日記 『風眼抄』 豊岡中学時代の友人 後藤三男宛はがき 『魔群の通過』 原稿「魔群の通過」 『旅人国定龍次』上下 写真 撮影中にもかかわらず犬をなでる風太郎 写真 ドイツ・ミュンヘンで高木彬光氏と。 写真 イタリア・オーストリア国境のアダルト峠にて、啓子夫人と。 写真 奥州平泉にて。		昭和 29 年（1954）1 月 20 日～30 年（1955）3 月 25 日 昭和 30 年（1955）3 月 26 日～31 年（1956）8 月 31 日 昭和 31 年（1956）9 月 1 日～33 年（1958）2 月 25 日 昭和 54 年（1979） 六興出版 昭和 49 年（1974）6 月 28 日 昭和 53 年（1978）1 月 光文社 昭和 61 年（1986） 講談社 昭和 40 年（1965） 昭和 43 年（1968）8 月 22 日 昭和 32 年（1957）7 月	個人蔵 個人蔵 個人蔵 館蔵
作品のひろがり	写真 東映映画「くノ一忍法」撮影現場にて		昭和 39 年（1964）9 月	
舞台化	「エドの舞踏会」公演パンフレット ポスター「エドの舞踏会」 舞台「幻燈辻馬車」（東京演劇アンサンブル公演）台本 舞台「旅人国定龍治」台本 「柳生十兵衛 魔界転生」舞台パンフレット 宝塚歌劇 星組公演 「柳生忍法帖/モアー・ダンディズム！」ポスター 宝塚歌劇 星組公演 「柳生忍法帖/モアー・ダンディズム！」パンフレット 『黒牢城』（米澤穂信） 『FUTON』（中島京子） 『人間晩年図巻 2000-03 年』（関川夏央）		平成 19 年（2007） 平成 4 年（1992） 平成 2 年（1990） 松竹 昭和 56 年（1981）7 月 令和 3 年（2021） 宝塚歌劇 令和 3 年（2021） 宝塚歌劇 令和 3 年（2021）6 月 KADOKAWA 平成 15 年（2003）5 月 講談社 令和 3 年（2021）10 月 岩波書店	館蔵 個人蔵
映画化	映画『魔界転生』脚本 『おぼろ忍法帖』上・中・下 写真 東映映画「くノ一忍法」撮影現場にて		昭和 56 年（1981） 東映 昭和 42 年（1967） 講談社 昭和 39 年（1964）9 月	



	映画ポスター「悦楽」（大島渚監督）	昭和40年（1965）	創造社	世田谷文学館蔵
	『棺の中の悦楽』	昭和37年（1962）	桃源社	
	映画ポスター「コント55号 俺は忍者の孫の孫」（福田純監督）	昭和44年（1969）	東宝	世田谷文学館蔵
	『週刊現代』（「忍法相伝99」）	昭和39年（1964）8月号	講談社	
舞台化	ポスター「エドの舞踏会」			
	「エドの舞踏会」公演パンフレット			
	舞台「幻燈辻馬車」台本			
	舞台「旅人国定龍治」			
	柳生十兵衛 魔界転生 舞台パンフレット	昭和56年（1981）7月上演		
	宝塚歌劇 星組公演	令和3年（2021）		館蔵
	「柳生忍法帖/モアー・ダンディズム！」ポスター			
	宝塚歌劇 星組公演	令和3年（2021）	宝塚歌劇	個人蔵
	「柳生忍法帖/モアー・ダンディズム！」パンフレット			
漫画化	勝田文「風太郎不戦日記」原画 最終話（32頁）			講談社蔵
	勝田文「風太郎不戦日記」1-3巻		講談社	館蔵
	写真 22歳の頃	昭和19年（1944）		
	長篇時代漫画『甲賀忍法帖』（構成・漫画 東邦プロダクション）	昭和38年（1963）	東邦図書出版社	
	漫画『バジリスク』（特製ボックス）	平成16年（2004）8月		
	英訳版『バジリスク』	平成18年（2006）	Orbit	館蔵
	スペイン語訳版『甲賀忍法帖』	平成24年（2012）	Quaterni	館蔵
	『LOS NINJAS KŌGA Y SU CŌ DIGO CŌ DIGO SECRETO』			
	サママチオ『追読人間臨終図巻 I』	平成31年（2019）4月		
	『警視庁草紙 風太郎明治劇場』漫画 東直樹 監修 後藤一信	令和4年（2022）	講談社	館蔵
(関連書籍)	聞き手 森まゆみ『風々院風々々居士 山田風太郎に聞く』	平成13年（2001）11月	筑摩書房	
	フランス語版『八犬伝』『LES HUIT CHIENS DES SATOMI』	平成30年（2018）	JLPP	館蔵
	竹本健治・選『変格ミステリー傑作選【戦後篇I】	令和4年（2022）6月	行舟文化	館蔵
	『橋傳來記』	平成20年（2008）	出版芸術社	
	『山田風太郎新発見作品集』	平成25年（2013）8月	芸術出版社	
人気作家風太郎の装丁紹介	関川夏央『人間晩年図鑑 2000-03年』	岩波書店（2021）10月		
	『山田風太郎明治小説全集』（南伸坊装丁）	平成9年（1997）	筑摩書房	
	『山田風太郎傑作選 江戸篇 八犬伝』上・下	令和2年（2021）	河出書房新社	
	『山田風太郎傑作選 室町篇 娑婆羅/室町少年倶楽部』	令和2年（2020）	河出書房新社	
	中国語版『伊賀忍法帖』	平成19年（2007）	尖端出版	
	角川文庫『おんな牢秘抄』（佐伯俊男画）	平成3年（1991）	角川書店	館蔵
	『山田風太郎忍法帖短編全集11 お庭番地球を回る』	平成17年（2005）	筑摩書房	
	『魔界転生』（講談社ノベルス・スペシャル）（横尾忠則装丁）	平成6年（1994）	講談社	
	「BRUTUS 図書館 山田風太郎」	平成11年（1999）		
	『海鳴り忍法帖』（横尾忠則装丁）	昭和44年（1969）	講談社	
	『山田風太郎ミステリー傑作選5 戦艦陸奥（戦争編）』	平成13年（2001）	光文社	
	中島京子『FUTON』	平成15年（2003）5月	講談社	
	米澤穂信『黒牢城』	令和3年（2021）6月	KADOKAWA	
	写真 夢科の別荘「風山房」の原稿にて			

## (2) ミステリ作家たちの横顔展 in 姫路

相生市出身で佐賀県在住の作家竹本健治さんの呼びかけにより、30人のミステリ作家たちから集まった「楽描き」を展示。

例年、竹本さんが中心となって佐賀県内で開催してこられたミステリ作家によるトークショーが、コロナ禍で開催できなくなり、その代わりに企画されたもので、佐賀県、東京・池袋を巡回後、当館の山田風太郎展に併せて当館で開催した。

それぞれの「楽描き」のエピソードもさることながら、驚くべき画才を発揮する作家もあり、ミステリファンならずとも楽しんでいただくことができた。

会 期 令和4年(2022)4月16日(土)～6月5日(日)  
※休館日：毎週月曜日 ※5月2日(月)は開館。  
会 場 姫路文学館 さんかくギャラリー  
観 覧 料 無料  
企 画 連続講座「佐賀学」・ミステリ作家たちの横顔展実行委員会



### 参加作家

青崎有吾、我孫子武丸、綾辻行人、有栖川有栖、石持浅海、市川憂人、稲羽白菟、乾くるみ、井上雅彦、井上夢人、太田忠司、大山誠一郎、北原尚彦、京極夏彦、櫻田智也、清水朔、斜線堂有紀、竹本健治、千澤のり子、知念実希人、辻真先、辻村深月、法月綸太郎、方丈貴恵、円居挽、麻耶雄嵩、三津田信三、光原百合、皆川博子、宮内悠介 (50音順、敬称略)



展示風景

### 関連行事

#### ミステリ作家オンライントークショー

当初は、当館講堂で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインでの開催となった。

日時 令和4年4月23日(土) 午後7時～9時頃  
出演 綾辻行人・有栖川有栖・竹本健治・方丈貴恵  
視聴者 約150人



### (3) 特別展「とびだせ！長谷川義史展」

絵本作家長谷川義史さんの歩みをふりかえる特別展を実施した。

長谷川さんが絵本作家となるまでに手掛けられたイラストやポスターのデザインから、最近の作品に至るまで、家族への思いが詰まった作品、ユーモアあふれる作品、災害をテーマにした作品などが一堂に会し、まさに長谷川さんのこれまでの業績を俯瞰する展覧会となった。

会期中、2回実施した絵本ライブで長谷川さんが描かれた絵は、イベント終了後、展示会場内や南館1階で展示し、イベントに参加できなかった方々にも作品を鑑賞していただいた。



会期	令和4年(2022)6月25日(土)～9月4日(日) ※休館日：毎週月曜日(7月18日は開館)、7月19日(火)
会場	姫路文学館 北館
観覧料	一般700円、大学・高校生400円、中学・小学生200円 ※20名以上の団体は2割引
主催	姫路文学館、MBSテレビ
協力	空色画房
後援	朝日新聞姫路支局、神戸新聞社、産経新聞社、サンテレビジョン、播磨時報社、 播磨リビング新聞社、姫路ケーブルテレビ、姫路シティFM21、毎日新聞姫路支局、 読売新聞姫路支局、ラジオ関西
開催日数	62日間
観覧者数	14,475人
出品点数	約250点
印刷物等	ポスター-B2、B3、A3／チラシA4



第1会場



第2会場

## 関連行事

※会場はすべて姫路文学館講堂

(1) 長谷川義史さん 絵本ライブ&サイン会  
日時 令和4年6月25日(土) 午後1時30分～4時30分  
参加者 120人(事前応募当選者)



長谷川義史氏(絵本ライブ)

(2) えほんのじかん ～おはなし会  
日時 令和4年7月16日(土)・8月20日(土)  
いずれも午後1時30分～2時  
出演 姫路文学館友の会ボランティア  
参加者 計90人



MBSアナウンサーの皆さん

(3) 長谷川義史絵本ワールド  
～MBSアナウンサー コトノハ朗読会  
日時 令和4年7月23日(土) 午後1時30分～3時15分  
出演 松本麻衣子、清水麻椰、大村浩士  
参加者 150人(事前応募当選者)

(4) 長谷川義史さん ミニ絵本ライブ&サイン会  
日時 令和4年8月11日(祝・木) 午後1時30分～3時15分  
参加者 100人(事前応募当選者)



長谷川義史氏(ライブ紙芝居)



5,000人目



10,000人目

# 出品目録

(所蔵はすべて作家蔵)

展示 NO.	展示作品	点数	制作年	出版社・著者
<b>プロローグ</b>				
1-1	「それゆけ!長谷川義史くん」表紙原画	1	2017	小学館
1-2	「それゆけ!長谷川義史くん」表4原画 「5さい ちょっとアホ」	1	2017	小学館
2	たまご	1	2021	—
3	とびだせ!	1	2022	—
<b>第1章 絵本作家へ</b>				
4-1	19歳の頃の作品	1	1980	—
4-2	19歳の頃の作品	1	1980	—
5	週間朝日「山藤章二の似顔絵塾」	2	1982~83ごろ	朝日新聞出版
6	イラスト集「10分経過」	1	1984	—
	参考出品:イラスト集「10分経過」中面		1984	—
7	マリリンモンロー	1	1989	—
8	「びあ沖縄」挿絵原画	1	1990	—
9	サンタクロース	1	1991ごろ	—
10	男はつらいよ	1	1996ごろ	—
11	TIGER	1	1998ごろ	—
12-1	エッセイ集「ロバに耳打ち」題字	1	2001-2002	著:中島らも
12-2~5	エッセイ集「ロバに耳打ち」挿絵原画	4	2001-2002	著:中島らも
13	南河内万歳一座公演「秘密探偵」チラシ	1	1992	—
14	南河内万歳一座公演「さらば青春」チラシ	1	1994	—
15-1,16	内藤裕敬プロデュース公演「手の中の林檎」、南河内万歳一座公演「ライオン狩り」ポスター	2	1998	—
15-2	南河内万歳一座公演「手の中の林檎」ビジュアル原画	1	1998	—
17-1	南河内万歳一座公演「ギャンブルの犬」ビジュアル原画	1	2021	—
17-2	南河内万歳一座公演「ギャンブルの犬」下絵	1	2021	—
17-3	南河内万歳一座公演「ギャンブルの犬」題字	1	2021	—
17-4	南河内万歳一座公演「ギャンブルの犬」チラシ	1	2021	—
18-1~7	「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」原画	7	2000	BL 出版
18-8	「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」見返し原画	1	2000	BL 出版
18-9	「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」下絵(複製)	1	1998	—
18-10	「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」最初のダミー本	1	1998	—
18-11	「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」2回目のダミー本	1	1998	—
18-12・13	「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」習作	2	1998	—
19-1~2	「おたまさんのおかいさん」原画	2	2002	解放出版社 作:日之出の絵本制作実行委員会
20-1~2	「スモウマン」原画	2	2002	講談社 作:中川ひろたか
<b>第2章 家族</b>				
21-1~7	「おへそのあな」原画	7	2006	BL 出版
22-1	出産絵日記	1	1994ごろ	—
22-2	出産絵日記	1	1996ごろ	—
22-3	出産絵日記	1	2000ごろ	—
23-1~8	「てんごくのおとうちゃん」原画	8	2008	講談社
23-9	おとうちゃんとの写真	1	1964ごろ	—
24-1~10	「おかあちゃんがつくったる」原画	10	2012	講談社
25-1~3	「シバ犬のチャイ」原画	3	2013	BL 出版 文:あおきひろえ
26-1~6	「おおにしせんせい」原画	6	2019	講談社
26-7	小学校時代の卒業文集	1	1973	—
27-1~6	「いっきょくいきまます」原画	6	2005	PHP 研究所
28-1~3	「じゃがいもポテトくん」原画	3	2010	小学館
29	「まわるおすし」東見本	1	2012	ブロンズ新社
<b>第3章 絵本作家のよこがお</b>				
30-1~4	「かもとりごんべえ」原画	4	2012	講談社 文:令文ヒロ子
30-5	「かもとりごんべえ」東見本	1	2012	—
31	「かさじぞう」東見本	1	2011	学研教育みらい 文:岡本一郎
32-1~4	「いっすんぼうし」原画	4	2013	岩崎書店 文:広松由希子
33-1~4	「おこる」原画	4	2008	金の星社 作:中川ひろたか
34-1~3	「しげちゃん」原画	3	2011	金の星社 作:室井滋
34-4	「しげちゃん」見返し	1	2011	金の星社 作:室井滋
35-1	「絵本作家のブルース 第22回」原画	1	2015	出版文化振興財団
35-2	「絵本作家のブルース 第25回」原画	1	2016	出版文化振興財団
35-3	「絵本作家のブルース 第30回」原画	1	2017	出版文化振興財団

35-4	「絵本作家のブルース 第31回」原画	1	2018	出版文化振興財団
36-1,2	「さんばつやきょうごさん はんせい中」原画	2	2005	光村図書出版
36-3,4	「さんばつやきょうごさん その5」原画	2	2006	光村図書出版
36-5,6	「さんばつやきょうごさん その8」原画	2	2007	光村図書出版
36-7,8	「さんばつやきょうごさん その21」原画	2	2010	光村図書出版
37-1	MBS アナウンサー朗読公演「コトノハ ものがたりの世界2017」ビジュアル原画	1	2016	—
37-2	MBS アナウンサー朗読公演「コトノハ ものがたりの世界2022」ビジュアル原画	1	2021	—
37-3~6	MBS アナウンサー朗読公演「コトノハ ものがたりの世界2022」下絵	4	2021	—
38	足指人形	1	2008ごろ	—
39	原子力そんなんいらんねんやめてえな	1	2017	—
40-1	上方芸人「夢路いとし・喜味こいし」	1	2016	—
40-2	上方芸人「横山ホットブラザーズ」	1	2016	—
41-1	おかんとよしおくん	1	2020	—
41-2	おねえちゃんとよしおくん	1	2020	—
42	シバ犬	1	2015	—
43	One Heart	1	2021	—
44-1	「とびだせ！えほん」タイトルイラスト原画	1	2012	—
44-2	「とびだせ！えほん」像	1	2014	製作：佐野文二郎 寄贈：野本有流
44-3	「とびだせ！えほん」番組用に描いた作品「姫路」	1	2016	—
44-4~7	「とびだせ！えほん」撮影中に描いたスケッチ「姫路」	4	2016	—
44-23	「とびだせ！えほん」番組用に描いた画家・桂南光	1	2020	—
45-1	各地を訪れたときの絵日記	1	—	—
45-2	各地を訪れたときの絵日記	1	—	—
46	こけし	1	2003ごろ	—
47	オブジェ	1	2003	—
<b>コラム 絵本の描き方</b>				
48-1~2	「なわとびしましょ」原画	2	2008	復刊ドットコム
49-1,2	「だあれだだれだ」原画	1	2010	ポプラ社 文：うしろよしあき
50-1,2	「なあんだなんだ」原画	1	2010	ポプラ社 文：うしろよしあき
51-1~3	「会いたくて 会いたくて」原画	3	2021	小学館 作：室井滋
52-1~4	「いろいろおんせん」下絵	4	2008	そうえん社 文：ますだゆうこ
53	アイデア帳	1	—	—
54	制作道具	1	—	—
<b>第4章 未来の子どもたちへ</b>				
55-1~9	「ぼくがラーメンたべるとき」原画	9	2007	教育画劇
55-10~11	「ぼくがラーメンたべるとき」未採用絵	2	2007	—
56-1~5	「ほうれんそうはなっています」原画	5	2014	ポプラ社 文：鎌田實
56-6~7	「ほうれんそうはなっています」未採用原画	2	2014	—
57-1~8	「へいわってすてきだね」原画	8	2014	ブロンズ新社 詩：安里有生
57-9~10	「へいわってすてきだね」未採用原画	2	2014	—
58-1~5	「ぼんやきゅう」原画	5	2018	ポプラ社 文：指田和
58-6	「ぼんやきゅう」下絵	4	2018	—
59	「あの日から或る絵と言葉」挿絵原画	1	2019	創元社
<b>第5章 しあわせの合言葉</b>				
60-1~2	「やまださんちの天気予報」原画	2	2005	絵本館
61-1~4	「いろはのかるた奉行」原画	4	2005	講談社
62	「いいからいいから1」のもとになった原画	1	2005	学研
63-1~2	「いいからいいから1」原画	2	2006	絵本館
64-1~2	「いいからいいから2」原画	2	2007	絵本館
65-1~2	「いいからいいから3」原画	2	2008	絵本館
66-1~2	「いいからいいから4」原画	2	2010	絵本館
67-1~2	「いいからいいから5」原画	2	2018	絵本館
68-1~4	「だじゃれ日本一周」原画	4	2009	理論社
69-1~2	「だじゃれ世界一周」原画	2	2017	理論社

(4) 「俳人夏石番矢のパンデミック下でのたたかい—『世界俳句』を主導して—」

俳人夏石番矢さんが国籍を超えて取り組む「世界俳句」の活動を、夏石さんと長年交友のある姫路市在住の詩人大西隆志さん作成の詳細な年譜を軸に初公開の写真や資料でたどった。

本名・乾昌幸の名で編集した青焼きの東京大学能狂言研究会機関誌「かんぜびと」(1974～1975年)や、自作の版画を表紙に手刷りした東大学生俳句会誌「原生林」(1977年)には、才気と意気が漲る氏の青春が垣間見え、氏が創立した「世界俳句協会」の2015年大会時の多言語による墨書では氏が目指す壮大な俳句の姿が物語られた。

折しも当館にほど近い市内ギャラリーでは「夏石番矢の俳句系アート展」が開催され、番矢ワールドのハシゴを楽しまれる方も多く見られた。



会 期	令和4年(2022)9月10日(土)～10月10日(月・祝) ※休館日:毎週月曜日、9月20日(火) ただし、9月19日(月・祝)、10月10日(月・祝)は開館。
会 場	姫路文学館 さんかくギャラリー
観 覧 料	無料
主 催	姫路文学館
特別協力	夏石番矢、大西隆志
開催日数	27日間
観覧者数	1,416人
出品点数	約50点
印刷物等	チラシA4



会場では、新型コロナウイルスによるパンデミック下での以下の一句を大きく掲示した(写真左手)。

「見えない王冠あらゆるものを空位とす

The invisible crown/makes everything/vacant」

# 出品目録

テーマ	資料名	年代(刊行等)、出版社	所蔵者・提供者
<b>第1章 相生篇—夏石番矢誕生</b>			
	写真 乾昌幸(夏石番矢)、相生市陸の生家前で	1955年秋	夏石番矢氏提供
	写真 乾昌幸	1958年1月	夏石番矢氏提供
	写真 自宅玄関前で	1962年4月	夏石番矢氏提供
	写真 相生市立双葉小学校		夏石番矢氏提供
	写真 自宅玄関で	1964年9月	夏石番矢氏提供
<b>第2章 姫路篇—夏石番矢、列車通学</b>			
	写真 中学2年の夏石番矢(京都・西芳寺)	1969年12月	夏石番矢氏提供
	写真 高校2年の夏石番矢(北海道)	1972年8月	夏石番矢氏提供
	写真 淳心学院中学校・高等学校(姫路市本町)		
<b>第3章 東京篇—俳人夏石番矢です</b>			
	「原生林」(東大学生俳句会) ・号外(1977年4月15日) ・17号(1977年10月1日)		夏石番矢氏蔵
	「かんぜびと」(東京大学能狂言研究会観世会)第8号～13号	1974年11月～1975年6月	夏石番矢氏蔵
	写真 桑原三郎句集『春亂』出版記念会(東京)で挨拶をする夏石番矢	1979年10月	夏石番矢氏提供
	写真 市川市けやき台団地の自宅にて	1982年	夏石番矢氏提供
	写真 三鷹市にて	1983年5月	夏石番矢氏提供
	写真 第5回現代俳句シンポジウム(池田市)	1983年	夏石番矢氏提供
	写真 夏石番矢初句集『猿常記』出版記念会(渋谷・万葉会館)	1983年7月	夏石番矢氏提供
<b>第4章 埼玉篇—大学教授で家庭を築いた夏石番矢</b>			
<b>第5章 世界篇—大学教授で家庭を築いた夏石番矢</b>			
	写真 第1回国際現代俳句シンポジウム(東京・神楽坂エミール)	1999年7月	夏石番矢氏提供
	写真 グローバル俳句フェスティバル(米国 イリノイ州 ディケイター ミリキン大学)	2000年4月	夏石番矢氏提供
	写真 第3回国際ウエリントン詩歌祭(ニュージーランド ウエリントン テ・パバ)	2005年11月	夏石番矢氏提供
	写真 レオンス・ブリエディスと(ラトビア ベドヴァレ 野外美術館)	2008年9月	夏石番矢氏提供
	写真 東京ポエトリー・フェスティバルにて鎌倉佐弓と(東京・明治大学)	2008年10月	夏石番矢氏提供
	写真 ドルスキニンカイ詩の秋2009と第5回世界俳句協会大会(リトアニア ダイナヴァ・センター)	2009年10月	夏石番矢氏提供
	世界俳句協会(WHA)大会チラシ、プログラム	2000年～2019年	夏石番矢氏蔵
	第8回世界俳句協会(WHA)大会 多言語 墨書一、二	2015年	夏石番矢氏蔵
	夏石番矢 書「わが播磨」 父母老いて播磨に蛸の甘さかな うぶすなをかつてよぎりし神と鉄 姫山と鷺山に咲く光かな まぼろしか徴の花咲く父母の家		大西隆志氏蔵
	夏石番矢 書「ふるさとに猪太り空飛ぶ法王」		大西隆志氏蔵
	夏石番矢 書「父母老いて播磨に蛸の甘さかな」		大西隆志氏蔵
	著作類一式		館蔵



(5) 特別展「没後10年 西山松之助展 ある文人歴史家と江戸学の軌跡」

赤穂市出身の歴史学者西山松之助（1912～2012）の没後10年の節目に開催した初の回顧展。

会場では、研究の原点となった故郷「しぶら（彼岸花）の里」の風景を西山得意のスケッチで紹介し、代表作『家元の研究』の直筆原稿や家元訪問記録、「江戸学」研究の中で分析対象となった文学作品や浮世絵、自ら出演した歌舞伎の記録などを取り上げながら、豊かな研究業績を展示した。

西山独自の研究となった全国各地の名茶杓の調査については、実測調査図とともに珠光や千利休の手に成る名品も展示し、その鋭い観察眼に注目した。また、自作の茶杓や日本画、加藤楸邨や妻・古賀フミとの共作など、文化人としての人となりも伝えた。

故郷東有年の民俗、家元、江戸学、茶杓、歌舞伎、そして花などの豊富な話題で、学者・西山松之助を知っていただく展覧会となった。



- 会 期 令和4年（2022）9月23日（金・祝）～12月4日（日）  
※休館日：毎週月曜日、10月11日（火）、11月4日（金）、11月24日（木）  
ただし、10月10日（月）は開館。
- 会 場 姫路文学館 北館
- 観 覧 料 一般700円、大学・高校生400円、中学・小学生200円  
※20名以上の団体は2割引
- 主 催 姫路文学館
- 特別協力 赤穂市教育委員会市史編さん室
- 後 援 朝日新聞姫路支局、NHK神戸放送局、神戸新聞社、産経新聞社神戸総局、サンテレビジョン、播磨時報社、播磨リビング新聞社、姫路ケーブルテレビ、姫路シティFM21、毎日新聞姫路支局、読売新聞姫路支局、ラジオ関西
- 開催日数 61日間
- 観覧者数 1,241人
- 出品点数 約300点
- 印刷物等 ポスターA3、B2、B3／チラシA4
- 図 録 A4判 40ページ オールカラー 500部 令和4年9月23日刊行  
販売価格1,000円  
〔寄稿〕  
「江戸文化を体現した人」田中優子（法政大学名誉教授）  
「「粹」—西山松之助先生、没後十周年に添えて」仁志耕一郎（歴史小説家）



図録

水屋珈琲（南館1階）提供コラボメニュー  
「抹茶のシフォンケーキセット」





第1会場



第2会場

## 関連行事

### (1) 記念講演会「西山松之助先生に師事して」

日時 令和4年9月23日（金・祝）午後2時～3時  
 講師 熊倉功夫（MIHO MUSEUM館長）  
 会場 姫路文学館 講堂  
 参加者 90人



熊倉功夫氏

### (2) 朗読会「朗読で西山松之助にであう」

日時 令和4年10月1日（土）午後1時30分～3時  
 出演 音訳ボランティアグループ サークルさえずり  
 会場 姫路文学館 講堂  
 参加者 35人



音訳ボランティアグループ サークルさえずり

### (3) 展示解説会

日時 令和4年11月6日（日）午後1時30分～3時  
 講師 担当学芸員  
 会場 姫路文学館 講堂  
 参加者 30人

### (4) 琴丘高生のガイドで江戸時代にトラベル！ ～『江戸名所図会』『大和名所図会』をひもとく

日時 令和4年11月20日（日）午後2時～2時40分  
 出演 姫路市立琴丘高等学校 図書部  
 会場 姫路文学館 講堂  
 参加者 45人



姫路市立琴丘高等学校 図書部

(5) 【姫路文学館友の会協賛事業】落語会「立川志ら乃・関智一とお江戸を楽しむ」

日時 令和4年10月23日(日)午後1時30分～3時15分

出演 立川志ら乃(落語家)、のゝの家ちゝちい(声優・関智一)、立川ののー(落語家)

会場 イーグレひめじ あいめっせホール

参加者 255人



立川志ら乃氏



のゝの家ちゝちい(関智一)氏



立川ののー氏

## 出品目録

(所蔵欄に記載のないものは、すべて赤穂市教育委員会市史編さん室蔵)

資料名	発行ほか	所蔵者・提供者
<b>第1章 「しぶらの里」から</b>		
<b>一、東有年での生活と民俗</b>		
写真「有年の宿場町の名残」(中国新聞 昭和46年(1971)4月9日掲載)		中国新聞社提供
写真「現在の西国街道の町並み」	令和4年(2022)	
写真「昭和2年(1927)、千種川辺にて」	昭和2年(1927)	
有年駅御本陣御退場絵図(版木)		個人蔵
西山松之助 画「大正十年頃の東有年景観地形図」(『しぶらの里』挿絵原画)		
西山松之助『しぶらの里一宿場町民俗誌一』	昭和57年(1982)6月 吉川弘文館	館蔵
西山松之助 画「しぶらの花」(『しぶらの里』挿絵原画)		
西山松之助筆 色紙「大鷹山を背にうけて」	昭和37年(1962)1月17日	
西山松之助 画「家の紋」(『しぶらの里』挿絵原画)		
西山松之助 画「生家の平面図(二階は省略)」(『しぶらの里』挿絵原画)		
西山松之助 画「食事のならび」(『しぶらの里』挿絵原画)		
西山松之助 メモ「祖父の義太夫村芝居」		
西山商店当座帳	大正10年(1921)	
父・西山次郎の羽織の袖(部分)		
西山松之助 画『しぶらの里』挿絵原画 39点 ※会期中、一部展示替えあり		
「千種川の結網」「もじ」「千種川をわたる筏」「大波止」「千種川の川えび」「鮎かけ針」「いのこぐさ」「すなくい」「みこはん」「やまももの実」「冬いちご」「荷」「さるとりいばら」「しし茸/ねずみ茸」「斧(割木割り)」「車力のあとおし」「俵あみ」「からうす踏み」「牛曳き扱摺り」「はねつるべ」「妻たたき」「じゃん車踏み」「牛小屋」「芝刈鎌」「芝刈り」「どす乗り」「ぶちまりこ」「にっき打ち」「がめ」「じかぬか」「おしと」「小さなふご」「おきくさんの折り」「おはげはん」「御幣」「葬式の有様」「葬式の造花」		
写真「法橋文信 画 東有年八幡神社雨乞絵馬(有年八幡神社蔵)」		赤穂市教育委員会文化財課撮影
西山松之助 模写「明治十年法橋文信筆 東有年村見取図(一部)」		
<b>二、有年から姫路、そして東京へ</b>		
西山松之助『ある文人歴史家の軌跡』	平成12年(2000)11月 吉川弘文館	館蔵
アルバム(昭和7年(1932)・昭和8年(1933))		
「同窓会誌」母校成立30周年記念号	昭和6年(1931)6月 兵庫県姫路師範学校同窓会発行	
写真「姫路師範学校在学時の西山松之助」		
写真「昭和6年頃の姫路師範学校」(兵庫県姫路師範学校同窓会発行『同窓会誌』(母校創立30周年記念号)より)		
写真「野口援太郎」(兵庫県姫路師範学校同窓会発行『同窓会誌』(母校創立30周年記念号)より)		
写真「姫路師範学校寄宿舎・舒嚙園にて、寄宿舎役員たちと」	昭和7年(1932)頃	
写真「卒業式の答辞を書く西山松之助」	昭和7年(1932)3月	
日記「我が生活より」	昭和9年(1934)～	
写真「姫路歩兵第三十九連隊、第七中隊舎にて」	昭和7年(1932)4月	
写真「義士追慕学芸会にて児童と共に児島高徳の劇を上演」	昭和8年(1933)12月	

写真「学友とともに寮部屋の窓から」	昭和 10 年(1935)	
写真「文科第四部修学旅行」	昭和 12 年(1937)	
島崎藤村『飯倉だより』（西山松之助旧蔵書）	昭和 7 年(1932)4 月	岩波書店
東京高師在学中の講義録ノート 「東洋史（中山教授）」「日本史（峯岸教授）」「修身西洋倫理学」「地学」		
東京高師在学中の提出論文 「教育に於ける自由主義と国家主義とを論ず」（文科四部 2 年）、「近世に於ける認識論思想発達の史的考察」（文科四部 3 年）		
积宗活 書 卷子「遊於芸」		
积宗活 書「葦雲」	昭和 12 年(1937)1 月 31 日	
西山松之助 筆 掛軸「割」	表装：根岸福太郎	
『积宗活禅師全集』1 巻臨在録講和、2 巻臨川夜話	1 巻：昭和 40 年(1965)3 月 両志禅協会 2 巻：昭和 55 年(1980)7 月 両志禅協会	
西山松之助作茶杓 銘梅松	昭和 12 年 3 月 制作	
東京文理科大学在学中のノート 「日本仏教史」「日本思想史（村岡典嗣）」「（読書記録メモ）和辻哲郎『面とベルソナ』」		
卒業論文「化政文化の壓搾として観たる演劇」	昭和 14 年(1939)完成・昭和 15 年(1940)学位取得	
写真「卒業論文完成の日」	昭和 14 年(1939)12 月	
写真「東調布第三小学校教室にて」	昭和 16 年(1941)3 月 3 日	
「第六次満州教学奉仕隊記録」附 満州特別地区旅行証明書下附願	昭和 18 年(1943)	
西山松之助画 スケッチ「黒河よりの黒龍江対岸プラゴエシチエンスク遠望」（日記帳より）	昭和 18 年(1943)12 月 17 日	
写真「博士祝賀会にて」	昭和 36 年(1961)	
写真「東京高等師範学校国史学科卒業記念」	昭和 24 年(1949)2 月	
写真「東京教育大学祭にて、歌舞伎研究会公演「鳴神」」	昭和 29 年(1954)11 月 7 日	
西山松之助作成 計画書「江戸町人研究 第一次執筆計画」	昭和 43 年(1968)8 月	
西山松之助 編『江戸町人の研究』全 6 巻	昭和 47 年(1972)5 月～平成 18 年(2006)2 月 吉川弘文館	1～5 巻は館蔵
西山松之助スケッチ「1976 年 8 月 野辺山合宿」	昭和 51 年(1976)8 月	
西山松之助スケッチ「1979 年 8 月 野辺山合宿」 ※ 展示期間は、9 月 23 日(金/祝)～10 月 27 日(木)	昭和 54 年(1979)8 月	
西山松之助スケッチ「1982 年 8 月 野辺山への車中」 ※ 展示期間は、10 月 28 日(金)～12 月 4 日(日)	昭和 57 年(1982)8 月	
成城大学最終講義 原稿「さよならの文化史」	昭和 58 年(1983)1 月 8 日	
西山松之助 筆 手紙「高暉へ（水仙画）」	昭和 49 年(1961)12 月 26 日	

## 第 2 章 近世文化史研究

### 一、家元の研究

ノート「FOUNDER SYSTEM」（昭和 24 年（1949）から昭和 29 年（1954）の 5 ヶ年を執筆）		
西山松之助 メモ「私の文化史研究法」	平成 16 年(2004)	
「家元ものがたり」（庵丁道・昭和 31 年）記事スクラップ 附 四条流庵丁道関連史料写し		
西山松之助『家元ものがたり』	昭和 31 年(1956)7 月	産業経済新聞社 館蔵
日本文科学会 編『封建道制』	昭和 27 年(1952)8 月（再版）	有斐閣 館蔵
ノート「家元制度研究企画」		
平出久雄 筆 雅楽相伝論文批判書	昭和 32 年(1957)	
西山松之助 筆 家元訪問記録「名古屋松尾流宗家」 附 松尾流宗家所史料の写し	昭和 33 年(1958)9 月	
西山松之助『家元の研究』	昭和 34(1959)10 月	校倉書房 館蔵
原稿「家元の研究」		
スクラップ「「家元の研究」書評集」		
西山松之助『現代の家元』	昭和 37 年(1962)12 月	弘文堂 館蔵
西山松之助『名人』	昭和 40 年(1965)6 月	角川書店 館蔵

### 二、芸道論

西山松之助ほか編『近世芸道論』（日本思想大系 61）	昭和 47 年(1972)	岩波書店 館蔵
原稿「近世芸道思想の特質とその展開」（『近世芸道論』解説）		
西山松之助 筆 掛軸「上手は下手の手本 下手は上手の手本」（『風姿花伝』より）	表装：根岸福太郎	
池三位丸自筆本『香之書』（『近世芸道論』底本）	慶長 8 年(1603)	
原稿「『香之書』翻刻」		
西山松之助 筆 掛軸「正容とは貴賤によらず」（『南方録』より）	表装：根岸福太郎	
西山松之助 筆 掛軸「家ハもらぬほど 食事は飢ぬほど」（『南方録』より）	表装：根岸福太郎	
原稿「『南方録』翻刻」、同「解題」		
向井去来 著『去来抄』	安永 4 年(1775)	館蔵

### 三、西山松之助が見た江戸の諸相

西山松之助 模写「江戸城の蝸牛状城濠の図」		
斎藤幸雄、幸孝、幸成（月峯） 著、長谷川雪旦 画『江戸名所図会』		姫路市立琴丘高等学校蔵

原稿「両国の花火」※ 展示期間は、9月22日(木)～10月5日(水)		
歌川国満 画「新版浮絵両国涼之図」 ※ 展示期間は、9月23日(金/祝)～10月5日(水) (他の期間はパネル展示)	文化末・文政初頃刊	東京都立中央図書館 東京誌料文庫蔵
歌川国貞 画「両国夕涼ノ光景」 ※ 展示期間は、10月6日(木)～10月19日(水) (他の期間はパネル展示)	弘化4年(1847) 刊	東京都立中央図書館 東京誌料文庫蔵
歌川国芳 画「本朝名橋之内江都日本橋略圖」 ※ 展示期間は、10月20日(木)～11月3日(木) (他の期間はパネル展示)	天保頃刊	東京都立中央図書館 東京誌料文庫蔵
歌川芳員 画「新よし原仲の町、さくらの紋日」 ※ 展示期間は、11月6日(日)～11月19日(土) (他の期間はパネル展示)	安政6年(1859) 刊	東京都立中央図書館 東京誌料文庫蔵
浅草菴 編、葛飾北斎 画『画本東都遊』※ パネル展示のみ	享和2年(1802) 刊	東京都立中央図書館 東京誌料文庫蔵
十返舎一九 著、喜多川歌麿 画『吉原青楼年中行事』 『吉原細見』	享和4年(1804) 刊 文政12年(1829) 刊 (葛屋重三郎 版)	館蔵
西山松之助『くるわ(廓)』〈日本文学新書〉	昭和38年(1963)10月 至文堂	館蔵
西山松之助『大江戸の文化』〈新NHK市民大学叢書9〉	昭和56年(1981)5月 日本放送出版協会	館蔵
西山松之助『江戸学入門』	昭和56年(1981)6月 筑摩書房	館蔵
西山松之助『江戸文化誌』〈岩波セミナーブックス23〉	昭和62年(1987)10月 岩波書店	館蔵
西山松之助 編『江戸学事典』	昭和59年(1984)3月 弘文堂	館蔵
西山松之助『大江戸の春』	平成8年(1996)12月 小学館	館蔵
西山松之助 模写「大小絵暦」6点 「安永5年(1776)」「安永9年(1780)」「天明2年(1782)三河万歳」「天明2年(1782)寅」「天明3年(1783)」「天明4年(1784)」 原稿「江戸の八景」		
古市宣住 写「金沢八景詩歌并図」(古市公威旧蔵酒井家史料)	享保7年(1722) 写	姫路市教育委員会文化財課蔵
斎藤幸成(月岑) 著、長谷川雪旦・雪堤 画『東都歳時記』	天保9年(1838) 刊	館蔵
<b>四、「江戸っ子」再考</b>		
西山松之助『江戸っ子』〈江戸選書〉	昭和55年(1980)8月 吉川弘文館	館蔵
原稿「江戸っ子」(『江戸町人の研究』第2巻収載)		
九鬼周造『「いき」の構造』(西山松之助旧蔵書)	昭和5年(1930)8月 岩波書店	
山東京伝 著、山東鶏告 画『通言総鑑』 ※ 展示期間は、9月23日(金/祝)～10月27日(木) (他の期間はパネル展示)	天明7年(1787) 刊	東京都立中央図書館 加賀文庫蔵
桃栗山人柿發齋 著、歌川豊國 画『美満壽親玉天狗磯鼻江戸子』 ※ 展示期間は、10月28日(金)～12月4日(日) (他の期間はパネル展示)	寛政5年(1793) 刊	東京都立中央図書館 加賀文庫蔵
式亭三馬 著『浮世床』	文化8年(1811) 刊	館蔵
歌川国貞 画「仮名曾我当蓬萊」 ※ 展示期間は、11月20日(日)～12月4日(日) (他の期間はパネル展示)	文政7年(1824) 刊	東京都立中央図書館 東京誌料文庫蔵
八百善主人(栗山善四郎) 著『料理通』	文政5年(1822) 刊	館蔵
歌川豊國 画「江戸名所百人美女 柳はし」※ パネル展示のみ	安政5年(1858) 刊	東京都立中央図書館 東京誌料文庫蔵
西山松之助 画「三社祭宮出し」	昭和49年(1974)5月19日	
西山松之助 画「沖繩県石垣島の獅子頭」		
西山松之助『西山松之助著作集』全8巻	昭和57年(1982)～昭和62年(1987) 吉川弘文館	館蔵
<b>第3章 茶杓</b>		
<b>一、実測調査</b>		
西山松之助『茶杓百選』	平成3年(1991)3月 淡交社	館蔵
西山松之助 著 熊倉功夫 編『茶杓探訪』	平成25年(2013)11月 宮帯出版社	館蔵
原稿「茶杓について」	昭和62年(1987)12月	
西山松之助 作成「名杓拜見」茶杓目録		
西山松之助 作成「茶杓探訪」茶杓目録 『庭訓往来』	文化9年(1812) 版	館蔵
珠光作茶杓 銘茶瓢 宗旦筒		香雪美術館蔵
覚々斎原叟 箱書		香雪美術館蔵
覚々斎原叟 添文		香雪美術館蔵
西山松之助 画 実測調査図「珠光作茶杓 銘茶瓢(香雪美術館蔵)」(下絵)		
西山松之助 画 実測調査図「珠光作茶杓 銘茶瓢(香雪美術館蔵)」(『茶杓探訪』掲載図)		
千利休作茶杓 銘ヤハラ道怡		湯木美術館蔵
小堀遠州 箱書		湯木美術館蔵
松平不昧 極箱		湯木美術館蔵
西山松之助 画 実測調査図「千利休作茶杓 銘ヤハラ道怡(湯木美術館蔵)」(『茶杓探訪』掲載図)		
原稿「十(クルス)試論 第3回」、同「第5回」		
西山松之助 画「実竹十字架茶杓」		
西山松之助 画 実竹図 4点 「根の部分」「地上第三節 第四節」「地上第五節」「第五節(順樋・逆樋)」		
西山松之助 画「權先比較図」(8枚)		

西山松之助 画 実測調査図 37点 ※ 会期中、一部展示替えあり

「珠光作 象牙茶杓（三井本家）」「珠光作茶杓 銘笹葉（五島美術館）」「武野紹鷗作茶杓 一閑齋彫込（東京国立博物館蔵）」「豊臣秀吉作茶杓 無銘（徳川美術館蔵）」「ノ貫作茶杓 無銘（江戸千家）」「千利休作茶杓 銘虫喰（徳川美術館蔵）」「千小庵作茶杓 無銘（表千家蔵）」「千道安作茶杓 無銘」「山上宗二作茶杓 銘いきなり（梅沢記念館蔵）」「蒲生氏郷作茶杓 銘もしはたれつつ（野村美術館蔵）」「細川幽齋作茶杓 無銘（永青文庫蔵）」「古田織部作茶杓 無銘（五島美術館蔵）」「古田織部作茶杓 無銘（加藤風庵より來）（上田家蔵）」「山田宗徧作茶杓 銘鉸虫（承天閣美術館蔵）」「瀨田掃部作茶杓 無銘 原叟筒（陽明文庫蔵）」「土肥二三作茶杓 銘一声（湯木美術館蔵）」「松花堂昭乗作茶杓 銘翁」「小堀遠州作茶杓 銘白菊」「小堀遠州作茶杓 銘朝ほらけ」「千宗旦作茶杓 銘檜垣（出光美術館蔵）」「久須美疎安作茶杓 銘宿竹」「藤村庸軒作茶杓 乙酉小春」「久隅守景作茶杓 銘ゆふ月の」「一条忠親作茶杓 無銘（陽明文庫蔵）」「金森宗和作茶杓 銘しぐれ（五島美術館蔵）」「仙居義梵作茶杓 銘捨小舟（出光美術館蔵）」「江月宗玩作茶杓 銘當閑（滴翠美術館蔵）」「江月宗玩作茶杓 銘古其為杖（出光美術館蔵）」「江雪宗立作茶杓 無銘」「柳沢淇園作茶杓 銘山花（滴翠美術館蔵）」「松平不昧作茶杓 銘三染（陽明文庫蔵）」「松平不昧作茶杓 銘くさの露」「片桐石州作茶杓 無銘（徳川美術館蔵）」「如心齋天然作茶杓 銘牛の子に（湯木美術館蔵）」「寛々齋原叟作茶杓 銘不老不死」「寛々齋原叟作茶杓 銘金剛杖（出光美術館蔵）」「久田宗全作茶杓 銘嘉祥（承天閣美術館蔵）」

## 二、茶杓をつくる

写真「「竹取りの翁」と呼ばれた西山松之助（中国・天一閣にて）」

昭和 59 年(1984)頃

写真「茶杓作りの様子（きじ股になるようにふくらと削る）」

西山松之助『茶杓をつくる』

平成 4 年(1992)年 12 月 読売新聞社

館蔵

原稿「茶杓をつくる（34）」（『茶道雑誌』6月号掲載）

西山松之助 作成 茶杓作り記録ノート

西山松之助 画 掛軸「竹筍」

個人蔵

西山松之助 画 色紙「洛西桂離宮御苑丹波雲紋竹筍」

昭和 53 年 5 月 27 日

桂離宮の丹波雲紋竹

姫路城古材（慶長時代）

東大寺大仏殿大屋根古材（元禄時代）

日光東照宮の杉古材

愛用の茶杓制作道具（茶杓用切り出し、鑿など）

西山松之助作茶杓 銘仮名手本忠臣蔵（64 本揃）

原稿「忠臣蔵茶杓由来記」

西山松之助 画 茶杓銘仮名手本忠臣蔵用原画 3 点

「大序 鶴岡八幡宮兜改の場」「三段目 足利館門前進物の場」「七段目 祇園町一力茶屋の場」

西山松之助 筆 掛軸「かなふはよし なかいたがるはあし」

表装：根岸福太郎

西山松之助 筆 掛軸「一期一会」

表装：根岸福太郎

西山松之助作茶杓 銘寿老人

柿傳ギャラリー蔵

西山松之助 筆 茶杓記「寿老人」

西山松之助作茶杓 銘きかん坊

柿傳ギャラリー蔵

西山松之助 筆 茶杓記「きかん坊」

西山松之助作茶杓 銘松竹梅

柿傳ギャラリー蔵

西山松之助 筆 茶杓記「松竹梅」

西山松之助作茶杓 銘二人静

柿傳ギャラリー蔵

西山松之助 筆 茶杓記「二人静」

西山松之助作茶杓 銘不知火

柿傳ギャラリー蔵

西山松之助 筆 茶杓記「不知火」

西山松之助作茶杓 銘金毘羅

柿傳ギャラリー蔵

西山松之助 筆 茶杓記「金毘羅」

西山松之助 筆 茶杓記 10 点

「秋の七種」「月天心」「四君子」「飛鶴」「法螺拔」「龍窟」「南十字星」「毘沙門天」「近江八景」「櫻川」

写真「持参した未完成茶杓 66 本」（2 枚：「順樋 33 本」「逆樋 33 本」、西山松之助撮影）

写真「敦煌 鳴沙山にて」

西山松之助 画「茶杓 銘吉祥虎とその共筒」※パネル展示のみ

西山松之助 模写「嘉峪関壁画墓 吉祥獸」※パネル展示のみ

西山松之助 画 敦煌茶杓巡礼スケッチ 16 点

「西安興教寺玄奘三蔵舍利塔」「終南山麓草堂古寺鳩摩羅什舍利塔」「敦煌 285 窟壁画 西魏時代の風神雷神」（2 枚）「敦煌第 3 窟 三面金剛」「敦煌第 424 窟出土天馬」「陝西省博物館の馬」「洛陽博物館の北魏の馬像」「始皇帝陵の秦の馬像と咸陽博物館の漢の馬像」「則天武后墓出土三彩備」「鞏県の北魏飛天の図」「西安大明宮銀陽」「華山」「西安郊外民家の桐の花」「玉門関の子供たち」「向陽学校」

西山松之助 画 茶杓記「蟹気楼」

西山松之助 作成アルバム「敦煌 鳴沙山 月牙泉」

昭和 54 年(1979)4 月

西山松之助撮影 写真「玉門関の子供たち」ほか 6 点（パネル展示）

昭和 54 年(1979)4 月

敦煌茶杓巡礼写真「西安より洛陽への車中、茅台（MOUTAI）酒に酔って孫悟空を演じる」

昭和 54 年(1979)4 月

「向陽学校の子供たち」など 6 点（パネル展示）

## 第 4 章 歌舞伎

### 一、「助六」考と河東節出演

西山松之助 画「十一代目市川團十郎の助六」

十一代目市川團十郎 15 年祭 記念小風呂敷

「十一代目市川團十郎（助六）の隈取」

八文舎自笑、梅枝軒泊篤 著『役者三都鑑』

文政 11 年(1828) 刊

※ 展示期間は、9 月 23 日(金/祝)~10 月 27 日(木)

館蔵

歌川豊国 画「中村座の芝居前」 ※ 展示期間は、10月28日(金)～12月4日(日) (他の期間はパネル展示)	文化14年(1817)刊	東京都江戸東京博物館蔵
式亭三馬 著、勝川春英 画『劇場訓蒙図彙』 ※ 展示期間は、10月28日(金)～12月4日(日)		
西山松之助『市川團十郎』〈人物叢書52〉	昭和35年(1960)9月 吉川弘文館	館蔵
西山松之助『歌舞伎をみる みがかれた芸の新しさ』〈岩波ジュニア新書29〉	昭和56年(1981)5月 岩波書店	館蔵
西山松之助 筆 執筆企画書「人物叢書市川團十郎」		
西山松之助 作成「市川團十郎初代一四代上演年表役柄一覧」(下)		
西山松之助 作成「市川團十郎代々上演年表役柄一覧」(上)		
歌川豊国 画「助六所縁江戸桜」 ※ 展示期間は、9月23日(金/祝)～10月27日(木)	文化8(1811)刊	東京都江戸東京博物館蔵
歌川国貞 画「助六由縁江戸桜」 ※ 展示期間は、10月28日(金)～12月4日(日)	文化～天保頃 刊	東京都江戸東京博物館蔵
写真「舞台裏で十二代目市川團十郎(助六)を囲んでの河東節連中」	昭和60年(1985)4月15日	
写真「河東節の一員として」	昭和60年(1985)4月15日	
公演チラシ「十二代目市川團十郎襲名披露四月大歌舞伎」(歌舞伎座)	昭和60年(1985)	
出演者名札「十寸見東松」「東松」(歌舞伎座・御園座・南座使用)		
写真「十二代目市川團十郎襲名披露興行 河東節十寸会連中」	昭和60年(1985)5月31日 於 歌舞伎座	
西山松之助 スケッチ「京都南座1985年12月13日 共演者席図」「御簾内から助六を観る」(スケッチブック「助六 南座」)		
「助六由縁江戸桜 楽屋句会」	昭和60年(1985)7月 河東節十寸見会	
十二代目市川團十郎襲名披露記念手拭い	昭和60年(1985)	
<b>二、「勸進帳」実演</b>		
歌川豊国 画「古代勸進帳」 ※ 展示期間は、9月23日(金/祝)～10月5日(水) (他の期間はパネル展示)	嘉永2年(1849)刊	東京都立中央図書館蔵 東京史料文庫蔵
写真「勸進帳稽古風景(仁村美津夫・西山松之助・郡司正勝)、新潟 市山宗家舞台にて」	昭和47年(1972)9月30日	
勸進帳稽古風景写真「十三代目片岡仁左衛門と」「片岡孝夫と」など4点	昭和47年(1972)～昭和48年(1973)	
稽古用舞扇		個人蔵
西山松之助書き込みの研究用「勸進帳」台本	昭和48年(1973)	
アルバム「市山七十郎公演記念」	昭和47年(1972)～昭和48年(1973)	
上掲アルバムより、写真「勸進帳読みあげ」「山伏問答後の元禄見得」「弁慶、義経を疑う富樫と相対する」「弁慶が金剛状で義経を打ち付ける」		
「須磨明石の踊り」「片手飛六の花道引込」		
掛軸「武蔵坊弁慶(西山松之助)押隈」	昭和48年(1973)3月30日 於 国立大劇場	
仁村美津夫 筆 色紙「一期一会 見送る関の 春寒し」	昭和48年(1973)	
郡司正勝 筆 色紙「剛力と 姿をやつす 春霞」	昭和48年(1973)3月30日	
西山松之助 画 勸進帳公演記念色紙3枚 「仁村先生の富樫」「西山松之助の弁慶」「郡司先生の義経」	昭和48年(1973)3月30日	
「勸進帳」公演記念手ぬぐい		
音声「勸進帳口上」 口上：十三代目片岡仁左衛門 挨拶：仁村美津夫・西山松之助・郡司正勝	昭和48年(1973)3月30日	
<b>第5章 花とくらす</b>		
西山松之助愛用の筆・古硯・彩墨・印鑑		
西山松之助 画 色紙「八重桜」	昭和39年(1964)4月16日	
西山松之助 画 色紙「白梅」	昭和42年(1967)2月12日	
西山松之助 画 色紙「梅」	昭和48年(1973)1月6日	
西山松之助 画 色紙「朝顔」	昭和46年(1971)7月14日	
西山松之助 画 色紙「鉄線花」	昭和39年(1964)5月4日	
西山松之助 画 色紙「松竹梅」		
西山松之助 画 色紙「椿(初嵐)」		
西山松之助 画 色紙「椿(紅侘助)」	昭和47年(1972)12月12日	
西山松之助 画 色紙「椿(太郎冠者)」	昭和57年(1982)	
西山松之助 画 色紙「椿」		
西山松之助 画 色紙「石榴(芭蕉句)」	昭和59年(1984)9月15日	
西山松之助 画 色紙「石榴(杜甫詩)」	昭和47年(1972)10月8日	
西山松之助 画 色紙「曼殊沙華」	昭和38年(1963)9月20日	
西山松之助 画 色紙「こぶしの花」		
西山松之助 画 色紙「朴の花」	昭和59年(1984)5月28日	
西山松之助 画 色紙「朴の花」	昭和47年(1972)7月6日	
西山松之助 画 色紙「定家かつら」	昭和53年(1978)5月27日	
西山松之助 画 色紙「白蓮(白木蓮)」〈三福対〉	昭和50年(1975)1月	
西山松之助『花 一美への行動と日本文化』	昭和44年(1969)10月 日本放送出版協会	
西山松之助『日本の美と伝統』	平成元年(1989)6月 岩波書店	館蔵

西山松之助 画 小額絵 4点 ※ 会期中展示替えあり  
「山芍薬の実」「枇杷の花」「せんにん草」「しゃが」  
西山松之助 画 短冊 6点 ※ 会期中展示替えあり  
「たんばば」「桜花爛漫」「紅がくの花」「射干玉の実は」「あけびの実」「山茶花」  
西山松之助 筆 掛軸「一瓢楽し」  
原稿「一瓢楽し」

表装：根岸福太郎

## 第6章 西山松之助と交流の絆

写真「西山松之助と古賀フミ（東京会館にて）」	昭和 63 年(1988)3 月	
西山松之助 画 色紙「佐賀ひいな（古賀家伝来の内裏雛）」	昭和 48 年(1973)3 月 3 日	
西山松之助作茶杓 銘遠山櫻（古賀フミ制作佐賀錦袋入）		
西山松之助先生古稀記念会 編『江戸の芸能と文化』 佐賀錦「花の扉」模様 装丁本	昭和 60 年(1985)3 月	吉川弘文館
加藤楸邨 書、西山松之助 画 掛軸「散り椿 ふととまりたる 時間かな」	平成 4 年(1904)6 月	
加藤楸邨 筆、西山松之助 画 色紙 「晚白袖 ひかる 未発の 密度もて」（句先絵後）	昭和 52 年(1977)4 月 18 日	
加藤楸邨 筆 西山松之助 画 色紙 「絲遊が 消ゆれば 青の ひぐれかな」（絵先句後）	昭和 52 年(1977)4 月 18 日	
加藤楸邨 筆 西山松之助 画 色紙 「雲海や 黄花すみれが 息を呼ぶ」（絵先句後）	昭和 37 年(1962)8 月 14 日（絵）、10 月 31 日（句）	
加藤楸邨 筆 西山松之助 画 色紙 「わが友に 画中の茄子の 匂ひ来よ」（絵先句後）	昭和 37 年(1962)10 月 8 日（絵）、10 月 31 日（句）	
「寒雷」500 号記念特別号	昭和 60 年(1985)3 月	寒雷発行所
西山松之助 筆 色紙「満つる力は破るる力 牡丹の芽」		
西山松之助 画 スケッチブック「月山の旅」1～4	昭和 37 年(1962)8 月 3 日～5 日	
木俣修、加藤楸邨 共作 掛軸「月見」 木俣修「水脈（みお）たちて 月のしたひにみるくも、 しつかにこの夜ふけにけるかも」 加藤楸邨「月明や しづかな力 根にこもり」	昭和 29 年(1954)	
野口明 画 色紙「日向国分寺薬師像（伝木食上人作 高さ六尺）」 ※ 展示期間は、9 月 23 日(金/祝)～10 月 27 日(木)		
野口明 画 色紙「八重櫻（新宿御苑）」 ※ 展示期間は、10 月 28 日(金)～12 月 4 日(日)	昭和 37 年(1962)	
野口明 筆 色紙「録仁斎先生之語」		
野口明 筆 絵はがき		
松本彦次郎『日本文化試論』	昭和 17 年(1942)10 月（2 版・初版は同年 6 月）	河出書房
竹田出雲、三好松洛、並木千柳 作『仮名手本忠臣蔵』	寛延元年(1789)版	
五島耕畝 画 掛軸「初冬」		
山村耕花 画 版画「安宅弁慶」		
森田曠平 画 『花 一未発の密度』（西山松之助 著）装丁原画		
西山松之助『花 一未発の密度』	昭和 53 年(1978)10 月	講談社 館蔵
森口華弘 画 色紙「熊笹」		
鹿兒島寿蔵 筆 短冊 『鹿兒島寿蔵』〈人間国宝シリーズ 37〉	昭和 52 年(1977)12 月	講談社
宇野信夫 筆「西山松之助喜寿祝歌」		
西山松之助 スケッチ「花の木霊」（蛇窯下の焚口・横焚口・小山富士夫先生の轆轤）		
花瓶「梅花」（陶器：森岡嘉祥、絵：西山松之助）	昭和 42 年(1967)	
西山松之助作 信楽茶碗「桃太郎」		
盆「風」（漆器：佐竹康宏 作、字：西山松之助）		
盆「松竹梅」（漆器：佐竹康宏 作、字：西山松之助）		
西山松之助スケッチ「姫路の白鷺城」（スケッチブック「姫路・京・御所の花」より） ※ 展示期間は、10 月 12 日（水）～12 月 4 日（日）	昭和 42 年(1967)11 月 9 日	
西山松之助スケッチ「お水取」 ※ 展示期間は、10 月 12 日（水）～12 月 4 日（日）	昭和 63 年(1988)	



## (6) 企画展「没後40年記念 歌人安田青風展」

揖保郡太子町出身の歌人安田青風（明治28年～昭和58年 1895～1983）の没後40年を記念した企画展。

生前の青風が封印していた10代の文学活動を、郷土新聞「鷺城新聞」紙上や中央の詩誌などから発掘した。また、教師として赴任した龍野や山崎の地で、先進的な社会教育啓蒙活動や短歌指導において、青風がいかに大きな役割を果たしたかを初めて知った方々から、様々な反響が寄せられた。

教師として歌人として多くの後進の指導にあたり、密度の濃い豊かな生涯を送りながらも、常に他に為すべき仕事があったのではないかと自省する、その奥深い人間性と生き方を、安田純生氏所蔵の豊かな資料で数々の短歌とともに紹介した。



会 期 令和5年（2023）1月14日（土）～3月26日（日）  
※休館日：毎週月曜日、2月24日（金）、3月22日（水）  
会 場 姫路文学館 北館  
観 覧 料 一般310円、大学・高校生210円、中学・小学生100円（常設展観覧料）  
※20名以上の団体は2割引  
主 催 姫路文学館  
開催日数 60日間  
観覧者数 1,861人  
出品点数 約250点  
印刷物等 ポスターA3／チラシA4  
図 録 A4判 40ページ オールカラー 500部 令和5年1月14日刊行  
販売価格1,000円

〔寄稿〕

「川の歌人、青風」 安田純生（歌人・「白珠」代表）

「青風先生の風」（再録） 岡部伊都子（随筆家）



水屋珈琲（南館1階）提供コラボメニュー  
「立岡山プリンセット」





展示風景

関連行事

※会場はすべて姫路文学館講堂

(1) 記念講演会

日時 令和5年1月14日(土) 午後1時30分～3時  
 講師 安田純生(歌人・「白珠」代表・安田青風孫)  
 演題 「祖父安田青風を語る」  
 参加者 100人



安田純生氏

(2) 展示解説会

日時 令和5年2月25日(土) 午後1時30分～3時  
 講師 当館学芸員  
 参加者 70人



展示解説会

出品目録

\*印のものは、すべて安田純生氏蔵。所蔵者、提供者の記載がない資料はすべて館蔵。

テーマ	資料・写真名	時期	所蔵者・提供者
序章 ふるさとの立岡山 大き乳房のかたちとして	写真 立岡山と石海小学校	昭和初期 (1930年代)	太子町立石海小学校蔵・太子町立歴史資料館提供
	写真 生家近くの揖保川の風景		
	写真 吉福から北の立岡山をのぞむ		
	写真 吉福の集落を北西からのぞむ		
	写真 吉福八幡宮への参道		
	写真 吉福八幡宮		
	写真 青風の生家付近		
	写真 生家前の道		

写真 父母の墓地  
 父の追悼歌集『寂光集』 昭和10年(1935)2月8日  
 「西播磨新聞」\* 昭和13年(1938)6月～7月  
 色紙「微笑して野にひとり立つ立岡の山あたたかし  
 亡き母の顔」\*  
 写真 母校石海小学校  
 写真 石海小学校校歌歌碑

第1章 青い恋 若き日の詩(うた)

写真 御津尋常高等学校 たつの市立御津小学校蔵『御津町史』  
 第2巻より転載  
 霞城館提供  
 姫路市市史編集室提供

一 「鷺城文壇」一投稿少年仇木郎  
 写真 当時の姫路師範学校(露風宛絵はがき) 大正3年(1914)6月28日付  
 写真 「鷺城新聞」「荒みたる心」 大正2年(1913)2月4日  
 橋本政次宛書簡 昭和39年(1964)8月14日  
 写真 「鷺城新聞」「淡雪と春の哀調」 大正2年(1913)3月4日 姫路市市史編集室提供  
 写真 当時の「鷺城文壇」紙面 大正2年(1913)2月18日 姫路市市史編集室提供  
 写真 「鷺城新聞」「東都旅行通信」 大正2年(1913)7月～8月 姫路市市史編集室提供  
 原稿「『芳水詩集』のおもいでの一断片」 昭和30年代執筆  
 有本芳水『芳水詩集』 大正3年(1914)3月 実業之日本社  
 『囚人の秋』\* 大正2年(1913)12月20日 千草書店

二 恋の囚人 安田青風の誕生  
 写真 内扉の学生服姿の青風肖像  
 「鷺城文壇」紙面での『囚人の秋』紹介記事 大正3年(1914)1月13日 姫路市市史編集室提供  
 三木露風宛はがき 大正3年(1914)2月22日 霞城館蔵  
 写真 未来社による山田耕作音楽会 大正3年(1914)7月12日 霞城館提供  
 「未来」創刊号 大正2年(1913)2月 東京・東雲堂 大塚正基文庫  
 三木露風宛はがき 大正3年(1914)6月28日 霞城館蔵  
 三木露風宛はがき 大正3年(1914)11月17日 霞城館蔵  
 「現代詩文」第3号 大正2年(1913)9月 現代詩文社  
 写真 青風の作品が載った「現代詩文」 大正3年(1914)6月号  
 「詩歌」\* 大正5年(1916)1月号 白日社  
 「卓上噴水」(近代文芸復興叢刊第5巻) 昭和34年(1959)12月 冬至書房

第二章 新しい時代の教師として

一 言祝ぎ 心とげた二人へ  
 写真 結婚式 大正5年(1916)5月18日 「竹林荘抄」より転載  
 三木露風自筆の祝詩色紙\* 大正5年(1916)  
 自製結婚記念帖「麗雨抄」\* 大正5年(1916)  
 写真 長男章生(あやお)3歳の頃 大正9年(1920)頃  
 歌集『我等』(西村陽吉選) 大正6年(1917)8月20日 青テール社  
 二 異国にて 朝鮮時代  
 写真 朝鮮での青風一家(釜山・大庁山麓の仮寓にて) 大正8年(1919)2月 『竹林荘抄』より転載  
 写真 朝鮮時代の生徒たちと\* 大正8年(1919)～10年(1921)頃  
 写真 朝鮮の伝統的衣装韓服姿の青風 『朝鮮雑詠』より転載  
 『朝鮮雑詠』 昭和9年(1934)  
 長男章生の手製作品集に貼られた朝鮮での写真 昭和2年(1927)  
 歌誌「あけび」 大正11年(1922)1月号  
 三 「安田教諭」活躍 一龍野時代  
 写真 龍野の街並み(絵はがき)  
 写真 青風が住んでいたとされるあたり(たつの市龍野町上霞城)  
 写真 龍野中学校校門(絵はがき) 神戸日東館発行 山崎晃嗣コレクション  
 写真 当時の青風\*(手製パンフレット「神は悪魔をも創り給ふ」の内扉に貼られていたもの)  
 写真 LC(愛と創造の)会第1回小集案内状 大正10年(1921)12月 たつの市立龍野歴史文化資料館提供  
 写真 LC会による「第1回コドモ愛護デー街頭宣伝風景」 大正12年(1923)4月 たつの市立龍野歴史文化資料館提供  
 写真「第1回コドモ愛護デー」期間中の児童愛護講演会(龍野武徳殿) 大正12年(1923)4月19日 たつの市立龍野歴史文化資料館提供  
 写真 野口雨情を迎えた緑葉社同人たち(聚遠亭) 大正13年(1924)12月 たつの市立龍野歴史文化資料館提供  
 野口雨情色紙\*  
 石丸梧平『人生創造思想體系 梧平修身読本』 大正15年(1926)10月10日  
 写真 石丸梧平顕彰碑(大阪府豊中市赤坂)  
 石丸梧平色紙「人生に結論なし…」\*  
 石丸梧平色紙「知ることの深さは 愛することへの道」\*  
 神は悪魔をも創り給ふ(青風パンフレット)\* 大正14年(1925)8月末日  
 手製の詩集『永遠の空』\* 大正14年(1925)12月  
 写真 コドモ愛護デーのための「コドモ讚美」  
 写真 第3回コドモ愛護デーの行進 大正14年(1925)4月 たつの市立龍野歴史文化資料館提供  
 写真 当時の耕衣(24歳) 大正13年(1924)頃  
 永田耕衣「夾竹桃咲く」(耕衣旧蔵コピー) 大正13年(1924)11月  
 「『夾竹桃咲く』を読んで」が掲載された俳誌『いひほ』\* 大正14年(1925)1月号  
 永田耕衣『陸沈條條』 昭和51年(1976)7月 永田書房

四 歌心再び 山崎「竹林荘」時代	写真 山崎町	昭和5年(1930)～8年(1933)頃	宍粟市教育委員会提供
	写真 青風が住んでいたあたり(宍粟市山崎町鹿沢)		
	写真 兵庫県立山崎高等女学校		宍粟市教育委員会提供
	写真 30代初め頃の青風		『夢の花』(昭和44年)より転載
	ベタニヤの朝(青風パンフレット第1編)*		
	友情(青風パンフレット第2輯)*		
	かくれんぼ(青風パンフレット)*		
	神は悪魔をも創り給ふ(青風パンフレット)*		
	ある日の孔子(青風パンフレット第5輯)*		
	和光*		
	黒い影*		
	こほろぎ鳴く夜(青風パンフレット)*		
	封筒(青風パンフレット)*		
	「山崎新聞」「山崎小唄に就いて」	昭和7年(1932)9月24日	宍粟市教育委員会蔵
	「山崎新聞」「随感随想」	昭和6年(1931)1月1日	宍粟市教育委員会蔵
	山崎高等女学校文学部の活動風景	昭和2年(1927)7月	兵庫県立山崎高等学校蔵 太子町歴史資料館提供
	写真 「くさのみ」創刊号(参考図版)	昭和4年(1929)9月	原資料:兵庫県立山崎高等学校蔵 画像:宍粟市教育委員会提供
	山崎高等女学校短歌会の詠草集	昭和2年(1927)12月 昭和4年(1929)3月 昭和8年(1933)3月 山崎高等女学校草の実会	
	草の実会が発行した冊子		
	歌誌『水蘂』(明治大正短歌研究号)	昭和6年(1931)1月号	
	写真 「水蘂」の師、歌友らと(明石・柿本神社)	昭和10年(1935)4月2日	
	「竹林荘通信」*	昭和4年(1929)	
	歌誌「歌人」創刊号	昭和5年(1930)1月	
	歌集『春鳥』	昭和7年(1932)4月 水蘂社	
	『春鳥』の歌を揮毫した当時の短冊		
	写真 『春鳥』出版記念会(明石・人丸山柿本神社)	昭和7年(1932)5月22日	
	山崎歌話会通信	昭和7年(1932)創刊	
	山崎歌話会詠草	昭和7年(1932)～昭和12年(1937)	
	竹林荘発行の「歌集パンフレット」第一冊～八冊	昭和8年(1933)～昭和10年(1935)	
	春鳥会発行の詠草集	昭和10年(1935)～12年(1937)	
	山崎歌話会合同歌集『香魚集』	昭和7年(1932)9月 山崎歌話会	
	『山崎景物歌集』	昭和8年(1933)11月 山崎歌話会	
	『宍粟名勝歌集』	昭和10年(1935)7月 山崎歌話会	
	『旅百首』	昭和8年(1933)8月 竹林荘	
	宍粟郷土研究会会報『しゅさは』第1～5輯*	昭和8年(1933)～昭和10年(1935)	
五 さよなら「歌人教頭」	『安田青風初老記念 菖蒲湯』*	昭和11年(1936)5月 竹林荘	
	写真 青風初老祝賀会の様子(山崎マルシンクラブ)	昭和11年(1936)2月22日	『菖蒲湯』より転載
	『菖蒲湯』巻末を飾った家族写真		
	安井俊二に贈られた短冊「祝 絹ふすまいへさやしきてわかくさのつまとぬる夜はながくありこそ」	昭和初期	
	安井俊二に贈られた短冊「祝 さくらさく四月よき月よき人のよき子生してなほよし四月」	昭和初期	
	前野四郎に贈られた掛軸「賀 麦うらしきほひなきたつ松山にほゝえましもよきみめとるちふ」	昭和9年(1934)3月頃	
	掛軸「人のよにひとを愛して生きむかなそらに陽はてりちに花はさく」	昭和5年(1930)	
	掛軸「ふるさとにたゝひとりなるころなりやまには山の花さきにけり 青風」	昭和5年(1930)	
	掛軸「松の葉をすきてしくもるはる日さし砂りほのかなるぬくみをもてり」	昭和初期	
	短冊「やぶ原をぬけてあかるきかはらみちふむ石しろく日のぬくみあり」	昭和初期	
	短冊「朝やぶに雀むれみて啼きたつるこ糸遠とほし空は晴れたる」	昭和初期	
	短冊「朝やぶに雀むれみて啼きたつるこ糸遠とほし空は晴れたる」	昭和初期	
	青風の転任を報じる「山崎新聞」	昭和12年(1937)6月3日	宍粟市教育委員会蔵
	青風送別会を報じる「山崎新聞」	昭和12年(1937)7月3日	宍粟市教育委員会蔵
	山崎歌話会送別歌会詠草	昭和12年(1937)6月4日	
	写真 山崎時代の一家	昭和6年(1931)頃か	
	写真 山崎尋常小学校卒業の頃の章生	昭和4年(1929)	
	「僕の創作」第1号に付された青風による「あとがき」	昭和2年(1927)5月25日	
	章生の夏休みの童謡集「フウリン」	昭和2年(1927)	

	短冊「脊の子はねいりたるらし足駄はきゆきの日な たに立ちどまり居る」		
	短冊「素枯れたる無花果の葉もしつかにて朝の日に しのなかに笑む子よ」		
	家族写真	昭和9年(1934)頃か	歌集『鹿澤の家』より転載
	青風から東京の章生に宛てた手紙	昭和11年(1936)5月5日	
	時勢を察じた章生宛の手紙	昭和12年(1937)1月26日	
六 戦時下 大阪へ	写真 相愛高等女子学校の生徒と*	撮影年不詳	
	相愛第二高等女子学校(現・大阪緑涼高等学校)*	当時の完成予想図か	
	歌誌「ささらぎ」*	昭和15年(1940)4月	
	歌誌「紀元」*	昭和18年(1943)6月号	
	時局について触れた章生宛ての手紙	昭和12年(1937)10月28日	
	戦時中の家族写真*	昭和18年(1943)頃	
	写真 国民服姿の青風*		
	写真 幸子を迎えた家族*	昭和18年(1943)	
	短冊「みいくさは徐州にせまりあたるなりひる深山 の松蟬のこゑ」		
	短冊「大御代とひかりはのひてみんなみのやしの葉 かけにみいくさいこふ」		
	短冊「かれくさのしつかなる日もそろもんにつゝく いくさをおもひつつあり」		
<b>第4章 戦後 真の「歌の道」</b>			
一 「白珠」とともに	章生夫妻あての絵はがき 「白珠」創刊号	昭和19年(1944)3月8日 昭和21年(1946)11月	
	GHQの検閲印が入った白珠のゲラ*	昭和21年(1946)~22年(1947)	
	「白珠」創刊記念歌会*	昭和21年(1946)11月10日	大阪府立大手前高校
	歌集『街空』	昭和22年(1947)4月10日	文化昂揚社
	歌集『街空』(改訂再版)	昭和42年(1967)8月10日	竹林荘
	勤務先の学校の問題を綴った章生への手紙	昭和22年(1947)5月13日	
	「白珠」秋季大会*	昭和24年(1949)	住吉大社
	『焦点 白珠知的抒情歌集』*	昭和24年(1949)11月	白珠社
	歌集『歳月』	昭和25年(1950)5月18日	白珠社
	白珠の合同歌集(第一・第二・第四)*	昭和24年(1949)5月 昭和26年(1951)7月 昭和31年(1956)11月	
	写真 「白珠」新年歌会にて(大手前高校)*	昭和28年(1953)1月	
	写真 第1回山上歌会(播州清水寺(兵庫県加東 市))*	昭和28年(1953)8月	
	「白珠」創刊5周年記念号*	昭和26年(1951)11月	
	「白珠」創刊10周年記念号*	昭和32年(1957)1月	
	写真 「白珠」春の大会で語る青風*	昭和33年(1958)5月11日	
	写真 神峯山寺の山上歌会にて*	昭和38年(1963)8月10日	
	歌集『季節』	昭和30(1955)4月25日	東京創元社
	写真 歌会で批評する姿*	昭和40年代か	
	写真 自らレタリングした「白珠」の題字		
	写真 「白珠」編集風景*	昭和40年(1965)12月	
	写真 「白珠」創刊20周年記念全国大会(毎日新 聞大阪本社)*	昭和41年(1966)11月15日	
	「白珠」30周年記念号	昭和52年(1977)1月号	
二 たどりついた歌境	写真 自宅にて*	撮影年不詳	
	写真 大阪樟蔭女子大学国文学科学生たちと*	昭和29年(1954)	
	写真 大阪樟蔭女子大での授業風景*	昭和34年(1959)	
	第2回「自然歌会」記念写真(京都 西本願寺内飛 雲閣)*	昭和25年(1950)5月	
	写真 西田天香	昭和10年(1935)	一燈園資料館「香倉院」提供
	写真 青風の遷暦を祝う「自然歌会」で	昭和30年(1955)初秋	『藪茗荷』より転載
	青風旧蔵の真溪涙骨『日誌』*	昭和25年(1950)9月	中外日報社
	「短歌入門」*	昭和31年(1956)5月	短歌友の会
	写真 70歳を迎えた青風(自宅で)*	昭和40年(1965)11月5日	
	青風のスケッチブック*		
	写真 76歳の時(東京都立馬事公園)*	昭和46年(1971)8月25日	
	歌集『遍歴者』	昭和39年(1964)8月15日	
	歌集『立岡山』	昭和51年(1976)10月20日	
	「白珠」新年歌会で*	昭和53年(1978)1月22日	
	80歳の時の歌稿	「白珠」昭和50年(1975)7月号掲載	
	82歳の時の歌稿	「白珠」昭和52年(1977)8月号掲載	
青風の書	掛軸「太陽をけがすものなきたかはらにさうさうと してかぜかおるかな」	昭和30年代	
	掛軸「空をゆく雲をうつして沼はありくもに遊べる 水くさの花」*	昭和40年代	

	掛軸「日本の箸になりたい食ふ時も食はない時も二人連れにて」*	昭和 40 年代	
	短冊「歌道 ゆきくれてなほはるかなるひとすじのころほのゝと見ゆるさびしき」		
	短冊「うめの花さきてしづけし屋敷あとのつきをよぎりてひとゆきにけり」		
	短冊「あたゝかき冬日の丘に来てすわる草のいのはほろふことなし」		
	写真 短冊を書く青風	昭和 40 年 (1965) 12 月 5 日	
	写真 絵付けをする青風 (倉敷羽島焼窯)	昭和 32 年 (1957) 4 月 21 日	
	青風染筆茶碗「知的抒情」*		
	青風染筆茶碗「山茶花のうすあかい夢ちりこほれ朝ねのかぜはまださめぬ庭」		
	青風染筆皿「かさくろのまにまに水車みつのまにまにとはおもへとも」		
	青風染筆丹波立杭茶碗「松の間にひかりていつもうみはありとこしへにかくあれ松と海」*		
	色紙「雲すでに夏のひかりとうかぶときむなぢゆたけく乙女らはゆく」(無花果、葡萄画)*		
	色紙「鈴ふればすゝみづからのおとに鳴るわれになるものなし鈴を振る」		
	色紙「曇感もなく六甲の山うかび仮面の春がまた近づくか」		
	色紙「恥多く生きて来し眼にうすあかく乳歯のごとき岩梨の花」*		
	色紙「薬師寺にて ひととはいちはやく花をととのへてたつかげろふが塔にまつはる」*		
	色紙「いつしらず過ぎゆく月日おもおもと霞篋を透きて垂るゝ紫陽花」*		
豊中 青風が暮らした場所	青風が暮らしていた頃の家 (大阪府豊中市新免)*		
	高橋秀吉宛はがき	昭和 35 年 (1960) 11 月 21 日	
	写真 旧居の現在の様子		
	写真 千里川添いの散歩道		
	写真 六甲山をのぞむ		
	写真 自宅の前で、子や孫たちと*	昭和 50 年 (1975) 頃か	
初恋の人 妻サワノとの歳月	写真 妻サワノ 弘川寺にて*	昭和 39 年 (1964) 3 月 31 日	
	安田佐和乃歌集『鹿澤の家』	昭和 10 年 (1935) 10 月 山崎歌話会	
	写真 旅先での夫妻*	昭和 30 年代か	
	写真 旅先での夫妻*	昭和 31 年 (1956) 12 月 10 日	
	写真 歌会での夫妻*		
	写真 青風夫妻*		
	写真 蓬萊山山頂での夫妻*	昭和 42 年 (1967) 8 月 6 日	
	安田佐和乃歌集『麩苺荷』	昭和 38 年 (1963) 3 月 日本文芸社	
	原田与一郎宛年賀状	昭和 42 年 (1967) 1 月	個人蔵
	金婚自慶小歌集『竹林荘抄』*	昭和 41 年 (1966) 9 月	
	旅先からサワノに書いた絵はがき*	昭和 40 年 (1965) 7 月	
	写真 豊中の自宅前で*	昭和 40 年代か	
詩心の継承 長男安田章生	写真 青風と章生 (東京帝国大学入学の頃)*	昭和 11 年 (1936)	
	安田章生歌集『雪に描く』	昭和 11 年 (1936) 11 月 竹林荘	
	東京の章生から青風宛の手紙	昭和 12 年 (1937) 12 月 1 日	
	卒論を書き終えた報告のはがき	昭和 13 年 (1938) 12 月 26 日	
	『私の短歌入門』(山本友一編)	昭和 52 年 (1977) 7 月 15 日 有斐閣	
	安田章生原稿「安田青風論」	昭和 40 年代?	
	写真 青風と章生 (宇治平等院鳳凰堂にて)*	昭和 36 年 (1961) 11 月 16 日	
	写真 サワノと章生*	昭和 31 年 (1956) 12 月 10 日	
	章生の主な著作		
歌碑	写真 たつの市紅葉谷 歌碑 (兵庫県たつの市龍野町中霞城)	昭和 39 年 (1964) 建立	
	写真 紅葉谷歌碑除幕式*	昭和 39 年 (1964) 11 月 17 日	
	写真 住吉大社歌碑 (大阪府大阪市住吉区)	昭和 40 年 (1965) 建立	
	写真 住吉大社歌碑除幕式*	昭和 40 年 (1965) 11 月建立	
	写真 播州清水寺 佐和乃との夫婦歌碑 (兵庫県加東市平木)	昭和 53 年 (1978) 建立	
	写真 太子山 (旧つくも荘跡) 歌碑 (兵庫県太子町船)	昭和 45 年 (1970) 建立	
	豊中不動尊 青風揮毫の万葉歌碑(大阪府豊中市緑丘)	昭和 41 年 (1966) 建立	
	写真 豊中不動尊万葉歌碑除幕式*	昭和 41 年 (1966) 9 月	
	写真 服部天神 歌碑 (大阪府豊中市服部元町)	平成 2 年 (1990) 建立	
	写真 石光寺 青風揮毫の与謝野鉄幹詩碑 (奈良県葛城市染野)	昭和 48 年 (1973) 建立	

	写真 瀧安寺 歌碑（大阪府箕面市箕面公園）	昭和 47 年（1972）建立	
	写真 旧神河中学校校歌歌碑（兵庫県山崎町岸田）	昭和 63 年（1988）建立	
<b>終章 最晩年の日々 二つの死</b>	章生写真*		
	写真 晩年の夫妻*		
	妻の急逝について書き送った原田よう宛の手紙	昭和 52 年（1977）9 月 22 日	個人蔵
	原田与一郎夫妻に宛てたはがき	昭和 53 年（1978）12 月 3 日	個人蔵
	妻急逝後の歌稿	「白珠」昭和 52 年（1977）12 月号掲載	
	写真 千里川沿いの散歩道から見える章生が入院していた刀根山病院（現・大阪刀根山医療センター）		
	「白珠」のサワノ追悼記事	昭和 53 年（1978）6 月号	
	「白珠」安田章生追悼号	昭和 54 年（1979）10 月号	
	章生の死の直後の原田与一郎宛の手紙	昭和 54 年（1979）2 月 22 日	個人蔵
	写真 仏眼寺の墓を参る青風*	昭和 54 年（1979）	
	安田幸子宛はがき	昭和 55 年（1980）1 月 14 日・2 月 25 日	
	写真 空を見上げる青風と幸子*	昭和 53 年（1978）1 月 4 日	
	色紙「獄山に月も月を追ひかくれつるそのかなしさは変ることなし」*	昭和 53 年（1978）1 月 3 日	
<b>帰郷—今日を限りの故郷</b>	歌稿	「白珠」昭和 50 年（1975）5 月号掲載	
	原田与一郎夫妻宛の手紙	昭和 54 年（1979）5 月 22 日	個人蔵
	写真 立岡山の麓で*		
	写真 立岡山の山上で*		
	写真 太子山の歌碑の前で*		
	写真 吉福 墓地へと向かう道*		
	写真 吉福八幡神社*		
	写真 八幡神社から戻る道*		
	写真 吉福からのぞむ立岡山		
	岡部伊都子「紅しぼり」（復刻版）	昭和 51 年（1976）7 月 創元社	
	岡部伊都子原稿「青風先生の風」*	「白珠」昭和 58 年（1983）10 月号	
	写真 岡部伊都子（左から 2 人目）と真溪涙骨をはさんで青風・サワノ夫妻。（青風の還暦を祝う「自然歌会」）*	昭和 30 年（1955）初秋	
	写真 一番前青風、2 列目左から岡部、真溪涙骨、その右後ろにサワノ。（青風の還暦を祝う「自然歌会」）*	昭和 30 年（1956）初秋	
<b>年譜</b>	80 歳の時の歌稿	「白珠」昭和 50 年（1975）7 月号掲載	
	写真 「水甕」の集まり*	昭和 6 年（1931）頃 明石・柿本神社	
	写真 40 歳の頃	昭和 10 年頃	
	写真 龍野中学校教え子の洋画家林鶴雄と*	昭和 28 年（1953）6 月	
	写真 宮中歌会始陪聴の際*	昭和 29 年（1954）1 月 12 日	
	写真 大阪天神祭で*	昭和 32 年（1957）7 月 25 日	
	写真 龍野の町を見下ろす*	昭和 38 年（1963）3 月 1 日	
	写真 龍野での「白珠」山上歌会*	昭和 43 年（1968）8 月 11 日	
	写真 個展会場を訪れた須田剋太と*	昭和 47 年（1972）	
	写真 晩年の夫妻*	昭和 50 年代	
	写真 箕面山荘にて*	昭和 54 年（1979）11 月 12 日	
	『短歌小感』	平成 9 年（1997）3 月 5 日 和泉書院	

## 2 第1回藤原正彦姫路文学館長講演会

我が国のオピニオンリーダーの一人である藤原正彦姫路文学館長（数学者・作家・お茶の水女子大学名誉教授）が、現在の日本社会、日本文化について講演するもの。当館の開館翌年にあたる平成4年（1992）から「夏季大学」と称して毎年開催していた著名人による連続講演会が令和3年（2021）をもって終了したことから、その後継行事として始動するはこびとなった。

日 時	令和4年（2022）6月11日（土）	午後1時30分～3時
会 場	姫路キャスパホール	
参加者数	300人	
内 容	「日本の進む道」	





### 3 第24回司馬遼太郎メモリアル・デー

現代日本を代表する作家であった司馬遼太郎の業績を顕彰するために、毎年司馬の生誕日である8月7日に開催。2年振りに会場を姫路文学館講堂に戻して実施した。

講師に国際日本文化研究センター所長の井上章一さんを招き、司会はラジオ関西番組のパーソナリティを務める田名部真理さんが担当した。

井上さんは、源義経が美少年というイメージがあるが、『平家物語』では「むか歯」(出っ歯)とされ、後に林羅山や『大日本史』でも論議された矛盾を、司馬遼太郎が出っ歯が「可愛い」という言葉で見事に落としどころを見つけたと指摘。また、鎌倉幕府について、NHK大河ドラマに描かれたように、テロリズムの横行する町で、野蛮な民度の低い武士たちの時代だったといえること、日本史では関東武士が律令体制を崩す土地革命を起こしたという関東史観と、武士も律令体制、荘園制に取り込まれただけという学説があり、近年は後者が有力になっていることなどを紹介された。関東史観をとっていた司馬を残念に思われつつ、しかし、そういう仁義に生きるもののふを描いたからこそ、あれだけの人気作家になったのだと語られた。

ラジオ関西が1時間の特別番組に編集し、8月13日(土)午後8時から放送した。

全記録を「姫路文学館紀要 No.26」に収録している。

日 時	令和4年(2022)8月7日(日)	午後1時30分～3時
会 場	姫路文学館 講堂	
協 賛	公益財団法人司馬遼太郎記念財団	
参加者数	150人	
内 容	講演：井上章一(国際日本文化研究センター所長) 「司馬遼太郎の歴史観と「鎌倉殿」	



井上章一氏

## 4 第8回藤原正彦エッセイコンクール

エッセイストとしても人気の高い当館の藤原正彦館長（数学者・作家・お茶の水女子大学名誉教授）が「読書」とともに推奨する「書くこと」の大切さを伝えるため、平成27年度に創設した。「生きることは創ること」という藤原館長の言葉をキャッチフレーズに、何気ない日常、出会った人や書物など、心のどこかに宿り自分自身をつくり出しているものを見つめ、考え、文章にする機会を全国に発信するものである。

入賞作品は、表彰式において配布する作品集（冊子）や、姫路文学館ホームページに掲載。また、各部門の最優秀作は文化雑誌「バンカル」127号（令和5年3月 姫路市文化国際交流財団発行）でも紹介した。

### ■賞の概要

#### (1) 応募規定

対象は中学生以上、テーマは自由、400字詰め原稿用紙5枚以内。日本語で書かれた自作で、未発表のものに限る。令和4年（2022）9月15日〆切。

#### (2) 審査員

姫路文学館長 藤原正彦氏（数学者・作家・お茶の水女子大学名誉教授）

#### (3) 賞

各部門とも〈最優秀賞〉〈優秀賞〉〈佳作〉各1編。賞状、藤原正彦館長のサイン入り著書と副賞を贈呈。  
〔副賞〕

	最優秀賞	優秀賞	佳作
中学生部門	図書カード1万円分	図書カード5千円分	図書カード2千円分
高校生部門	図書カード3万円分	図書カード1万円分	図書カード5千円分
一般部門	10万円	3万円	1万円

### ■受賞作及び受賞者

#### 【中学生部門】

最優秀賞 「ウソ」 藤澤 幸示（姫路市立琴陵中学校1年）

優秀賞 「忘れられないありがとう」 吉武 歩花（兵庫県 小林聖心女子学院中学校3年）

佳作 「四万十川の魔法」 虎島 佑奈（兵庫県 姫路市立広畑中学校2年）

#### 【高校生部門】

最優秀賞 「二枚目の貸出券」 白羽 佑果（兵庫県 小林聖心女子学院高等学校3年）

優秀賞 「家族の歴史」 藤原 あかり（兵庫県立加古川東高等学校2年）

佳作 「あの日と目が合った」 前田 乃愛（NHK学園高等学校2年）

#### 【一般部門】

最優秀賞 「味噌蔵の魔法使い」 高山 恵利子（パート 群馬県前橋市）

優秀賞 「あのね」 柴田 えみ子（外部調査員 北海道旭川市）

佳作 「外国のノート」 鍋島 えり（日本語教師 兵庫県淡路市）

※学年、職業は発表日（令和4年12月20日）時点

### ■応募点数

1,928点（中学生部門 162点、高校生部門 1,134点、一般部門 632点）

■表彰式

日 時 令和5年(2023)1月22日(日)午後1時30分～3時  
会 場 姫路文学館 講堂  
内 容 表彰式、各部門最優秀作(計3点)の朗読(音訳ボランティア サークルさえざり 水野香保里さん、吉田裕美さん)、藤原正彦姫路文学館長による講評・講演  
※一部の受賞者と藤原正彦館長はリモートで出席



受賞者、藤原正彦館長(スクリーン中央)と、館長の代理で表彰を行った佐野直人姫路市副市長

## 5 第11回「世界にひとつの絵本づくり」

夏休みの子ども向けワークショップ。2日にわたっておはなしを作り、実際に製本する作業まで体験できるプログラムを実施している。

講 師 成広のり子氏(画家・絵本作家)  
会 場 姫路文学館 講堂  
日 時 令和4年(2022)年7月30日(土)、8月6日(土)  
午前の部 午前10時～12時  
午後の部 午後2時～4時  
対 象 小学1年生～中学3年生  
参加費 1人(1冊)500円  
参加者 計74人と保護者



## 6 第11回KOTOBAMAまつり

会 期 令和5年(2023)2月12日(日)～2月23日(木・祝) 全2イベント  
会 場 姫路文学館 講堂

幅広い年齢層の参加者がさまざまなイベントを通して「ことば」との出会いを楽しむことのできる冬の恒例行事。

### ■絵本朗読劇「きつねのおきゃくさま」

姫路工業高等学校演劇部が朗読と演劇が一体となった独自の手法で、「きつねのおきゃくさま」(あまみきみこ・ぶん、二俣英五郎・え)を上演。小さなお子さんから大人まで、幅広い世代が楽しんだ。

日 時 2月12日(日)  
午前10時30分～午後4時10分  
(全6回公演・各回10分)  
出 演 兵庫県立姫路工業高等学校演劇部  
参加者 のべ170人



### ■「兵庫県立大学環境人間学部 卒業設計展 ー未来へ繋ぐ建築」

兵庫県立大学環境人間学部学生による卒業設計展の2年目。建築模型を展示するとともに、設計の趣旨や意図、活用のイメージも紹介し、学生が作品に込めた想いを自身の言葉で伝えた。同学部2年生から4年生の設計演習の優秀作品も展示。

会 期 2月18日(土)～23日(木・祝)  
協 力 兵庫県立大学環境人間学部  
来場者 275人



## 7 第14回如月まつり

地域との連携として、文学館東隣の男山八幡神社厄神祭の開催日にあわせて開催。常設展を無料開放し、姫路文学館友の会ボランティアによる常設展ガイド、古本市などを開催した。

日 時 令和5年(2023)2月18日(土)・19日(日) 午前10時～午後5時  
会 場 姫路文学館  
来場者 1,091人

### ○常設展(企画展)無料開放

企画展「没後40年記念 歌人安田青風展」(北館)を開催。

### ○文学館クイズラリー

こども用・おとな用2種類のクイズを作成し、答えを探しながら見学できるようにした。

### ○常設展ボランティアガイド

姫路文学館友の会ボランティアの展示ガイドワーキンググループ7人が担当した。

### ○おはなし会 in 望景亭

望景亭にて、姫路文学館友の会ボランティアのおはなし会グループ7人が絵本の読み聞かせを行った。

### ○古本市(南館さんかくギャラリー)

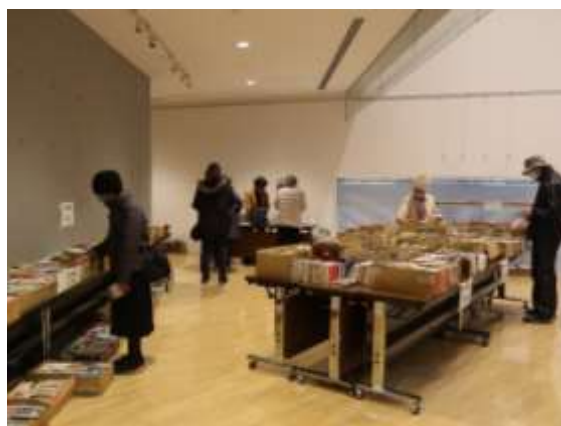
市民から提供された古本を50円～100円で販売。



常設展示ボランティアガイド



おはなし会 in 望景亭



古本市

## 8 講座・読書会

### (1) 古典文学講座「源氏物語の世界」

講 師 中川正美（梅花女子大学名誉教授）  
会 場 姫路文学館 講堂  
日 時 原則として第2金曜日 午前10時30分～12時  
受講料 （10回通しで）5,000円  
受講者 107人

#### 日程と内容

令和4年 4月8日（金）真木柱巻①玉鬘の結婚  
5月13日（金）真木柱巻②髭黒北の方  
6月10日（金）真木柱巻③北の方の引き取り  
7月8日（金）真木柱巻④尚侍として参内  
9月9日（金）梅枝巻①薫物調整  
10月14日（金）梅枝巻②仮名の草子染筆  
11月11日（金）梅枝巻③頭中将の焦燥  
12月9日（金）藤裏葉巻①夕霧の結婚  
令和5年 1月13日（金）藤裏葉巻②明石姫君入内  
2月10日（金）藤裏葉巻③準太上天皇

### (2) 文学思想講座「よりよく自己を生きるために 「広く」そして「深く」

講 師 岡田勝明（姫路獨協大学名誉教授）  
会 場 姫路文学館 講堂  
日 時 原則として第1木曜日 午前10時～11時30分  
受講料 （10回通しで）5,000円  
受講者 137人

#### 日程と内容

令和4年 4月7日（木）まど・みちお『いわずにおれない』 …いのち輝くことば  
5月12日（木）大森曹玄『剣と禅』… 剣禅一如の人の道  
6月2日（木）東畑開人『心はどこへ消えた？』 …心を開く  
7月7日（木）山下好孝『関西弁講義』 …あ、そうなんや  
8月4日（木）橋爪大三郎・大澤真幸『げんきな日本論』 …歴史とは物語  
10月6日（木）赤瀬川原平『老人力』 …世の中の八掛けが人生  
11月10日（木）國分功一郎『はじめてのスピンザ』 …思考のOSを書きかえる  
12月1日（木）大森荘蔵・坂本龍一『音を視る、時を聴く』 …知覚以前の知覚  
令和5年 1月12日（木）西村ユミ『語りかける身体』 …身体のコモンセンス  
2月2日（木）伊藤亜紗『手の倫理』 …「さわる」と「ふれる」

(3) 市民名作講座「近現代文学中の名作」に挑む

講 師 菅原美文（近現代文学を読む会主宰）  
会 場 姫路文学館 会議室  
日 時 原則として毎月第3木曜日 午前10時～11時50分  
参加者 16人

課題図書

- 令和4年4月21日（木）野上弥生子『秀吉と利休』中公文庫  
富田武『日ソ戦争 1945年8月 一棄てられた兵士と居留民』みすず書房
- 5月19日（木）北杜夫『青年茂吉』『壮年茂吉』『茂吉彷徨』『茂吉晩年』岩波現代文庫  
『楡家の人びと』新潮文庫
- 6月16日（木）堀田善衛『ミシェル城館の人』集英社文庫
- 7月28日（木）マーガレット・アトウッド『洪水の年』岩波書店
- 8月4日（木）復本一郎『正岡子規伝 わが心世にしこのらば』岩波書店  
佐藤春夫『晶子曼陀羅』講談社文芸文庫  
ドナルド・キーン『石川啄木』新潮社
- 9月8日（木）堀川恵子『暁の宇品 一陸軍船舶司令官たちのヒロシマ』講談社  
佐江衆一『野望の屍』新潮社
- 10月20日（木）オレノ・ド・バルザック『農民』岩波書店
- 11月17日（木）ディケンズ『デイヴィッド・コパフィールド』新潮文庫
- 12月15日（木）エヴァ・ホフマン『シュテットル…ポーランド・ユダヤ人の世界』みすず書房
- 令和5年1月26日（木）埴谷雄高『死霊』講談社文芸文庫

(4)「司馬遼太郎の「胡蝶の夢」「花神」「西域をゆく」「歴史と風土」などを読む」読書会

南館・司馬遼太郎記念室において常設展示している司馬遼太郎の作品を読む読書会。参加者が、課題図書の内容にそって考えを自由に述べあい、作品の理解を深めることを目的とする。

令和4年度は、幕末から明治維新の時代を医療の観点から見た「胡蝶の夢」、戊辰戦争で天才的な軍才を振るい近代日本兵制を創始した大村益次郎の半生を描いた「花神」、また西域を同行した井上靖と司馬二人が語る「西域をゆく」、談話集「歴史と風土」などの作品を取り上げた。

会 場 姫路文学館 会議室

日 時 原則として毎月第2土曜日 午前9時30分～12時

参加者 25人

課題図書

- |           |     |                           |
|-----------|-----|---------------------------|
| 令和4年5月14日 | (土) | 『街道をゆく39 ニューヨーク散歩』        |
| 6月11日     | (土) | 『アメリカ素描』                  |
| 7月9日      | (土) | 『西域をゆく』                   |
| 8月13日     | (土) | 『胡蝶の夢 一・二』(「崎陽の雲」まで)      |
| 9月10日     | (土) | 『胡蝶の夢 三・四』(「暗転」から)        |
| 10月8日     | (土) | 『街道をゆく11 肥前の諸街道』          |
| 11月12日    | (土) | 『歴史と風土』                   |
| 12月10日    | (土) | 『花神』(上～中「長門の国」まで)         |
| 令和5年2月4日  | (土) | 『花神』(中「情縁」～下)             |
| 3月11日     | (土) | 『街道をゆく1 湖西のみち、甲州街道、長州路ほか』 |



## 9 「トライやる・ウィーク」・博物館実習

### ■トライやる・ウィーク

兵庫県が平成10年度から県内の中学2年生を対象として実施している地域での体験活動週間。令和4年度は、下記の中学校から4名の生徒を受け入れた。生徒は、館職員の指導のもと、特別展「とびだせ！長谷川義史展」で長谷川義史さんの絵本コーナーに設置するお薦め本の紹介パネル作成をはじめとして、資料取り扱い実技、郵送物準備作業、館ボランティアとの発送作業や、館内の清掃、受付業務など、さまざまな業務を体験した。

期 間 令和4年(2022)5月31日(火)～6月3日(金)  
計4日間

実習生 姫路市立灘中学校 2名  
姫路市立広畑中学校 2名



### ■博物館実習

学芸員資格取得の講座を持つ下記の大学からの依頼を受け、次のとおり実施した。

期 間 令和4年(2022)8月5日(金)～10日(水) 計5日間

実習生 専修大学1人、山口大学1人、神戸女子大学3人、信州大学1人、武庫川女子大学2人、関西学院大学1人、神戸芸術工科大学1人、神戸松蔭女子学院大学2人 計12人

	午 前		午 後	
8月5日 (金)	9:30～10:00 オリエンテーション 課題(企画展立案)説明	会議室 (南館・地下)	13:00～14:00 文学館活動概説	会議室
	10:00～12:00 館内見学 ・図書室(現代はりまゆかりの作家たち) ・常設展 ・特別展(「長谷川義史展」)	館内	14:15～15:30 企画展の実務の流れ	
			15:40～ 絵本づくり準備(パーツづくり)	
8月6日 (土)	9:30～12:00 絵本づくり 補助 ※半数(6人ずつ班分け)は収蔵庫清掃及び点検口確認作業。	講堂	13:00～16:30 絵本づくり補助 ※半数(6人)は収蔵庫清掃及び点検口確認作業。 16:30～絵本づくり終了後、全員でメモリアル・デー準備作業	講堂
8月7日 (日)	9:30～10:30 掛軸・巻子の取り扱い	閲覧室	13:30～15:00 司馬遼太郎メモリアル・デー ※半数ずつ会場に上がり、約40分ほど補助と見学。見学外の時間は宛名シール貼り 15:00～ 会場片付け 全員	講堂
	10:45～12:30 資料の状態チェック、調書の実務(竹廣)			

8月9日 (火)	9:30～12:00 キャプション、企画展リード文等の 作成について 解説と実作	会議室	13:00～17:00 課題（企画展立案）、自習 （中性紙箱組立て作業）	会議室
8月10日 (水)	9:30～12:00 企画展構想 発表準備 （発表用資料のコピー等）	会議室	13:00～15:30 課題（企画展立案）の発表	会議室
			15:45～17:00 館作業補助 実習ノートまとめ	

## 10 出前講座

実施日	出講先	内 容	講 師
4月7日	時事通信社主催姫路朝食会	姫路の文学	徳重公美学芸員
4月21日	三友会総会	姫路の文学	甲斐史子副館長兼学芸課長
6月1日	姫路ユネスコ協会総会	はりまの姫君 千姫の生涯	甲斐史子副館長兼学芸課長
7月12日	高砂市高齢者大学	姫路文学館の魅力と企画展「長谷川義史展」	杉田陽子学芸員
7月26日	賢明女子学院中学校	学芸員の仕事	杉田陽子学芸員
8月20日	神河町成人ゼミナール	柳田國男と民俗学	徳重公美学芸員
8月26日	姫路市立安室東公民館	播州皿屋敷と全国のお菊さん	甲斐史子副館長兼学芸課長
10月10日	川柳ゆにゼミ(オンライン)	文学館学芸員の仕事ー姫路文学館の場合	竹廣裕子学芸課課長補佐
10月20日	姫路市立飾磨橋東公民館	もっと知りたい播磨の文学者、学者たち 和辻哲郎	玉田克宏学芸員
10月21日	姫路ゆかりの千姫フェスタ	物語に描かれた千姫	甲斐史子副館長兼学芸課長
11月9日	姫路市立八幡公民館	司馬遼太郎の播磨	玉田克宏学芸員
11月9日	姫路商工会議所婦人部	播磨の宮本武蔵 史実と伝説と小説と	杉田陽子学芸員
11月18日	姫路市青い鳥学級	播磨国風土記ーむかしむかしのはりまのおはなし	甲斐史子副館長兼学芸課長
11月19日	姫路市立城の西公民館	西山松之助と江戸の文化	徳重公美学芸員
12月18日	姫路市立手柄公民館	司馬遼太郎の播磨	玉田克宏学芸員
1月20日	姫路市立城北公民館	歌人安田青風の人と作品	竹廣裕子学芸課課長補佐
2月10日	金曜会	古人が見た姫山ー播磨国風土記と万葉集から	甲斐史子副館長兼学芸課長
3月19日	室津海駅館	室津と文学	竹廣裕子学芸課課長補佐

## 11 出版活動

姫路文学館では、展覧会に際しての図録やパンフレットの制作、館報「手帖・姫路文学館」や目録、紀要の発行等を行っている。

### (1) 姫路文学館紀要の発行

学芸部門の研究成果を世に問う場として、平成9年度より紀要を発行している。(年刊)

『姫路文学館紀要 No.26』

令和5年3月31日 編集・発行／姫路文学館

A5判 222頁 300部 ¥800

内容 〔第24回司馬遼太郎メモリアル・デーの講演、質疑応答〕

□講演「司馬遼太郎の歴史観と「鎌倉殿」」井上章一（国際日本文化研究センター所長）  
〔研究〕

続・司馬遼太郎の播磨 玉田克宏

〔資料紹介〕

辻善之助「欧米巡歴録 ロンドンとその周辺」

### (2) 館報「手帖・姫路文学館」の定期発行

年4回 令和4年4月1日（第123号）

令和4年10月1日（第125号）

A4判 8頁 非売品

令和4年7月1日（第124号）

令和5年1月1日（第126号）



手帖 姫路文学館 123号



124号



125号



126号

# 資料概要

## 1 資料収集状況

### (1) 令和4年度収集資料数

※登録番号を採番した（整理をおこなった）資料の数。

種別	購入	寄贈	制作	その他	計
書籍・雑誌	592	632	23	12	1,259
原稿	7	81			88
書簡	8	168			176
書画・墨蹟	0	114		15	129
遺品					
その他	2	327	5	36	365
写真	0	17			17
映像・音声	3	13		2	18
レプリカ					2
計	612	1,352	25	65	2,054

資料総数 約18万点

### 主な新資料

#### 〔寄贈〕

- 東海晴美氏 東海洋士自筆ノート、書簡、写真等一式 146点
- 増田まさみ氏 永田耕衣書簡等 17点
- 越智裕二郎氏 永田耕衣短冊他 2点
- 安田純生氏 安田章生学位論文「藤原定家の研究」原稿（製本済）6冊
- 山崎晃嗣氏 梶子節宛書簡 49通
- 左鴻昌一氏 高島俊男関連資料 13点
- 小寺啓章氏 高島俊男関連資料 34点
- 木割大雄氏 赤尾兜子木製句額「宍粟大湖青栗のある夕餘色」
- 赤木弘子氏 牧野富太郎書幅「朝夕に草木を吾の友とせばこゝろ淋しき折ふしもなし」
- 石倉達也氏 石倉如山（石倉三男）旧蔵資料一式 129点
- 西山高暉氏 西山松之助画 稽古用舞扇 1点

#### 〔購入〕

- 木山捷平草稿「お詫びかたがた」（2枚）
- 『我等』（大正6年 青テーブル社）
- 前田林外草稿「西鶴と近松のおさん茂兵衛」（10枚）
- 「破声」2巻 4・5号
- 佐多稲子草稿「初歩的なこと」（4枚）
- 阿部知二書簡（澤田貞雄宛）
- 阿部知二草稿「恋愛」（64枚）

(2) 情報検索システム登録件数 (令和5年5月15日現在)

種別	件数
書籍	71,407
雑誌	52,091
書簡	10,478
書画・遺墨	1,945
原稿	4,712
写真	437
映像・音声	1,029
その他	12,322
文人基本データ	325
デジタルアーカイブ	1,342
絵本・児童書	1,717
計	157,805

システム開発 株式会社プラグイン (旧・環境総合研究所)

## 2 協力者一覧 (50音順 敬称略)

### 【個人】

赤木弘子	明石久美子	麻生直子	有本俱子	井出信子	石川 肇	石倉達也
岩根長五郎	上野一孝	植村初子	歌井昭夫	上村亮二	内野豊大	大谷司郎
大野とくよ	小澤紘司	落山泰彦	越智裕二郎	小畑庸子	香山雅代	川涯利雄
神沢利子	木村 勲	季村敏夫	木割大雄	小坂忠弘	小谷 茂	小寺啓章
小林孝吉	近藤健史	櫻井 丞	左鴻昌一	佐藤勝美	佐藤岳俊	塩崎英彌
白濱忠信	城谷 章	寿賀義治	鈴木 漠	高島慎助	高橋夏男	竹本健治
玉井洋子	恒藤滋生	鶴山裕司	津山邦寧	東海晴美	時里二郎	中島妙子
中塚廣重	中村暢夫	中村紀博	中村猛虎	中元孝迪	難波正司	西山高暉
葉名尻竜一	濱田利英	橋本忠之	原田研一	平子恭子	富士本 健	本間正幸
前川 博	前田隆弘	増田まさみ	松田隆信	松本裕之	茉莉亜まり	三木基弘
森本 穂	山岡佳乃	山崎晃嗣	山下紀年	山野博史	安田純生	米田恵子

### 【法人】

會津八一記念館	青森県立郷土館	青森県近代文学館	明石市立天文科学館	明石市立文化博物館
秋田県立博物館	あきた文学資料館	赤穂義士顕彰会	赤穂市教育委員会	赤穂市立美術工芸館田淵記念館
赤穂市立歴史博物館	あさご芸術の森美術館	旭川市井上靖記念館	芦屋市谷崎潤一郎記念館	梓俳句会
尼崎芸術文化協会	尼崎市文化振興財団	尼崎市立歴史博物館田能資料館	石川近代文学館	石川県西田幾多郎記念哲学館
石川県立美術館	石坂洋次郎文学記念館	泉鏡花記念館	市川町教育委員会	一茶記念館
印南野半どんの会	井上靖記念館	井上靖記念文化財団	茨木市立川端康成文学館	いぶき発行所
公益財団法人いわき市教育文化事業団	いわき市立草野心平記念文学館	岩手県立博物館	印刷博物館	特定非営利活動法人絵本・児童文学研究センター
円虹発行所	大倉精神文化研究所	大阪国際児童文学振興財団	大阪歴史博物館	大田区立龍子記念館
岡山シティミュージアム	小川未明文学館	小野市立好古館	貝の会	香川県立ミュージアム
学習院大学史料館	学習院大学上代文学研究会	かごしま近代文学館・かごしまメルヘン館	加西市ふるさと創造部文化・観光・スポーツ課	加西短歌の会
風花随筆文学賞実行委員会	霞城館	火星俳句会	神奈川近代文学館	公益財団法人神奈川文学振興会
公益財団法人金沢文化振興財団	金沢文芸館	金沢湯涌夢二館	鎌倉文学館	軽井沢高原文庫
河井継之助記念館	河井継之助記念館友の会事務局	河出書房新社	関西俳誌連盟	企画展「野里地区を彩る人々」実行委員会
菊池寛記念館	北九州市立文学館	北九州市立松本清張記念館	京都市学校歴史博物館	京都府京都文化博物館
京都府文化スポーツ部文化芸術課	虚子記念文学館	銀河書籍	近代作家旧蔵書研究会	吟遊社
九年母会	窪田空穂記念館	熊平製作所	くまもと文学・歴史館	クリエイティブ・スイート
群馬県立土屋文明記念文学館	現代川柳研究会	香雪美術館	高知県越知町立横倉山自然の森美術館	高知県立文学館
神戸市立小磯記念美術館	神戸女子大学古典芸能研究センター	神戸市立博物館	神戸新聞総合出版センター	神戸深江生活文化資料館
交友プランニングセンター	こおりやま文学の森資料館	國學院大學博物館学研究室	越谷市立図書館野口富士男文庫	高志の国文学館
小諸市教育委員会	彩雲の会	さいたま市教育委員会	さいたま文学館	埼玉文芸家集団
斎藤茂吉記念館	坂の上の雲ミュージアム	朔太郎大全実行委員会	佐佐木信綱顕彰会	山頭火ふるさと館

詩歌探究社蓮	四季派学会東京事務所	詩人会議	児童文学同人「花」	司馬遼太郎記念館
紫明の会	周南市美術博物館	春陽堂書店	勝央美術文学館	ジョセフ彦記念会
白河市歴史民俗資料館	白珠社	新宮市立佐藤春夫記念館	新宿区立漱石山房記念館	新葉館出版
杉発行所	成城大学民俗学研究所	西南学院大学博物館	公益財団法人世界人権問題研究センター	世界俳句協会
世田谷文学館	仙台文学館	船団の会	相馬御風記念館	園田学園女子大学近松研究所
太子町立歴史資料館	太地町立くじらの博物館	高岡市万葉歴史館	高梁市成羽美術館	高山市
高山市文化協会	竹中大工道具館	田鶴発行所	たつの市立龍野歴史文化資料館	たつの市立室津海駅館
鬣の会	館林市教育委員会	たねの会	短歌ぐるうぶ象の会	短歌人会
丹生短歌会	遅筆堂文庫	沖積舎	ちゅうでん教育振興財団	潮流詩派の会
調布市武者小路実篤記念館	調布市武者小路実篤記念館運営事業団	東京都江戸東京博物館	東京都台東区中央図書館	時の川柳社
徳島県立文学書道館	徳田秋聲記念館	栃木市立文学館	鳥取県立博物館	鳥羽水族館
富山市郷土博物館	中原中也記念館	中村元記念館東洋思想文化研究所	「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト実行委員会	新美南吉記念館
西宮芸術文化協会	西脇順三郎を偲ぶ会	日本歌人クラブ	日本近代音楽館	日本近代文学館
独立行政法人日本芸術文化振興会日本博事務局	日本現代詩歌文学館	女人随筆社	公益社団法人沼津牧水会	野田宇太郎文学資料館
公益社団法人俳人協会・俳句文学館	萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館	萩原朔太郎研究会	白圭社	原阿佐緒記念館
播磨学研究所	播磨町郷土資料館	播火編集事務局	阪急文化財団	火野葦平資料館
姫路科学館	姫路歌人クラブ	姫路コンベンションビュロー	『姫路城史』を読み直す会	姫路市書写の里・美術工芸館
姫路市立動物園	姫路市立美術館	姫路市文化国際交流財団	姫路市立城郭研究室	姫路市立城内図書館
姫路市立水族館	姫路文学会	姫路文学人会議	兵庫県歌人クラブ	兵庫県現代詩協会
兵庫県立考古博物館	兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科	兵庫県立大学・豊岡ジオ・コウノトリキャンパス	兵庫県立美術館	兵庫県立兵庫津ミュージアム
兵庫県立人と自然の博物館	兵庫県立歴史博物館	ひょうご歴史研究室	ひろば俳句会	福井県ふるさと文学館
福岡市文学館	福岡町教育委員会	福岡町立神崎郡歴史民俗資料館	福岡町立柳田國男・松岡家記念館	ふくやま文学館
文学園社	文京ふるさと歴史館	文京区立森鷗外記念館	公益財団法人北海道立文学館	町田市立自由民権資料館
松の花俳句会	松山市立子規記念博物館	三浦綾子記念文化財団	美加志保短歌会	一般社団法人岬の分教場保存会
三鷹市山本有三記念館	見野の郷交流館	美作学術文化振興財団	宮柊二記念館	室生犀星記念館
鶴の木俳句会	森鷗外記念館	焼津小泉八雲記念館	やまぐに俳人会	大和文華館
山梨県立文学館	やまなし文学賞実行委員会事務局	横尾忠則現代美術館	与謝野晶子倶楽部	吉村昭記念文学館
らん編集部	立命館大学国際平和ミュージアム	LingmoオクトM+の会	ロマネコンティ俳句ソシエテ	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

### 3 文学館資料の出版物等掲載状況

掲載許可先	掲載番組・書籍等	提供資料・期間等
日本近代文学館	2022年夏季企画展「教科書のなかの文学／教室のそとの文学VI－夏目漱石「こころ」とその時代」令和4年6月25日～9月10日	夏目漱石書簡和辻哲郎宛（大正2年10月5日） 1点 ※画像データ提供
株式会社日経映像制作本部	NHKワールドJAPAN「Direct Talk」（松田青子氏紹介）9月	伊藤晴雨「皿屋敷のお菊」 ※画像データ提供
小峰城歴史館	特別企画展「松平定信と渋沢栄一～時代を超えたつながりと白川～」 令和4年9月17日～11月13日（日）	三上参次肖像写真写真 ※画像データ提供
竹久夢二美術館	「夢二をとりまく人間関係－交流から生まれた美と言の葉」令和4年10月1日～12月12日	有本芳水肖像写真 ※画像データ提供
神戸新聞総合印刷	中島妙子著『椎名麟三と文学』	椎名麟三関係資料 12点
見野の郷交流館	「千姫と姫路城」令和4年10月1日～11月13日	千姫ゆかりの地写真 4点
文京区立森鷗外記念館	特別展「鷗外遺産～直筆資料が伝える心の軌跡」令和4年10月22日～令和5年1月29日	井上通泰肖像（「松岡五兄弟」展示図録27頁掲載）



# 運 営 管 理

## 1 利用状況

### (1) 入館者数

令和4年度(2022年度)常設展観覧者数

[単位:日、人]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	26	27	26	27	26	26	26	24	21	22	23	26	300
一般	320	429	398	1,008	1,372	440	160	185	98	154	154	301	5,019
大・高	10	13	10	39	95	31	4	6	3	9	14	6	240
中・小	16	21	48	153	290	35	3	2	4	4	2	22	600
団体一般	178	352	526	2,215	3,440	808	103	137	47	74	59	157	8,096
団体大高	6	11	8	43	91	19	25	1	1	0	4	8	217
団体中小	6	229	136	331	729	181	2	9	18	2	0	273	1,916
その他	228	411	400	888	1,495	563	235	378	232	91	545	130	5,596
合計	764	1,466	1,526	4,677	7,512	2,077	532	718	403	334	778	897	21,684

令和4年度(2022年度)企画展観覧者数

[単位:人]

企画展	1月14日～3月26日 60日	合計 開催日数60日
	歌人安田青風展	
一般	529	529
大学生・高校生	24	24
中学生・小学生	16	16
団体 一般	252	252
団体 大学生・高校生	9	9
団体 中学生・小学生	274	274
招待等	711	711
幼稚園以下	46	46
合計	1,861	1,861

令和4年度(2022年度)特別展観覧者数

[単位:人]

特別展	4月16日～6月5日 45日	6月25日～9月4日 62日	9月23日～12月4日 61日	合計 開催日数168日
	山田風太郎展	とびだせ!長谷川義史展	西山松之助展	
一般	660	2,735	205	3,600
大学生・高校生	19	142	7	168
中学生・小学生	8	488	3	499
団体 一般	534	6,766	241	7,541
団体 大学生・高校生	11	155	5	171
団体 中学生・小学生	232	1,183	87	1,502
招待等	773	1,815	690	3,278
幼稚園以下	10	1,191	5	1,206
合計	2,247	14,475	1,243	17,965

令和4年度文学館利用状況(再掲)	
常設展・特別企画展入館者(◎)	21,684人
施設利用者	5,974人
その他行事参加者	38,823人
合計	66,481人

◎常設展・企画展・特別展観覧者 内訳	
特別展	17,965人
常設展(企画展開催中)	1,861人
常設展(企画展なし)	1,858人

※特別展または企画展を観覧した人数は、19,826人

入館者数（貸館利用者等を含む）

年 度	開館日数 (日)	来館者数（人）		再掲：うち観覧者数（人）			
		来館者数（人）	累計（人）	観覧者数（人）	累計（人）	再々掲：うち特別企画展 （人）	（日数）
平成3年度	300	70,427	70,427	44,575	44,575	37,090	204
平成4年度	298	62,755	133,182	32,268	76,843	25,263	171
平成5年度	296	45,104	178,286	24,571	101,414	20,242	196
平成6年度	298	48,134	226,420	23,276	124,690	18,292	134
平成7年度	299	37,224	263,644	13,524	138,214	7,328	78
平成8年度	297	59,602	323,246	29,961	168,175	23,233	141
平成9年度	298	34,522	357,768	14,050	182,225	9,484	134
平成10年度	298	33,995	391,763	16,824	199,049	10,752	160
平成11年度	296	39,383	431,146	23,470	222,519	10,969	120
平成12年度	300	34,885	466,031	16,838	239,357	7,885	116
平成13年度	300	34,055	500,086	16,123	255,480	8,017	123
平成14年度	300	37,284	537,370	15,756	271,236	7,159	130
平成15年度	300	48,264	585,634	26,830	298,066	17,572	141
平成16年度	298	35,979	621,613	14,780	312,846	7,522	133
平成17年度	301	39,694	661,307	14,677	327,523	7,959	117
平成18年度	303	46,445	707,752	16,327	343,850	8,959	131
平成19年度	303	43,738	751,490	14,234	358,084	7,652	131
平成20年度	303	58,002	809,492	26,740	384,824	16,672	122
平成21年度	300	63,529	873,021	28,564	413,388	13,870	135
平成22年度	299	96,391	969,412	53,210	466,598	25,396	146
平成23年度	304	93,474	1,062,886	59,631	526,229	29,515	147
平成24年度	305	139,059	1,201,945	83,021	609,250	39,091	140
平成25年度	302	75,030	1,276,975	37,148	646,398	16,161	175
平成26年度	301	70,686	1,347,661	34,189	680,587	14,720	139
平成27年度	60	34,278	1,381,939	18,176	698,763	9,150	45
平成28年度	198	71,108	1,453,047	20,398	719,161	18,341	186
平成29年度	302	70,255	1,523,302	16,067	735,228	14,047	254
平成30年度	303	95,077	1,618,379	26,660	761,888	24,270	253
令和元年度	279	95,497	1,713,876	29,704	791,592	27,804	242
令和2年度	247	41,531	1,755,407	13,114	804,706	11,916	175
令和3年度	286	84,045	1,839,452	36,146	840,852	34,779	210
令和4年度	300	66,481	1,905,933	21,684	862,536	19,826	228

## (2) 施設見学受付状況

日程	曜	団体・個人名	人数(人)	備考
令和4年	4月15日	金 兵庫県立明石南高等学校	4人	常設展展示見学
	5月19日	木 伊丹市立荒牧中学校	171人	特別展展示見学
	5月24日	火 姫路市立東光中学校	56人	特別展展示見学
	6月1日	水 姫路市立城乾小学校	91人	常設展展示解説、展示見学
	7月8日	金 姫路市立城乾幼稚園	26人	特別展展示見学
	7月15日	金 姫路市立野里小学校	50人	特別展展示見学
	7月20日	水 姫路市立城北公民館	9人	特別展展示解説、展示見学
	7月28日	木 姫路市立城東公民館 姫路市立野里公民館	25人	特別展展示解説、展示見学
	8月3日	水 丹波市立柏原中学校	15人	特別展展示見学
	8月4日	木 姫路市立山陽中学校	62人	特別展展示見学
	8月5日	金 東洋大学附属姫路中学校	4人	特別展展示見学
	8月18日	木 のぎ保育園	29人	特別展展示見学
	8月24日	水 のぎ保育園	27人	特別展展示見学
	8月25日	木 網干保育園	25人	特別展展示見学
	8月30日	火 網干保育園	39人	特別展展示見学
	8月30日	火 姫路市立東公民館	22人	特別展展示解説、展示見学
	8月31日	水 網干保育園	22人	特別展展示見学
	9月9日	金 姫路市立香呂南小学校	26人	常設展展示見学
	9月28日	水 福崎町立田原小学校	84人	特別展展示見学
	10月15日	土 青山学院大学	8人	特別展展示見学、望景亭見学
	10月21日	金 姫路市立城乾公民館	20人	特別展展示解説、展示見学
	10月28日	金 姫路市立高岡公民館	10人	特別展展示解説、展示見学
	11月17日	木 水上校区老人クラブ	49人	常設展展示見学、望景亭見学
	12月7日	水 姫路市立神南中学校	19人	常設展展示見学
令和5年	3月10日	金 姫路市立城山中学校	10人	常設展展示解説、展示見学
	3月14日	火 姫路市立朝日中学校	209人	常設展展示見学
	3月15日	水 日ノ本幼稚園	32人	常設展展示見学
	3月16日	木 姫路市立夢前中学校	12人	常設展展示見学
	3月16日	木 西脇市立西脇南中学校	39人	常設展展示見学
	3月16日	木 神戸市立井吹台中学校	7人	常設展展示見学

## (3) 館使用者数

## 令和4年度(2022年度)館使用状況

〔単位：件、人〕

		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計				
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	
講堂	午前	8	464	6	345	8	499	6	317	4	178	5	299	7	411	4	262	4	253	6	280	2	149	1	35	61	3,492	195	10,740	
	午後	5	368	9	476	8	453	7	325	5	157	9	499	9	309	6	312	7	427	6	203	8	321	4	168	83	4,018			
	全日	5	185	3	170	2	130	6	460	9	760	1	53	4	235	4	245	2	69	3	209	7	545	5	169	51	3,230			
和室	午前	10	64	5	27	9	50	2	13	2	16	5	31	4	26	14	79	4	19	1	4	2	12	10	79	68	420	156	1,657	
	午後	15	91	9	54	4	19	2	9	4	23	4	29	2	10	16	81	2	8	0	0	1	13	6	32	65	369			
	全日	0	0	4	53	1	40	0	0	1	40	2	70	8	491	2	38	2	44	0	0	0	0	3	92	23	868			
茶室	午前	1	5	0	0	2	9	0	0	0	0	0	0	2	6	1	7	2	10	0	0	1	0	2	22	11	59	32	213	
	午後	1	4	0	0	1	7	2	5	0	0	2	8	0	0	1	7	1	3	0	0	0	0	1	8	9	42			
	全日	0	0	1	0	0	0	0	0	1	40	0	0	7	30	2	38	1	4	0	0	0	0	0	0	12	112			
洋間	午前	0	0	0	0	1	0	0	0	1	15	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	22	6	37	24	166	
	午後	2	24	0	0	2	40	1	0	0	0	2	7	0	0	2	25	0	0	0	0	2	33	0	0	11	129			
	全日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0			
特展室	午前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	午後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	全日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
さんかくギャラリー	午前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	午後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	全日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
会議室等	午前	2	21	2	33	4	43	5	49	4	43	4	42	4	39	4	45	4	38	2	22	4	38	3	29	42	442	79	802	
	午後	1	6	4	40	2	20	2	22	3	18	3	26	1	9	1	10	2	20	2	15	0	0	5	58	26	244			
	全日	1	17	1	11	0	0	0	0	4	48	2	4	0	0	1	4	2	32	0	0	0	0	0	0	11	116			
合計		51	1,249	45	1,209	44	1,310	33	1,200	38	1,338	39	1,068	55	1,566	58	1,153	33	927	20	733	28	1,111	42	714	486	13,578	486	13,578	

## (4) 資料特別観覧申請

## 令和4年度(2022年度)資料特別観覧状況

区 分			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計		
熟 覧		件数	0件	2件	3件	4件	0件	1件	0件	0件	0件	1件	0件	2件	13件		
複 写	電子複写機使用		枚数	0件	6件	152件	1件	75件	0件	48件	2件	7件	20件	0件	162件	473件	
			金額	0円	120円	3,040円	20円	1,500円	0円	960円	40円	140円	400円	0円	3,240円	9,460円	
撮 影	新規撮影	学術用途	枚数	0件	1件	6件	0件	128件	5件	0件	0件	33件	0件	5件	0件	178件	
			金額	0円	210円	1,260円	0円	26,880円	1,050円	0円	0円	6,930円	0円	1,050円	0円	37,380円	
		その他用途	枚数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
			金額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
	フィルム貸 出し・ データ提供	学術用途	枚数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
			金額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	
		その他用途	枚数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
			金額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	
合 計			0円	330円	4,300円	20円	28,380円	1,050円	960円	40円	7,070円	400円	1,050円	3,240円	46,840円		

## (5) 出版物等販売数

## 令和4年度(2022年度)復刻本等売払い状況

(単位:円、冊)

図 書 名		単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	冊数	金額	
書籍・雑誌	自叙伝の試み	2,800						1							1	2,800	
	井上通泰伝	600			2		1				1			1	5	3,000	
	芳水詩集	1,500											1		1	1,500	
	明治時代の歴史学界	2,300	1										1		2	4,600	
	猫背の散歩	1,200									1				1	1,200	
	野球美談	1,500												1	1	1,500	
	意志表示	470	1	1		2						1		2	7	3,290	
	自由の彼方で	1,500										1			1	1,500	
	阿部知二 道は晴れてあり	2,000												1	1	2,000	
	夫和辻哲郎への手紙	680									1				1	680	
	妻和辻照への手紙(上)	800		1								1			2	1,600	
	妻和辻照への手紙(下)	780									1				1	780	
	邂逅	1,600							1						1	1,600	
	播磨古歌考	3,000											1		1	3,000	
	近代播磨文学史	1,800	1				1								2	3,600	
	恋うたの現在	1,300													1	1,300	
	戯曲選	2,000								1					1	2,000	
	文庫目録	500			1							1			2	1,000	
	紀要N03~25	800		1	1		11	2	3			8	5	5	7	43	34,400
	図録	和辻哲郎展	1,000	1	1	2			1	1	2			2	1	11	11,000
酒井宗雅展		1,000							1	1	1				3	3,000	
森はな展		1,200		1		1						1			3	3,600	
椎名麟三の昭和展		1,500				1					1		1		3	4,500	
有本芳水展		1,200			1							1			2	2,400	
二人のヨーロッパ展		1,200					1	1	1	1			1		5	6,000	
泉鏡花と「天守物語」展		1,200		4	3		1		1					2	11	13,200	
とっておきコレクション展		800										1			1	800	
お夏清十郎展		1,200		1	2				1				1		5	6,000	
安野光雄絵本の世界		1,000		1											1	1,000	
播磨の旅人たち		1,200										1			1	1,200	
あの日の子どもたち展		1,200		1	1				1			1			4	4,800	
戦後期文学のクラシックス展		600									1				1	600	
近世播磨の俳諧展		1,200								1					1	1,200	
ごんぎつねの世界		800								1				1	1	3	2,400
作家車谷長吉展		1,200		2					2	1	1				6	7,200	
西脇順三郎展		800			1							1			2	1,600	
黒田官兵衛の魅力		500				1	1					1			3	1,500	
西山英雄装画「播磨灘物語」展		1,000	1	1			2	1							5	5,000	
官兵衛と軍師を描いた文豪たち展		600					1								1	600	
夏目漱石 漱石山房の日々展		700		2						1				1	1	5	3,500
姫路文学館ガイドブック		400	6	3	8	10	5	3	4	4	6	3	4	7	12	71	28,400
時実新子展		600			1					1		1			3	1,800	
五十嵐播水展		600							1	1		1		1	4	2,400	
永田耕衣展		700		3	4					1	48	1	1	2	1	61	42,700
樋口一葉展		1,000		1		1									2	2,000	
没後60年岸上大作展		1,000		1	2		2	1	1						1	8	8,000
五味康祐展		1,000	1	3	2								1	1	8	8,000	
山田風太郎展		1,000	72	162	86										320	320,000	
西山松之助展		1,000							18	48	58	23	5	1	1	154	154,000
安田青風展	1,000											74	47	69	190	190,000	

図 書 名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	冊数	金額
しおり+ポストカード	250	1	2	1	1	3	1		2		2		2	15	3,750
合計	冊数	85	192	118	17	29	34	69	123	49	96	74	102	988	
	金額	82,220	188,070	110,550	9,390	21,450	33,850	66,400	102,760	43,770	93,400	71,300	90,340		913,500

#### 暗唱ノート

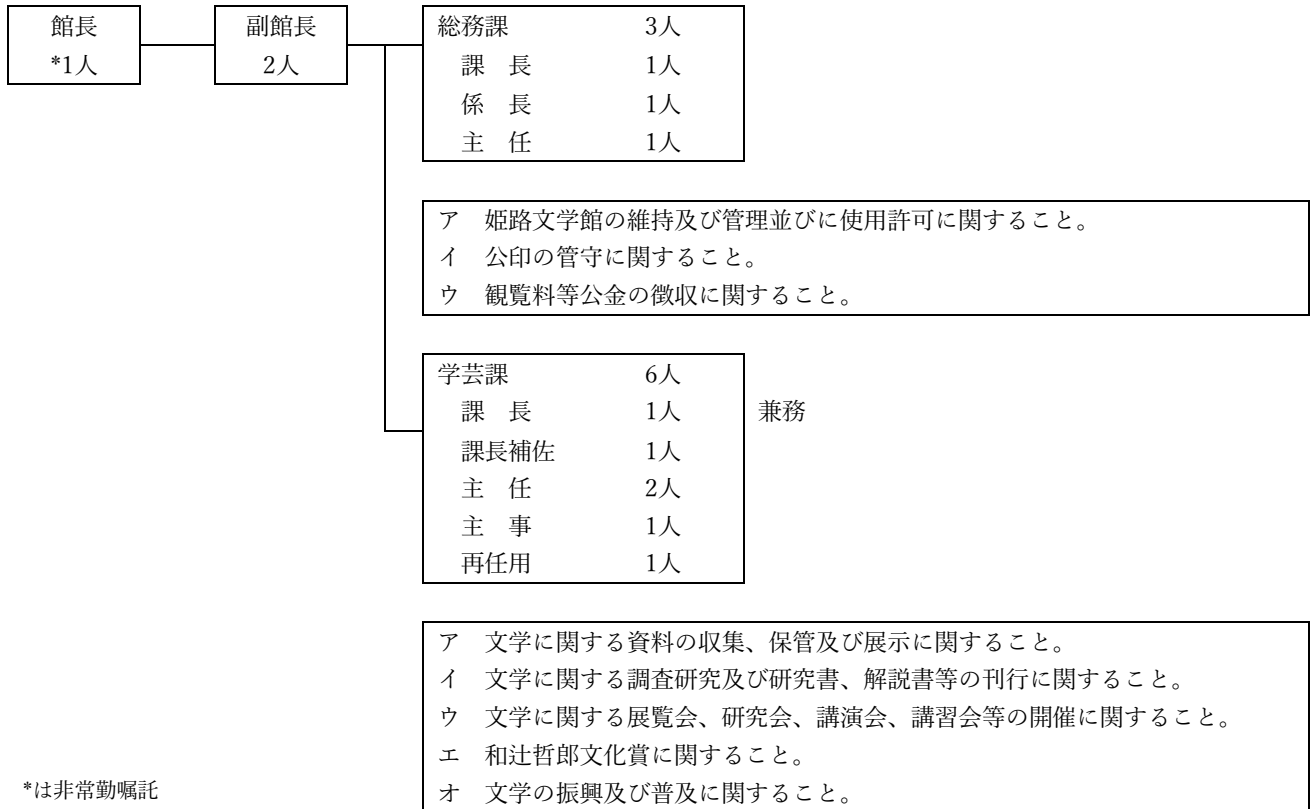
	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	冊数	金額
暗唱ノート5年	400	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	4	1,600
暗唱ノート6年	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	4	1,600
暗唱ノート基礎	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3	1,200
暗唱ノート発展	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	800
合計		0	0	0	1	0	0	0	0	0	7	4	1	13	5,200

#### 月別販売金額

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
複製本	4,570	2,070	2,500	940	11,200	6,000	4,400	2,260	10,670	7,000	11,300	8,440	71,350
図録	77,400	185,500	107,800	8,200	9,500	27,600	62,000	100,000	33,100	85,900	60,000	81,400	838,400
グッズ	250	500	250	250	750	250	0	500	0	500	0	500	3,750
暗唱ノート	0	0	0	400	0	0	0	0	0	2,800	1,600	400	5,200
計	82,220	188,070	110,550	9,790	21,450	33,850	66,400	102,760	43,770	96,200	72,900	90,740	918,700

## 2 組織および分掌事務

(令和5年3月31日現在)



## 職員名簿

(令和5年3月31日現在)

館長	藤原正彦	副館長兼学芸課課長・学芸員	甲斐史子
副館長	北野 充	課長補佐・学芸員	竹廣裕子
総務課課長	佐野奈緒美	主任・学芸員	杉田陽子
係長	蟹井真人	主任・学芸員	徳重公美
主任	上田一利	主事・学芸員	市太佐知
		学芸員	玉田克宏



### 3 予算の概要

令和4年度（2022年度）一般会計歳出予算（令和4年4月1日現在）

款	55 教育費	項	38 文化振興費	目	48 文学館費	(単位：千円)
節				説 明		
区 分		金 額				
7	報 償 費	10,331		文学館の管理運営等に要する経費		
8	旅 費	2,483		管理運営経費	96,638	
10	需 用 費	30,473		教育普及活動費	4,188	
				和辻哲郎文化賞経費	10,522	
11	役 務 費	2,474		特別企画展経費	17,500	
				資料収集経費	4,348	
12	委 託 料	81,441		施設整備事業費	0	
13	使用料及び賃借料	5,137		負担金	95	
14	工 事 請 負 費	0		（ 加入団体会費 83 ）		
				出席者負担金 12		
17	備 品 購 入 費	850				
18	負担補助金及び交付金	95				
26	公 課 費	7				
計		133,291		133,291		

令和4年度（2022年度）一般会計歳入予算（令和4年4月1日現在）

(単位：千円)

款	節	金額	説 明
使用料及び手数料	文学館使用料	1,084	文学館施設占用使用料、目的外使用料、資料複写料
	文学館目的外使用料	1,556	
	文学館特別観覧手数料	25	
財 産 収 入	復刻本等売払収入	1,506	復刻本・常設展図録・企画展図録等
諸 収 入	文学館常設展観覧料	780	山田風太郎展 とびだせ！長谷川義史展 西山松之助展 喫茶電気代等 日本文化・文学思想講座、絵本づくり等
	文学館企画展観覧料	6,800	
	文学館共益費等収入	218	
	文学館教育普及活動	1,040	
	事業参加負担金		
合 計		13,009	

## 施設の概要 (令和5年3月31日現在)

### 文学館構造・規模

敷地面積	18,003㎡
建築面積	3,157㎡
北館	1,324㎡
南館	1,360㎡
望景亭	444㎡
書斎風建物	29㎡
延床面積	6,852㎡

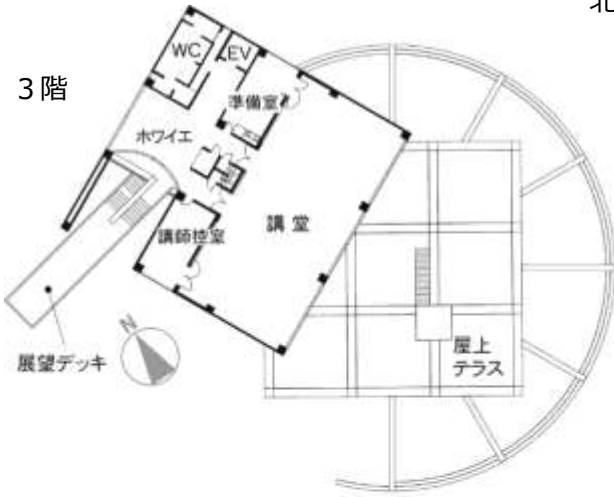
北館	鉄骨鉄筋コンクリート造	3,815 ㎡	南館	鉄筋コンクリート造	2,564 ㎡
	●地下1階	1,067 ㎡		●地下1階	1,485 ㎡
	作業室	54 ㎡		収蔵庫	117 ㎡
	ボランティア室	17 ㎡		会議室	73 ㎡
	研究室	36 ㎡		一時保管庫	36 ㎡
	撮影室	16 ㎡		駐車場	786 ㎡
	消毒室	16 ㎡		その他	473 ㎡
	収蔵庫	412 ㎡		●1階	573 ㎡
	その他	516 ㎡		司馬遼太郎記念室	99 ㎡
	●1階	1,134 ㎡		さんかくギャラリー	76 ㎡
	エントランスホール	64 ㎡		よいこのへや	47 ㎡
	姫路城歴史ものがたり回廊	277 ㎡		カフェ	81 ㎡
	ことばの森展示室	283 ㎡		その他	270 ㎡
	その他	510 ㎡		●2階	506 ㎡
	●2階	990 ㎡		図書室	96 ㎡
	企画展示室・和辻展示室	208 ㎡		事務室	80 ㎡
	特別展示室	225 ㎡		閲覧室	39 ㎡
	体験交流ひろば①	65 ㎡		その他	291 ㎡
	体験交流ひろば②	54 ㎡			
	その他	438 ㎡			
●3階	511 ㎡	望景亭	木造平屋建瓦葺	444 ㎡	
講堂	250 ㎡		和室	131 ㎡	
準備室	29 ㎡		茶室	40 ㎡	
講師控室	29 ㎡		洋間	65 ㎡	
ホワイエ	58 ㎡		その他	208 ㎡	
その他	145 ㎡				
●塔屋	113 ㎡	書斎風建物	木造平屋建瓦葺	29 ㎡	

建築費 (単位：百万円)	北館	南館
総額	2,605	2,568
建築工事	1,951	1,278
展示工事	550	429
用地費	104	861

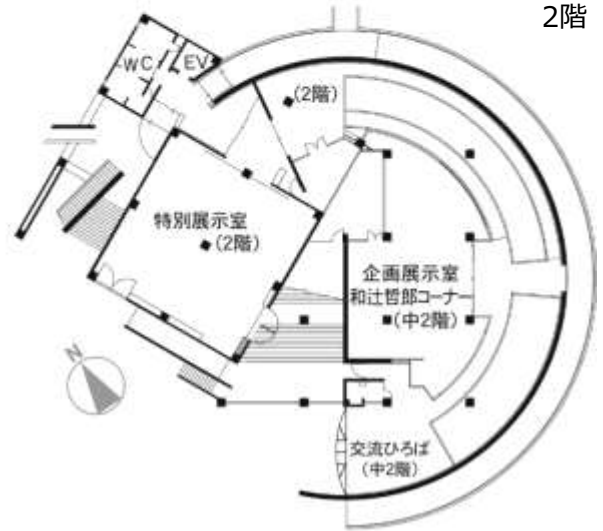
大規模施設整備費 (北館・南館・外構を同時に整備) (単位：百万円)	
総額	1,993
大規模改修工事	1,415
展示更新制作	578

北 館

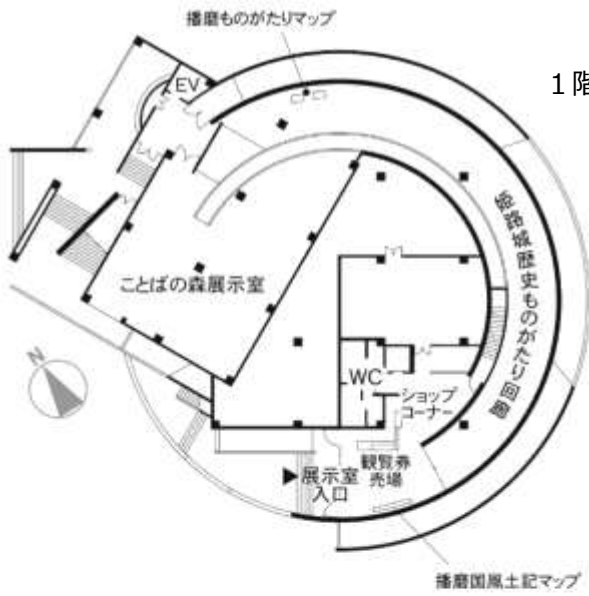
3階



2階



1階

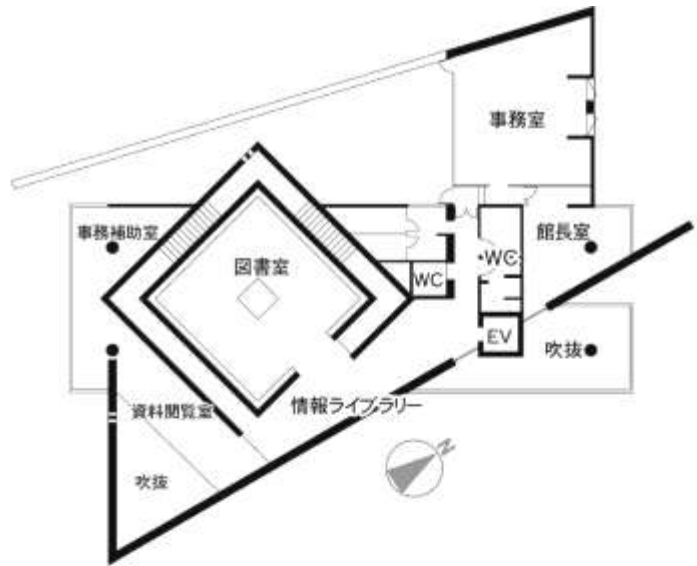


B1階

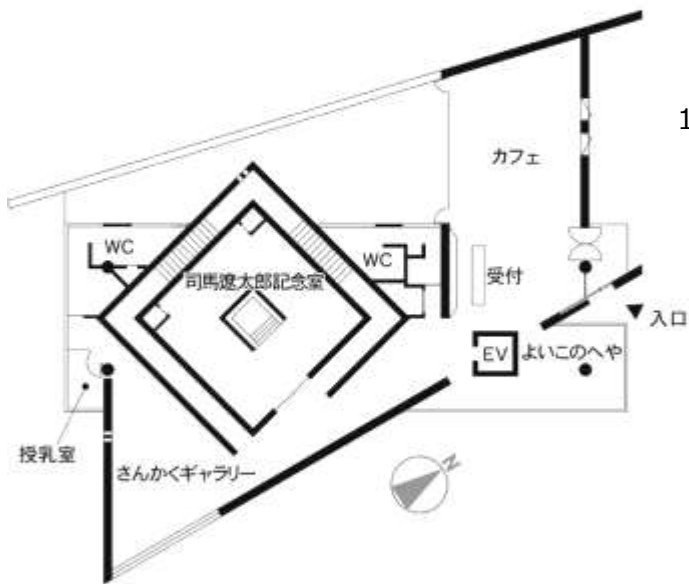


南 館

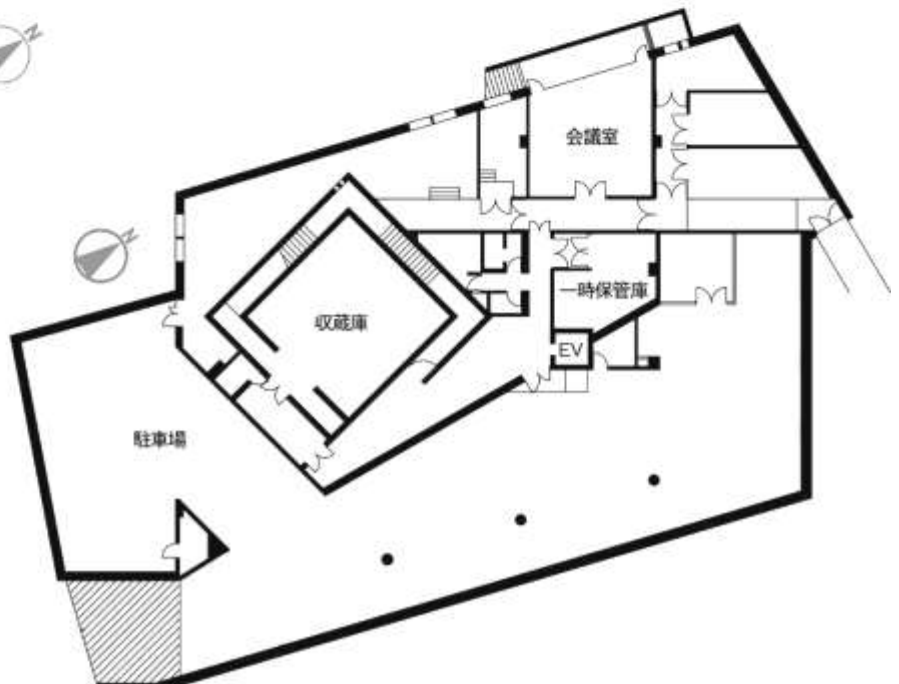
2階



1階



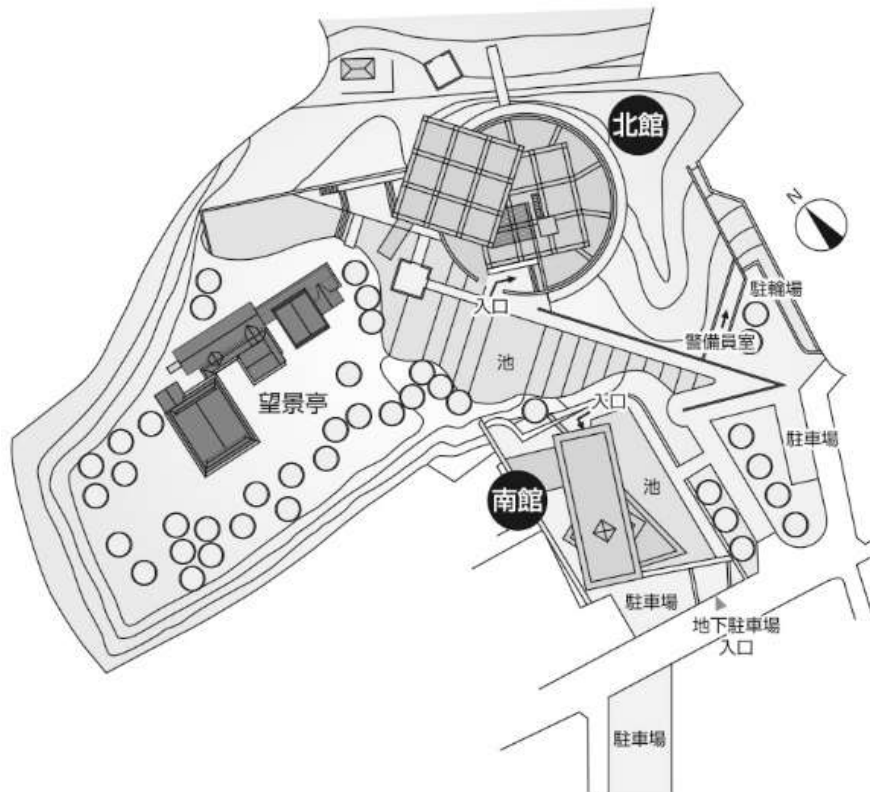
B1階



# 望景亭



# 配置図



## 日誌抄

- 4月16日 特別展「生誕100年記念 山田風太郎展」(以下、「山田風太郎展」)、同時開催「ミステリ作家たちの横顔展 in 姫路」(以下、「横顔展」)開幕(～6月5日)。  
「山田風太郎展」記念講演会「風太郎文学の奇想と普遍性」開催。講師は、茨城大学教授の谷口基氏。
- 4月23日 「横顔展」イベント「オンライントークショー」開催。出演は、綾辻行人氏・有栖川有栖氏・竹本健治氏・方丈貴恵氏。
- 4月24日 第1回姫路文学館友の会研修講座「わたしの城下町&動物園巡礼 姫路篇」実施。講師は、静岡県立美術館館長の木下直之氏。
- 5月11日 建築学生対象バックヤード見学ツアー企画モニター見学会実施。
- 5月14日 「山田風太郎展」イベント「朗読会～『戦中派虫けら日記』より～」開催。出演は、音訳ボランティアグループサークルさえずり。
- 5月17日 「山田風太郎展」見学のため、山田風太郎の親戚でシンガーの土岐麻子氏が来館。
- 5月25日 姫路文学館友の会理事会ならびに総会・記念行事開催。
- 5月31日 トライやるウィーク実施(～6月3日)。
- 6月1日 「山田風太郎展」見学のため、ミステリ評論家の日下三蔵氏が来館。
- 6月11日 第1回藤原正彦姫路文学館長講演会開催。
- 6月25日 特別展「とびだせ!長谷川義史展」(以下、「長谷川義史展」)開幕(～9月4日)。  
「長谷川義史展」イベント「長谷川義史さん絵本ライブ&サイン会」開催。出演は、長谷川義史氏。
- 7月15日 「長谷川義史展」イベント「えほんのじかん～おはなし会」開催。出演は、姫路文学館友の会ボランティア(8月20日も開催)。
- 7月23日 「長谷川義史展」イベント「長谷川義史絵本ワールド～MBS アナウンサー コトノハ朗読会」開催。出演は、松本麻衣子氏、清水麻椰氏、大村浩土氏。
- 7月30日 「世界にひとつの絵本づくり」開催。講師は成広のり子氏(8月6日も開催)。
- 8月7日 第24回司馬遼太郎メモリアル・デー開催
- 8月11日 「長谷川義史展」イベント「長谷川義史さんミニ絵本ライブ&サイン会」開催。出演は、長谷川義史氏。
- 9月10日 企画展「俳人夏石番矢のパンデミック下でのたたかひー『世界俳句』を主導してー」開幕(～10月10日)。  
第2回姫路文学館友の会研修講座「播磨史の男女考」実施。講師は、漫画家・イラストレーター・ライターの上井ミノル氏。
- 9月16日 第35回和辻哲郎文化賞(以下、和辻賞)一般部門第1回推薦会開催(於姫路・一部オンライン)。
- 9月23日 特別展「没後10年 西山松之助展—ある文人歴史家と江戸学の軌跡」(以下、「西山展」)開幕(～12月4日)。  
「西山展」記念講演会「西山松之助先生に師事して」開催。講師は、MIHO MUSEUM 館長の熊倉功夫氏。
- 9月30日 第35回和辻賞学術部門第1回推薦会開催(於東京)
- 10月1日 「西山展」イベント「朗読会「朗読で西山松之助にであう」」開催。出演は、音訳ボランティアグループサークルさえずり。
- 10月23日 「西山展」イベント「落語会「立川志ら乃・関智一とお江戸を楽しむ」」(姫路文学館友の会協賛事業)開催。出演は、立川志ら乃氏、のゝ家ちい氏(声優・関智一氏)、立川ののー氏。
- 11月12日 第35回和辻賞学術部門第2回推薦会開催(オンライン)
- 11月13日 第35回和辻賞一般部門第2回推薦会開催(於姫路・一部オンライン)
- 11月16日 姫路文学館友の会ボランティア見学研修会「秋を満喫! 相生・羅漢の里と赤穂城下散策」を実施。
- 11月20日 「西山展」イベント「琴丘高生のガイドで江戸時代にトラベル!～『江戸名所図会』『大和名所図会』をひもとく」開催。出演は、姫路市立琴丘高等学校図書部。
- 11月29日 詩人・歌人・俳人の高橋睦郎氏が、「西山展」見学のため来館。柿傳ギャラリー店主の安田尚史氏が、「西山展」見学のため来館。
- 12月3日 第35回和辻賞一般部門第3回推薦会開催(於姫路・一部オンライン)
- 12月4日 第35回和辻賞学術部門第3回推薦会開催(オンライン)
- 12月7日 姫路文学館友の会ボランティア9期生養成講座開催(全6回・～3月10日)。
- 12月14日 第2回姫路文学館友の会理事会開催。
- 12月17日 第3回姫路文学館友の会研修講座「道教思想入門—道の思想と生命観・倫理想を中心に」実施。講師は、名古屋大学名誉教授の神塚淑子氏。
- 1月14日 企画展「没後40年記念 歌人安田青風展」(以下、「青風展」)開幕(～3月26日)。  
「青風展」記念講演会「祖父安田青風を語る」開催。講師は、歌人の安田純生氏。
- 1月15日 第35回和辻賞学術部門選考委員会開催(オンライン)。
- 1月16日 第35回和辻賞一般部門選考委員会開催(於東京)。
- 1月22日 第8回藤原正彦エッセイコンクール表彰式開催。

- 2月6日 第35回和辻賞受賞作を発表。
- 2月12日 第11回KOTOBAまつりPART1「絵本朗読劇「きつねのおきやくさま」」を実施。出演は、兵庫県立姫路工業高等学校演劇部。
- 2月15日 防火訓練実施。
- 2月18日 第14回如月まつり開催（～2月19日）。  
第11回KOTOBAまつりPART2「兵庫県立大学環境人間学部 卒業設計展—未来へ繋ぐ建築」開催（～2月23日）。
- 3月5日 第35回和辻賞授賞式開催。
- 3月12日 第4回姫路文学館友の会研修講座「感染を防御する免疫のしくみ コロナウィルス感染症からの学び」実施。講師は、姫路獨協大学教授の通山由美氏。
- 3月18日 姫路文学館友の会ボランティア総会開催。

# 姫路文学館友の会

姫路文学館友の会は、文学を愛する市民が一堂に集い、さまざまな分野における学習の場に参加しながら会員相互の親睦会を深め、会員各々が自己の向上をはかっていくための組織として平成3年10月1日に発足した。

## 1 役員（令和5年5月31日現在）

会長	家永 善文			
副会長	原 誠吾			
常務理事	北野 充			
理事	石川 誠	菅原 美文	黒田美江子	鑛 隆志
	平内 節子	佐野奈緒美		
監事	内海知香子	三木 総子		

## 2 会員数（令和5年3月末日現在）

- ・ 正会員（ボランティア会員を含む） 328人  
（年会費 2,000円×321人、1,000円/下半期×17人）
- ・ 家族会員（年会費 1,000円） 17人
- ・ 学生会員（年会費 1,000円） 5人
- ・ 賛助会員（法人・団体 年会費 50,000円） 3社

## 3 令和4年度事業

### (1) 総会 5月25日（水）

- 記念行事「初夏の調べ 松本光史ピアノコンサート」  
出演：松本光史（ピアノ）

### (2) 各種講座

- ① 「万葉集」巻十を読む（全10回 講師：大森 亮尚 受講者 77人）
- ② 日本古代史（全10回 講師：菅原 美文 受講者 89人）
- ③ 文学史を彩る名作との出会い（明治編）（全10回 講師：山本 欣司 受講者 46人）

### ○研修講座

- 「わたしの城下町&動物園巡礼－姫路篇」 講師：木下 直之（4月24日 受講者 35人）
- 「播磨史の男女考」 講師：井上ミノル（9月10日 受講者 53人）
- 「道教思想入門－道の思想と生命観・倫理思想を中心に」  
講師：神塚 淑子（12月17日 受講者 58人）
- 「感染を防御する免疫のしくみ－新型コロナウイルス感染症からの学び」  
講師：通山 由美（3月12日 受講者 35人）

### (3) 新規ボランティア（9期生）養成講座

全6回 受講生：25人

### (4) 見学研修会

- ① 相生・羅漢の里と赤穂城下散策（ボランティア対象）（11月16日 参加者 21人）

※一般会員向け：新型コロナウイルス感染症拡大予防のため実施せず。

### (5) 協賛事業



- ① 特別展「没後 10 年 西山松之助展」落語会「立川志ら乃・関智一とお江戸を楽しむ」  
(10月23日 参加者 225人)

(6) 主なボランティア活動

- ① 郵便発送作業 (6回)  
 ② 各講座・諸行事の受付 (年間講座、司馬遼太郎メモリアル・デー) (60回)  
 ③ ワーキンググループ活動  
 ・展示ガイドグループ  
   勉強会 (12回)  
   常設展案内 (6回)  
   自主ガイド活動 (4回)  
 ・おすすめ展示グループ (1回)  
 ・おはなし会グループ  
   全体会議 (1回)  
   おはなし会 (12回)  
   特別展「えほんのじかん」(2回)  
 ④ その他  
 ・ボランティア全体会議  
 ・如月まつり (展示ガイド・古本市・おはなし会)

4 文学館グッズ販売事業

友の会では、姫路文学館オリジナルグッズを制作し販売しているほか、時宜に応じて姫路文学館にふさわしい物品を入荷し販売している。

オリジナルグッズ

	品 名	価 格
絵葉書	資料図版 (11 種)	各 7 0
一筆箋	北館外観 (1 種)	3 0 0
	資料図版 (2 種)	各 3 0 0
	イラスト (2 種)	各 2 0 0
メモ帳	イラスト (2 種)	各 1 0 0
ファイル	クリアファイル	3 5 0
その他	一筆便箋・メモ 4 点セット 革製ペンケース、ブックカバー、書籍等 (随時販売)	5 0 0

令和 4 年度グッズ売上合計額 125,388 円

5 資料整理業務

平成 12 年度より、姫路市からの委託を受け、継続して行っている。姫路文学館が所蔵または新たに収集する資料について、文学館の方針に従って分類整理、情報検索システムへの登録等の業務を行うもの。

(1) 受託期間 令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

(2) 業務内容

- ① 購入・寄贈図書、その他文学館資料の整理、保管、保存。

- ② 図書データ等の資料データの作成。
- ③ 情報検索システムへの登録作業。
- ④ 資料整理全般に関わる一切の業務。
- ⑤ その他、上記業務に関わる人員の雇用とそれに伴う整理・保存用品および事務用品の購入等。

(3) 雇用者数 1人

(4) 受託金額 2,423,000円

6 令和4年度決算（会計年度：令和4年4月1日～令和5年3月31日）

収 入	19,409,829円	（資料整理業務費 2,423,000円含）
支 出	9,824,868円	（資料整理業務費 2,423,000円含）
翌年度繰越金	9,584,961円	

## 沿 革

- 昭和 58 年 8 月 文化都市を目指す戸谷松司市長の方針に基づいて、「姫路市立文学資料館」の構想生まれる。  
60 年 1 月 28 日 建設構想推進委員会及び資料収集調査委員会が文学資料館基本構想を答申。  
61 年 5 月 1 日 姫路市民文化協会内に文学資料館開設準備室が発足。  
63 年 2 月 17 日 郷土の哲学者和辻哲郎の生誕 100 年を記念して文化賞を創設。  
3 月 31 日 展示基本設計完了。  
4 月 1 日 市民局の中に文学資料館開設準備室を設置。  
平成元年 3 月 31 日 建築設計完了。  
5 月 22 日 文学資料館の正式名称を「姫路文学館」に決定。  
7 月 1 日 文学資料館開設準備室が市民局から教育委員会に移る。  
9 月 9 日 起工式。  
12 月 28 日 展示実施設計完了。  
2 年 12 月 21 日 姫路文学館条例、姫路文学館条例施行規則、姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則を制定。  
12 月 28 日 建築工事完了。  
3 年 1 月 31 日 展示工事完了。  
3 月 27 日 竣工式。  
4 月 1 日 開館。中西進氏、初代館長に就任。  
6 月 28 日 兵庫県が創設した「第 1 回さわやか街づくり賞」建築部門を受賞。  
7 月 11 日 建設省制定の「手づくり郷土賞」素材部門を受賞。  
10 月 1 日 姫路文学館友の会発足。  
4 年 3 月 26 日 姫路文学館条例の改正。4 月 1 日施行。  
5 年 3 月 25 日 姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。  
4 月 23 日 姫路文学館施設整備検討委員会が施設整備基本構想を答申（別館建設を提案）。  
6 年 3 月 4 日 入館者 10 万人達成。  
3 月 18 日 別館展示設計及び建築設計完了。  
10 月 19 日 別館起工式。  
7 年 10 月 31 日 別館建築工事完了。  
8 年 3 月 18 日 別館展示工事完了。  
3 月 26 日 姫路文学館条例の改正。5 月 25 日施行。  
4 月 1 日 姫路市教育委員会行政組織規則の改正、総務課、学芸課の 2 課制となる。  
館の名称変更（本館を北館に、別館を南館に）。  
5 月 24 日 南館竣工式。  
5 月 25 日 南館開館。司馬遼太郎記念室を設置。  
7 月 4 日 姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。同日施行。  
9 年 3 月 31 日 姫路文学館条例の改正。4 月 1 日施行。  
5 月 31 日 中西進館長退任。  
6 月 1 日 上田正昭氏、第 2 代館長に就任。  
10 年 3 月 20 日 姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。  
13 年 8 月 28 日 姫路文学館条例施行規則の改正。同日施行。  
14 年 6 月 10 日 姫路文学館公式ホームページ開設。  
17 年 2 月 25 日 和辻哲郎文化賞展示コーナーを設置。  
19 年 3 月 28 日 姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。  
20 年 7 月 23 日 博物館法第 10 条の規定による登録博物館となる。  
21 年 8 月 7 日 望景亭が国登録有形文化財となる。  
23 年 2 月 3 日 姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。3 月 1 日施行。  
26 年 3 月 31 日 上田正昭館長退任。  
4 月 1 日 藤原正彦氏、第 3 代館長に就任。  
27 年 6 月 23 日 姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。7 月 1 日施行。  
7 月 16 日 北館、南館の大規模改修工事及び展示更新制作開始。  
28 年 6 月 24 日 姫路文学館条例の改正。7 月 30 日施行。  
7 月 30 日 北館、南館のリニューアル開館。  
29 年 3 月 29 日 姫路文学館条例の改正。7 月 1 日施行。  
30 年 12 月 26 日 姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。  
31 年 3 月 27 日 姫路文学館条例の改正。10 月 1 日施行。  
姫路文学館条例施行規則の改正。10 月 1 日施行。  
令和 2 年 3 月 5 日 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、臨時休館措置を開始（～5 月 31 日）。  
3 年 4 月 25 日 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、臨時休館措置を開始（～5 月 11 日）。

- 12月22日 姫路文学館条例の改正。4月1日施行。
- 4年3月29日 姫路文学館条例施行規則（教育委員会規則）廃止及び姫路文学館条例施行規則（姫路市規則）制定。4月1日施行。
- 4月1日 教育委員会より観光スポーツ局へ移管。

# 条例規則集

## ○姫路文学館条例

平成2年12月21日

条例第32号

改正 平成4年3月26日条例第4号

平成8年3月26日条例第26号

平成9年3月31日条例第3号

平成28年6月24日条例第52号

平成29年3月28日条例第34号

平成31年3月27日条例第61号

令和3年12月22日条例第55号

(設置)

**第1条** 郷土ゆかりの文学者を顕彰するとともに、文学に関する市民の知識及び教養の高揚を図るため、姫路文学館（以下「文学館」という。）を設置する。

(施設の位置)

**第2条** 文学館の位置は、次のとおりとする。

姫路市山野井町84番地

(事業)

**第3条** 文学館は、第1条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 郷土ゆかりの文学者の文学作品及びその作者又は作品に関する資料を収集し、保管し、又は展示すること。
- (2) 郷土を題材とした文学作品及びこれに関する資料を収集し、保管し、又は展示すること。
- (3) 前2号に規定する作品、作者及び資料に関する調査及び研究を行うこと。
- (4) 文学に関する講演会、講習会、講座等を開催し、及びその奨励を行うこと。
- (5) 文学に関する研究書、解説書等を作成し、刊行すること。
- (6) 文学及び学芸に関する集会並びに展示のために文学館の施設を提供すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、文学館の目的を達成するため必要な事業を行うこと。

(職員)

**第4条** 文学館に、館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(観覧料)

**第5条** 文学館が展示する文学作品及び資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料（消費

税及び地方消費税相当額を含む。以下同じ。）を納付しなければならない。

2 前項の規定により特別展示観覧に係る観覧料を納付した者が、当該特別展示観覧の期間中において常設展示観覧をする場合にあつては、市長は、当該期間中において1回に限り、当該者の常設展示観覧に係る観覧料を徴収しないことができる。

(特別観覧許可及び特別観覧料)

**第6条** 文学館が保管し、又は展示する文学作品及び資料（以下「文学館資料」という。）を研究のために熟覧し、複写し、又は撮影しようとする者は、市長の許可を受け、1点1回につき2,090円（消費税及び地方消費税相当額を含む。）の範囲内で市長が規則で定める額の特別観覧料を納付しなければならない。

(占用使用許可及び占用使用料)

**第7条** 別表第2に掲げる文学館の施設を占用して使用しようとする者は、市長の許可を受け、同表に定める占用使用料（消費税及び地方消費税相当額を含む。以下同じ。）を納付しなければならない。

(使用の制限)

**第8条** 次の各号のいずれかに該当するときは、前2条の許可（以下「使用許可」という。）をしない。

- (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認めるとき。
- (2) 文学館の設置の目的に反する使用をし、又はそのおそれがあると認めるとき。
- (3) 文学館の施設又は文学館資料を損傷するおそれがあるとき。
- (4) 文学館の管理に支障があると認めるとき。
- (5) その他市長が不相当と認めるとき。

(許可の条件)

**第9条** 市長は、使用許可に際し、必要な条件を付することができる。

(譲渡及び転貸の禁止)

**第10条** 使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

(許可の変更等)

**第11条** 市長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、使用者に対して、その使用許可の変更若しくは使用の停止を命じ、又はその使用許可を取り消すこと

ができる。この場合において使用者に生じた損害については、市長はその責めを負わない。

(1) 使用者が、この条例若しくはこれに基づく規則又は使用許可条件に違反して文学館の施設又は文学館資料を使用したとき、又は使用しようとするとき。

(2) 使用者が、偽りその他不正の手段により使用許可を受けたとき。

(3) 災害その他不可抗力によって使用させることができなくなったとき、又は使用させることが不適当と認められるとき。

(4) 前各号に定めるもののほか、市長が、公用、保安又は管理上の都合により特に必要と認めるとき。  
(観覧料等の減免)

**第12条** 市長は、公益上必要と認めるときは、第5条第1項に規定する観覧料、第6条に規定する特別観覧料及び第7条に規定する占用使用料を減額し、又は免除することができる。

(観覧料等の還付)

**第13条** 既納の観覧料、特別観覧料及び占用使用料は、還付しない。ただし、第11条第3号若しくは第4号に該当するとき、又は市長がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

(特別の設備)

**第14条** 使用者は、特別な設備をしようとするときは、あらかじめ市長の許可を受けなければならない。

2 市長は、管理上必要と認めるときは、使用者の負担において必要な設備をさせることができる。

3 使用者は、前2項に規定する設備をしたときは、使用許可期間満了までにこれを撤去し、原状に復さなければならない。

(秩序維持)

**第15条** 何人も、文学館において次に掲げる行為をしてはならない。

(1) 文学館の施設及び文学館資料を汚損し、損傷し、又は亡失すること。

(2) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる行為をし、又はこれらのおそれがある物品若しくは動物の類を携帯すること。

(3) 許可なくして展示された文学館資料に触れること。

(4) 許可なくして模写、模造、撮影等を行うこと。

(5) 許可なくして物品の販売、宣伝その他営利行為を行うこと。

(6) 許可なくして印刷物、ポスター等を配布し、又は掲示すること。

(7) 所定の場所以外の場所において飲食し、喫煙し、その他火気を使用すること。

(8) 前各号に定めるもののほか、文学館の管理に支障がある行為をすること。

(入館の拒否、退館命令等)

**第16条** 市長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、文学館への入館を拒否し、退館を命じ、又はその他必要な措置をとることができる。

(1) 前条の規定に違反する行為をし、又はしようとする者

(2) 前号に定めるもののほか、文学館の管理上の必要な指示に従わない者

(損害の賠償)

**第17条** 文学館の施設及び文学館資料を汚損し、損傷し、又は亡失した者及び第14条第3項に規定する義務を履行しない者は、市長の認定額の損害を賠償しなければならない。

(補則)

**第18条** この条例の施行について必要な事項は、規則で定める。

**附 則**

この条例は、市長が告示で定める日から施行する。ただし、第7条から第14条まで及び別表第2の規定は、平成3年1月4日から施行する。

(平成3年3月14日告示第30号で平成3年4月1日から施行)

**附 則** (平成4年3月26日条例第4号)

この条例は、平成4年4月1日から施行する。

**附 則** (平成8年3月26日条例第26号)

この条例は、平成8年5月25日から施行する。

**附 則** (平成9年3月31日条例第3号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

**附 則** (平成28年6月24日条例第52号)

この条例は、平成28年7月30日から施行する。ただし、第3条第1号及び第2号、第6条、第8条、第11条、第12条(「減額」を「減額し、」に改める部分に限る。)、第15条から第17条まで並びに別表第2備考第3項の改正規定は、公布の日から施行する。

**附 則** (平成29年3月28日条例第34号)

この条例は、平成29年7月1日から施行する。

附 則（平成31年3月27日条例第61号）

この条例は、平成31年10月1日から施行する。

附 則（令和3年12月22日条例第55号）

（施行期日）

1 この条例は、令和4年4月1日から施行する。

別表第1（第5条関係）

観覧料

区 分		金額（1人につき）	
		個人	20人以上の 団 体
常設展示観覧	一般	円 310	円 240
	大学生 ・高校生	210	160
	中学生 ・小学生	100	80
特別展示観覧		2,000円以内で市長が定める額	

備考

- 1 常設展示観覧とは、文学館が平常的に展示する文学作品及び資料の観覧をいい、特別展示観覧とは、文学館が主催して特別に展示する文学作品及び資料の観覧をいう。
- 2 一般とは、大学生・高校生及び中学生・小学生以外の者で15歳以上のものをいい、大学生・高校生とは、大学、高等専門学校、高等学校、専修学校、各種学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

別表第2（第7条関係）

施設占有使用料

使用時間 使用施設	1日	午前	午後
	午前9時から 午後5時まで	午前9時から 正午まで	午後1時から 午後5時まで
特別展示室	円 7,330	円 3,160	円 4,170
講堂	7,330	3,160	4,170
和室	7,330	3,160	4,170
茶室	5,190	2,130	3,160
洋間	7,330	3,160	4,170
さんかく ギャラリー	7,330	3,160	4,170

備考

- 1 使用者が入場料又は入場料に類するものを徴収する場合における使用料は、使用区分に係る使用料の額に、当該使用料の10割に相当する額を加えた額とする。
- 2 特別展示室を展示の準備又は片付けのために使用するときの使用料は、使用区分に係る使用料の額（前項に該当するときは、その割増料金を加算した額）の5割相当額とする。
- 3 使用許可時間を超過し、又は時間を早めに使用する場合の超過時間に係る使用料は、所定の使用料（前各項のいずれかに該当するときは、当該各項により計算された額）を基礎として、それぞれの料金表の使用時間の区分ごとに1時間当たりの算出料金（使用料に定めのない時間帯にあっては、当初使用許可を受けた時間区分に係る1時間当たりの算出料金）に超過時間を乗じた額の合計額とする。この場合において、超過時間の計算は、1時間未満のときはこれを1時間とし、1時間を超える場合で1時間に満たない端数時間があるときはその端数時間は1時間として計算する。
- 4 前項における使用料の算定において、算出した使用料の合計額に10円未満の端数が生じたときは、これを切り捨てる。

○姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則

平成2年12月21日

規則第57号

改正 平成 5年 3月25日規則第10号  
平成 8年 7月 4日規則第61号  
平成 10年 3月20日規則第23号  
平成 19年 3月28日規則第15号  
平成 23年 2月 3日規則第6号  
平成 27年 6月23日規則第60号  
平成 29年12月19日規則第59号  
平成 30年12月26日規則第60号

（趣旨）

第1条 この規則は、姫路文学館条例（平成2年姫路市

条例第32号。以下「条例」という。)第12条の規定による観覧料、特別観覧料及び占用使用料(以下「観覧料等」という。)の減免並びに条例第13条のただし書の規定による観覧料等の還付に関し必要な事項を定めるものとする。

(観覧料等の減免)

**第2条** 条例第12条の規定により、観覧料等を減免することができる場合及びその額は、次に定めるところによる。

(1) 療育手帳、精神障害者保健福祉手帳又は身体障害者手帳の交付を受けた者(以下「障害者」という。)及び当該障害者の介護者が観覧するとき 常設展示観覧料の全額及び特別展示観覧料の半額

(2) 市内に居住する65歳以上の者が観覧するとき 常設展示観覧料の全額

(3) 市内及び連携中枢都市圏構想推進要綱(平成26年8月25日付け総行市第200号総務省自治行政局長通知)に基づく連携協約市町の学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する小学校、中学校、義務教育学校及び特別支援学校の生徒又は児童並びにその引率者が学校行事として観覧するとき 常設展示観覧料の全額

(4) 使用者が市と共同で占用使用するとき 占用使用料の5割に相当する額

(5) 市が使用するとき 占用使用料の全額

(6) 前各号に定めるもののほか、市長が特別の理由があると認めるとき 観覧料等の額のうち市長が相当と認める額

2 前項の規定により観覧料等の減免を受けようとする者は、前項第1号及び第2号の規定により減免を受けようとする者にとっては、当該減免事由を証する手帳等を提示し、同項第3号の規定により減免を受けようとする者にとっては、文学館観覧料等減免申請書を提出し、同項第4号又は第5号の規定により減免を受けようとする者にとっては、文学館施設占用使用許可申請書の該当欄にその旨を記載しなければならない。

(観覧料等の還付)

**第3条** 条例第13条ただし書の規定により観覧料等を還付することができる場合及びその額は次に定めるところによる。

(1) 条例第11条第3号又は第4号に該当するとき 既納観覧料等の全額

(2) 災害その他不可抗力による事由により使用でき

なかったとき 既納の占用使用料の全額

(3) 占用使用を中止しようとする者から次に掲げる期日までに正当な理由により使用中止届があった場合

ア 使用期日前2月までの場合 既納の占用使用料の8割に相当する額

イ 使用期日前1月までの場合 既納の占用使用料の5割に相当する額

2 前項の規定により観覧料等の還付を受けようとする者は、文学館観覧料等還付申請書を市長に提出しなければならない。

(補則)

**第4条** この規則の運用に関し必要な事項は、別に定める。

**附 則**

この規則は、平成3年1月4日から施行する。

**附 則**(平成5年3月25日規則第10号)

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

**附 則**(平成8年7月4日規則第61号)

この規則は、公布の日から施行する。

**附 則**(平成10年3月20日規則第23号)

1 この規則は、平成10年4月1日から施行する。

2 この規則による改正後の姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則第3条第1項の規定は、この規則の施行の日以後に申請のあった使用許可に係る使用料の還付について適用し、同日前に申請のあった使用許可に係る使用料の還付については、なお従前の例による。

**附 則**(平成19年3月28日規則第15号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

**附 則**(平成23年2月3日規則第6号)

この規則は、平成23年3月1日から施行する。

**附 則**(平成27年6月23日規則第60号)

この規則は、平成27年7月1日から施行する。

**附 則**(平成29年12月19日規則第59号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

**附 則**(平成30年12月26日規則第60号)

(施行期日)

1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則による改正後の規定は、この規則の施行の日以後にされた申請に基づく使用許可に係る使用料、占用使用料又は特別展示室使用料(以下「使用料等」



という。)について適用し、同日前にされた申請に基づく使用許可に係る使用料等については、なお従前の例による。

## ○姫路文学館条例施行規則

令和4年3月29日  
規則第12号

(趣旨)

**第1条** この規則は、姫路文学館条例(平成2年姫路市条例第32号。以下「条例」という。)の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

**第2条** 文学館の開館時間は、次に掲げる施設の区分に応じ、当該各号に定める時間とする。

(1) 北館及び望景亭 午前10時から午後5時まで。  
ただし、条例第7条の許可を受けて条例別表第2に掲げる施設を使用する場合は、午前9時から午後5時まで

(2) 南館の開館時間 午前9時から午後5時まで

2 前項の開館時間は、市長が必要と認めるときは、これを変更することができる。

(休館日)

**第3条** 文学館の休館日は、次に掲げるとおりとする。ただし、市長が必要と認める場合は、これを変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

(1) 月曜日。ただし、月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日にあたるときは、その翌日(月曜日を含んで連続した休日がある場合においては、当該連続した休日の最後の日の翌日)とする。

(2) 12月25日から翌年1月5日まで

(観覧料等の納付)

**第4条** 条例第5条に規定する観覧料、条例第6条に規定する特別観覧料及び条例第7条に規定する占用使用料は前納しなければならない。ただし、旅行業法(昭和27年法律第239号)第3条に規定する者で市長が指定した者(以下「旅行者」という。)が取り扱う観覧料、市長が特別な事由があると認める特別観覧料及び国、地方公共団体又は公共的団体が使用する場合の占用使用料は、この限りでない。

2 第11条の規定による使用時間の延長の許可を受けて使用する場合の当該使用時間延長に係る占用使用料は、使用終了後直ちに納付しなければならない。

(観覧券の交付)

**第5条** 条例第5条の規定により観覧料を納付した者に対しては、納付と同時に観覧券を交付するものとする。

2 観覧券の種類は、次のとおりとする。

(1) 個人観覧券

(2) 団体観覧券

(3) 前売観覧券

3 文学館の観覧の取扱いを旅行者に委任した者については、当該旅行者が観覧券に代わるものとして発行するものの提出をもって条例第5条に規定する観覧料の納付があったものとみなす。

4 観覧券の交付は、閉館時間の30分前までとする。

(特別観覧許可の申請)

**第6条** 条例第6条の許可を受けようとする者は、あらかじめ文学館資料特別観覧申請書を市長へ提出しなければならない。

2 市長は条例第6条の許可をしたときは、当該申請者に文学館資料特別観覧許可書を交付するものとする。

3 条例第6条の許可を受けた者は、熟覧、複写又は撮影に際し、文学館資料特別観覧許可書を携帯し、文学館の職員の要求があったときは、これを提示しなければならない。

(特別観覧料)

**第7条** 条例第6条の規定により市長が規則で定める特別観覧料は、別表のとおりとする。

(占用使用許可等の申請)

**第8条** 条例第7条の規定により市長の許可を受けようとする者(以下「申請者」という。)は、あらかじめ文学館施設占用使用許可申請書(以下「申請書」という。)を市長に提出しなければならない。

2 前項の申請書は、使用しようとする日(以下「使用期日」という。)の属する月の3か月前の月の初日から使用期日の3日前までに提出しなければならない。ただし、市長が特別な理由があると認めるときは、この限りでない。

3 前項の規定にかかわらず、特別展示室を使用しようとする者は、次の各号に掲げる使用期日の区分に応じ、当該各号に定める期間内に第1項の申請書を提出することができる。ただし、市長が特別な理由があると

認めるときは、この限りでない。

- (1) 使用期日が1月6日から3月31日である場合  
当該使用期日の属する年の前々年の10月1日から  
当該使用期日の3日前まで
- (2) 使用期日が4月1日から9月30日である場合  
当該使用期日の属する年の前年の4月1日から当  
該使用期日の3日前まで
- (3) 使用期日が10月1日から12月24日である場合  
当該使用期日の属する年の前年の10月1日から当  
該使用期日の3日前まで  
(占用使用許可書の交付)

**第9条** 市長は、条例第7条の許可をしたときは、申請者に文学館施設占用使用許可書を交付するものとする。

2 条例第7条の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、文学館の施設の使用に際し、文学館施設占用使用許可書を携帯し、文学館の職員の要求があったときは、これを提示しなければならない。

(使用期間等)

**第10条** 特別展示室の使用期間は、毎週火曜日から起算して6日間を1単位とする。ただし、市長が必要と認めるときは、この限りでない。

(使用時間の延長)

**第11条** 使用者は、やむを得ない理由により当該許可に係る使用時間を超過し、又は時間を早めに使用する必要があるときは、あらかじめ市長の許可を受けなければならない。

(使用中止届)

**第12条** 占用使用を中止しようとする者は、文学館施設占用使用中止届に使用許可書を添えて市長に提出しなければならない。

(収集の基準)

**第13条** 条例第6条に規定する文学館資料（以下「文学館資料」という。）の収集は、次に掲げる文学作品及び資料（以下「資料」という。）について行うものとする。

- (1) 郷土ゆかりの文学者の文学作品及びその作者又は作品に関する資料
- (2) 郷土を題材とした文学作品及びこれに関する資料
- (3) 前2号に掲げるもののほか、文学館の目的を達成するために必要な資料

(収集の方法)

**第14条** 資料の収集は、購入、受贈若しくは受託又は借用により行うものとする。

(資料の購入)

**第15条** 資料を購入するときは、必要に応じ、当該資料の文学的価値及び価格の妥当性等について学識経験者の意見を聴くものとする。

(資料の寄贈)

**第16条** 文学館に資料を寄贈しようとする者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

2 市長は、前項の申出があったときは、必要に応じ、当該資料の文学的価値について学識経験者の意見を聴くものとする。

3 市長は、第1項の規定により寄贈を承諾した資料の引渡しを受けたときは、文学館資料受領書を寄贈者に交付するものとする。

4 前3項の規定にかかわらず、軽易なものについては、これらの規定を適用しないことができる。

(資料の寄託)

**第17条** 文学館に資料を寄託しようとする者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

2 市長は、前項の申出があったときは、必要に応じ、当該資料の文学的価値について学識経験者の意見を聴くものとする。

(資料の寄託の期間及び返還)

**第18条** 資料の寄託の期間は、3年とする。ただし、寄託者との協議により、この期間を変更することができる。

2 寄託者は、寄託の期間中であっても、返還を希望する日の60日前に寄託資料返還申出書を提出して寄託した資料の返還を受けることができる。

(寄託を受けた資料の取扱い)

**第19条** 市長は、寄託者の同意を得て、寄託を受けた資料（以下「寄託資料」という。）を展覧若しくは特別観覧に供し、その複製物を公刊し、又は頒布することができる。

2 市長は、寄託資料のうち補修が必要なものについては、寄託者の同意を得て補修することができる。

(資料の借用)

**第20条** 市長は、資料を借用するときは、その所有者に資料借用書を交付し、その控えを保管するものとする。

(資料の貸出し)

**第21条** 文学館資料の貸出しを受けようとする者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

2 市長は、前項の規定による申出者が次の各号のいずれかに該当し、かつ、貸出しの目的が文学、歴史、芸術等に関する教養の高揚、調査研究等に資するとともに、当該貸出しが文学館の業務に支障がないと認められるときは、貸出しの承諾をすることができる。

(1) 国又は地方公共団体が設置する文学館、博物館又はこれらに類する施設の長

(2) 前号に規定する施設以外の施設で、博物館法(昭和26年法律第285号)第10条の規定による登録を受けた博物館又は同法第29条の規定により博物館に相当する施設として文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定を受けた施設の長

(3) 公共性を有する報道機関が企画主催する文学展等の場合の主催者

(4) 前3号に掲げるもののほか、市長が適当と認めた者

(貸出しの制限)

**第22条** 市長は、文学館資料のうち次に掲げるものについては、貸出しをしない。

(1) 文学館資料の保存上、貸出しをすることが望ましくない資料

(2) 未整理の資料

(3) 寄贈者、寄託者等の文学館資料の提供者から、あらかじめ貸出しの制限を求められている資料

(4) 前3号に掲げるもののほか、市長が特に貸出しを制限する必要があると認めた資料

(貸出しの期間)

**第23条** 文学館資料の貸出し期間は、60日以内とする。

ただし、市長が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(寄託資料の貸出し)

**第24条** 市長は、寄託者の同意を得て寄託資料の貸出しをすることができる。

2 寄託資料の貸出しについては、前3条の規定を準用する。

(文学館資料の翻刻)

**第25条** 文学館資料の翻刻を行う者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

2 市長は、前項の承諾に際して必要と認める条件を付すことができる。

(翻刻の制限)

**第26条** 市長は、文学館資料のうち次に掲げるものについては、翻刻の承諾をしない。

(1) 未整理の資料

(2) 寄贈者、寄託者等の原資料の提供者から、あらかじめ翻刻の制限を求められている資料

(3) 前2号に掲げるもののほか、市長が、特に翻刻を制限する必要があると認めた資料

(文学館資料の熟覧)

**第27条** 文学館資料の熟覧は、次に定めるところにより行うものとする。

(1) 熟覧は、文学館内の所定の場所で、文学館の職員の立会いのもとで行うものとする。

(2) 文学者の自筆の資料の熟覧については、複写等により二次資料が作成されている場合は、二次資料によって行うものとする。

(文学館資料の複写)

**第28条** 文学館資料の複写は、次に定めるところにより行うものとする。

(1) 複写は、文学館内の所定の場所で、文学館の職員の立会いのもとで行うものとする。

(2) 文学館資料を複写する者は、著作権法(昭和45年法律第48号)を遵守し、著作権に係る問題が生じた場合は、全ての責めを負うものとする。

2 市長は、前項各号に定めるもののほか、複写に関し必要と認める条件を付すことができる。

(文学館資料の撮影)

**第29条** 文学館資料の撮影については、前条の規定を準用する。

(熟覧、複写及び撮影の制限)

**第30条** 前3条に定めるもののほか、文学館資料の熟覧、複写及び撮影については、第22条の規定を準用する。

(補則)

**第31条** この規則に定めるもののほか、文学館の管理に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

別表(第7条関係)

特別観覧料

区 分		特別観覧料 (1点1回につき)
複 写	電子複写機による	20円
撮 影	新規撮影〔学術用〕	210円
	新規撮影〔その他〕	2,090円
	フィルム貸出し・データ提供 〔学術用〕	100円
	フィルム貸出し・データ提供 〔その他〕	1,040円

## ○和辻哲郎文化賞規則

昭和63年5月17日

規則第29号

(目的)

**第1条** この規則は、和辻哲郎の日本文化に関する幅広い活動を顕彰し、かつ市民の文化水準の向上に資するため、日本文化に関する優れた著作物に対し、和辻哲郎文化賞（以下「文化賞」という。）を贈与することを目的とする。

(贈与)

**第2条** 文化賞の贈与は、記章、賞状及び賞金とする。

2 文化賞の贈与は、毎年3月に行う。

(選考委員)

**第3条** 文化賞の選考は、文化賞選考委員（以下「選考委員」という。）の協議により決定する。

2 選考委員は、日本文化に関し、卓越した見識を有する者のうちから市長が委嘱する。

(選考基準)

**第4条** 文化賞の選考の対象となる著作物は、毎年9月1日を基準日とし、同日前1年以内に発表されたもので、次の各号に定めるものとする。

(1) 一般部門 日本文化、伝統文化、風土と人間生活との関連等に関するもので和辻の研究業績に共鳴する評論

(2) 学術部門 哲学、倫理学に関するもので高い水準に達した学術論文

(補則)

**第5条** この規則の施行に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

この規則は、昭和63年7月1日から施行する。

## 利用案内

- 開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日・休日の翌日（土・日・休日を除く）  
年末年始

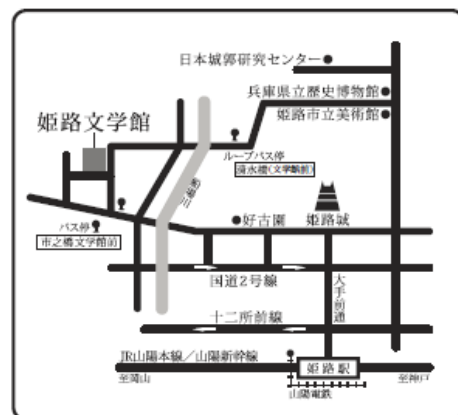
- 観覧料

区 分		金 額	
		個 人	20人以上の 団 体
常設展示	一 般	310円	240円
	大学生・高校生	210円	160円
	中学生・小学生	100円	80円
特別展示は別料金となります。			

- アクセス JR・山陽姫路駅前から  
神姫バス9・10・17・18番のりばで乗車6分、  
「市之橋文学館前」下車、北へ徒歩4分  
※上記乗り場から発車するバスにも「市之橋文学館前」に止まらないものがありますので、  
確認のうえご乗車ください。

6番のりばで城周辺観光ループバス乗車10分、  
「清水橋（文学館前）」下車、西へ徒歩3分

- 問い合わせ 姫路文学館  
〒670-0021 姫路市山野井町84番地  
TEL (079)293-8228 FAX (079)298-2533  
e-mail : kyo-bungaku@city.himeji.lg.jp  
<http://www.himejibungakukan.jp/>



### 姫路文学館年報 第31号（令和4年度）

編集・発行 姫路文学館  
〒670-0021 姫路市山野井町84番地  
TEL (079) 293-8228  
FAX (079) 298-2533

令和5年（2023年）9月1日